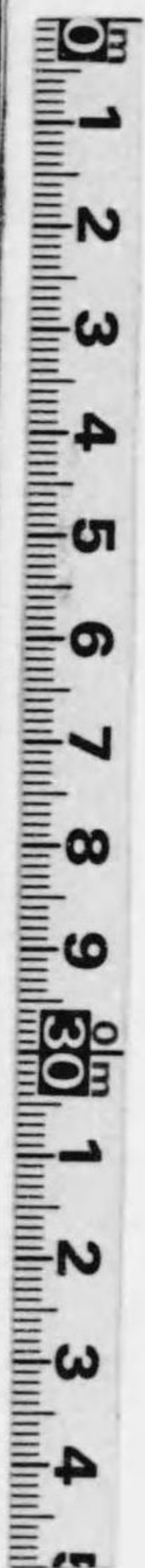


333

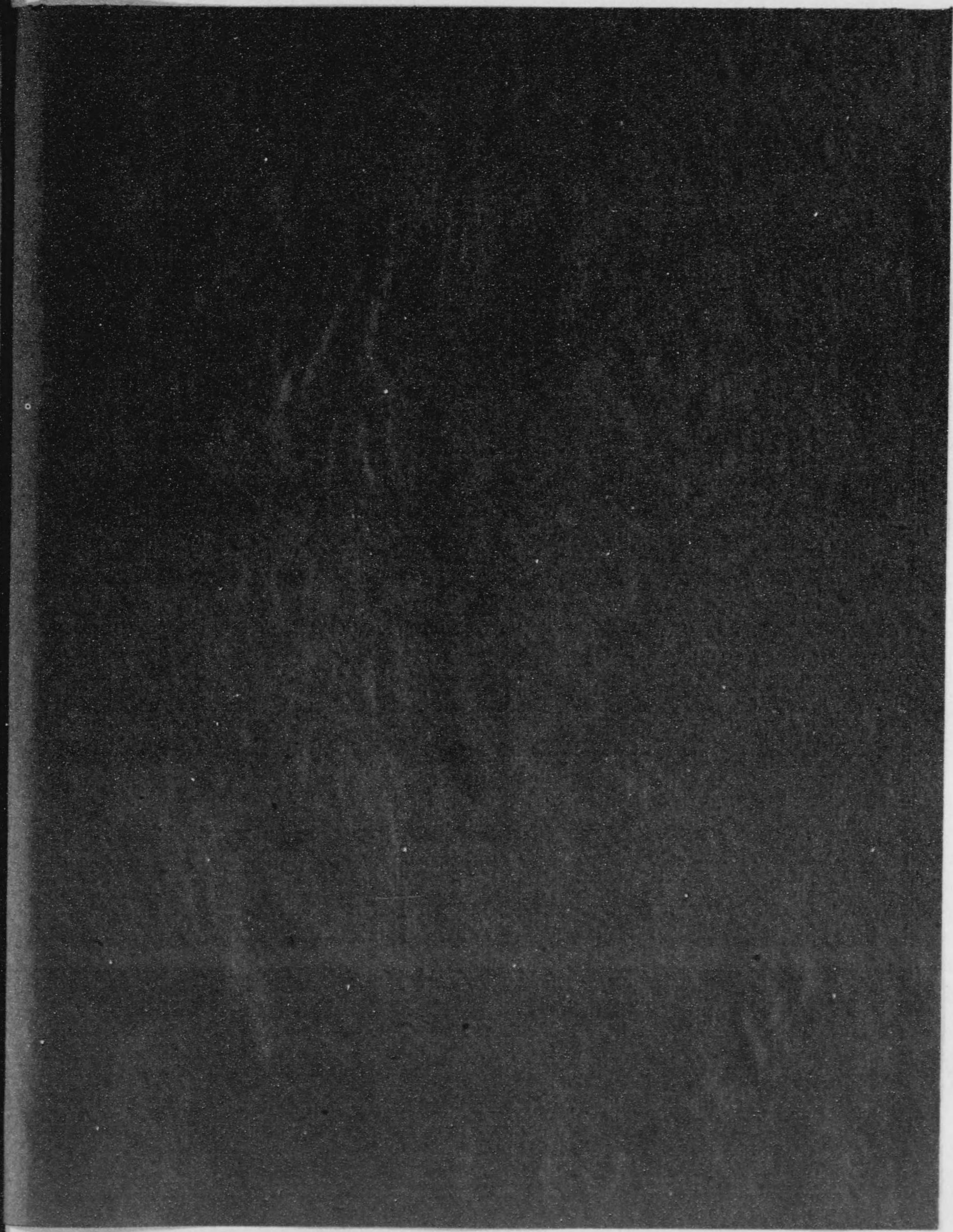
67



始



茶の園

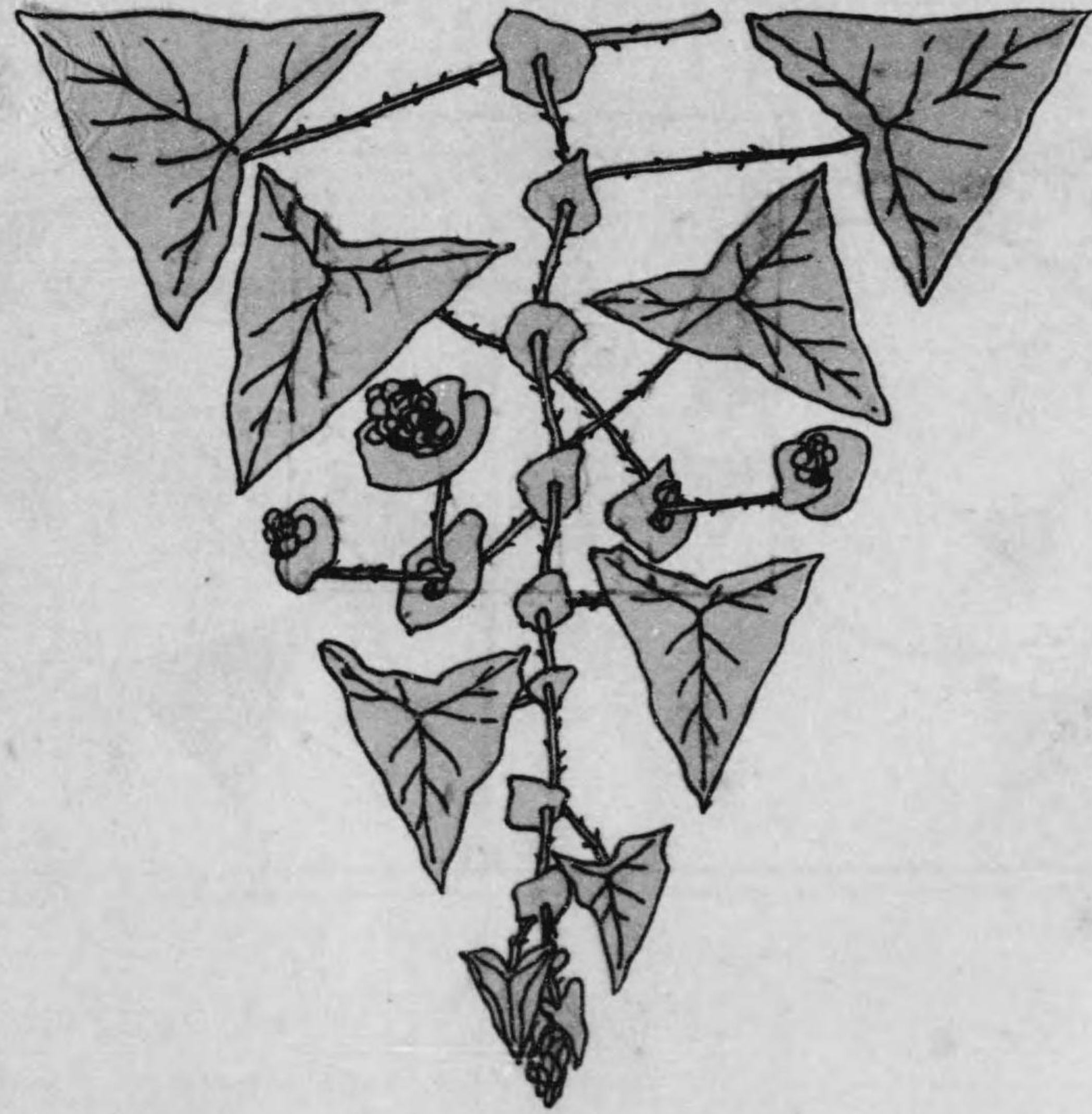


333-67

# 七ぼしの園案

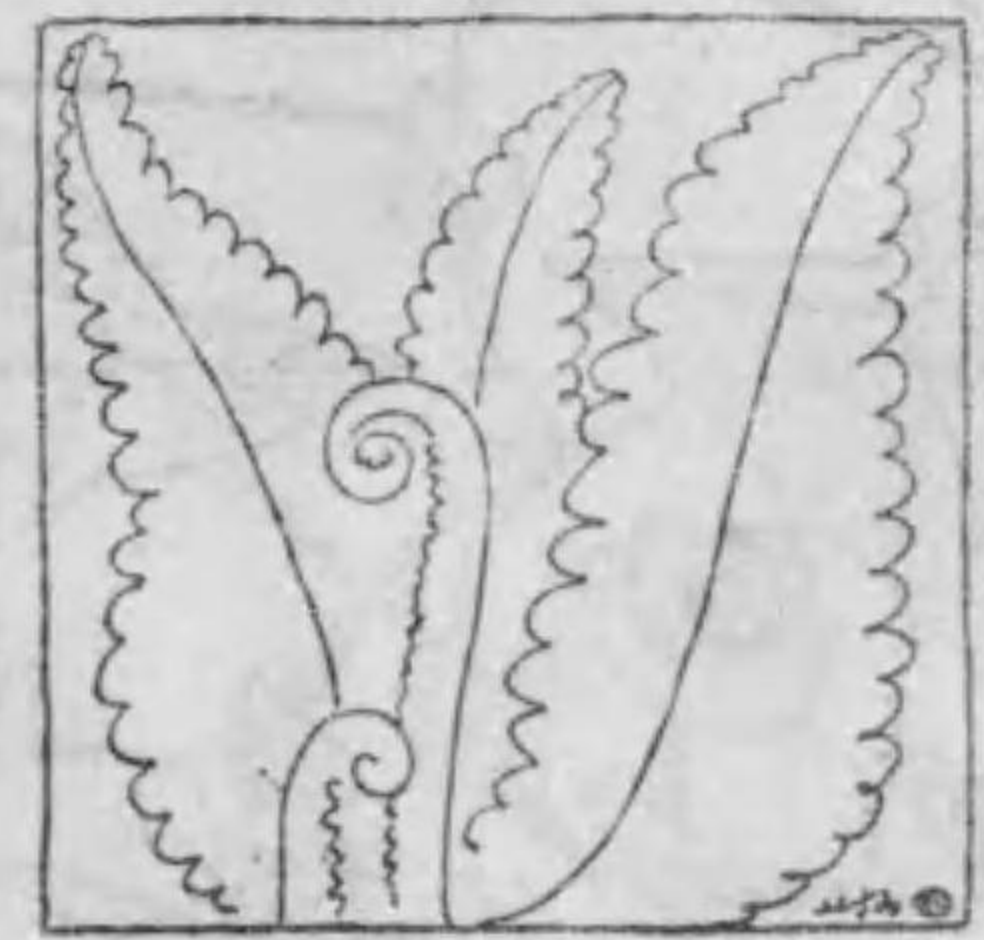
杉浦非水監修

平安堂書店藏版



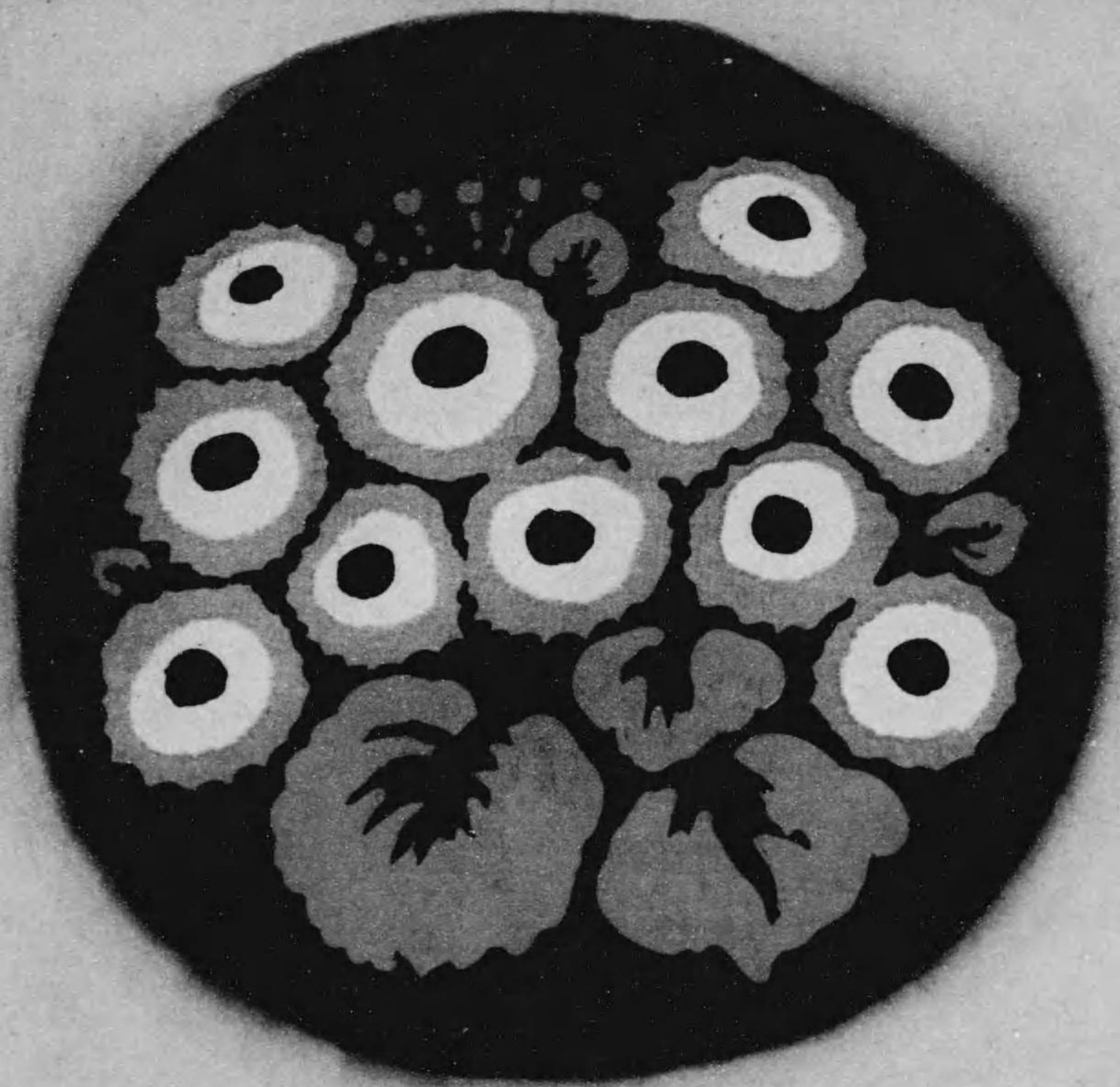
大正  
7. 8 5  
内交

**巻頭に 編者**  
 紋り染の面白味は、其各種の紋方を、巧に形の上に接合し、色調の上に案配することによつて、其圖案が寓意もなく、自然の景象に浸交してあつても、充分に其意匠の妙味を感受する事が出来ることは、其染色工藝の獨特の權威でありませう。此紋り染の特長や、其方法は今更、事新らしく説く要をみこめない程に、世の中は、一般に、紋りを應用し、紋り染の好向を高めて居ます。故に此の圖案集に於ては、専ら自然物を紋りの上に現はさんとする種の圖案を案めただけであります。印刷上の制限や約束の爲に、紋り染の妙味を圖上に發揮することの出来ない事は、編者第一の遺憾とする處であります。然し乍ら、第一生命たる、視覚上の妙味は、此圖案を應用する紋り染製作者の技術に待つ外はありますまい。此の圖案集は第二の生命としての形の線の點の配合を、各種の布柄の上に、應用して、其紋り染をして、其製作技巧上以外に、一層の美的質量を増さしむる資料たらん事の使命を感ずるものであります。故に此の圖案集によつて、第二生命を掌握した時、其應用者の第一生命たる技術が巧に合致されて紋り上げられた時、初めて、紋り染の妙光は灼然として輝くであります。編者の満足は則ちこれに外ありません。



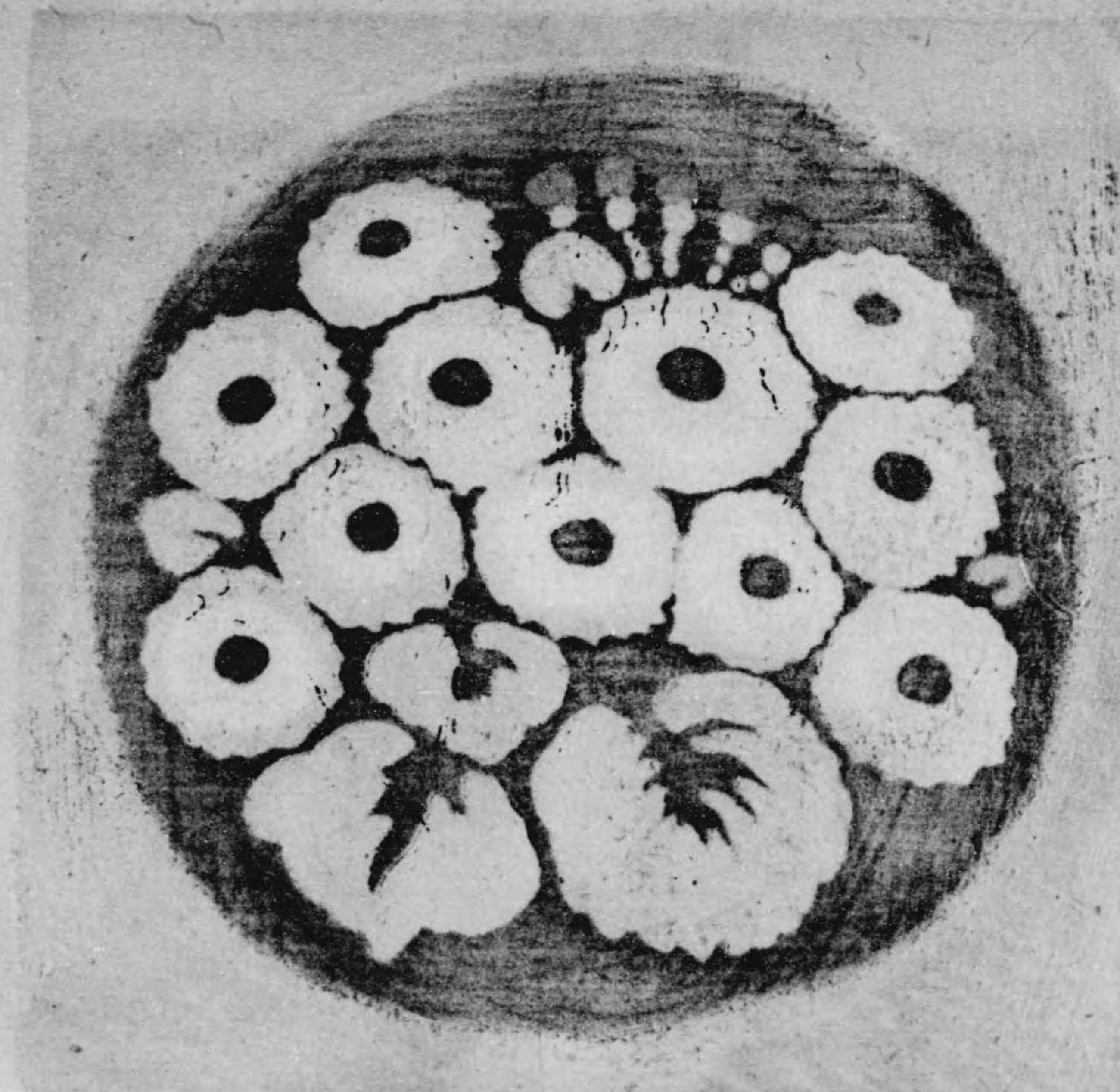
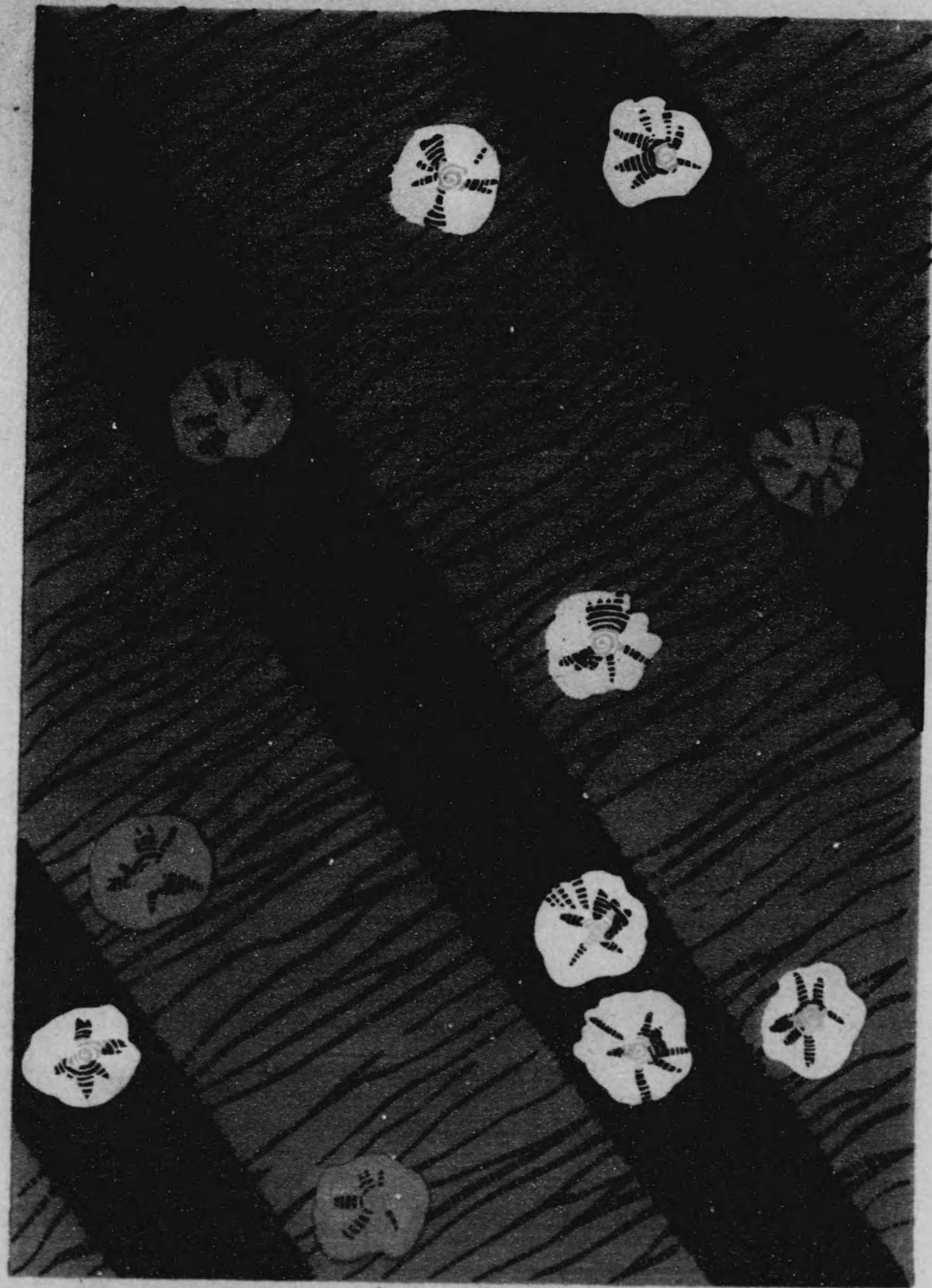
染織の面白味

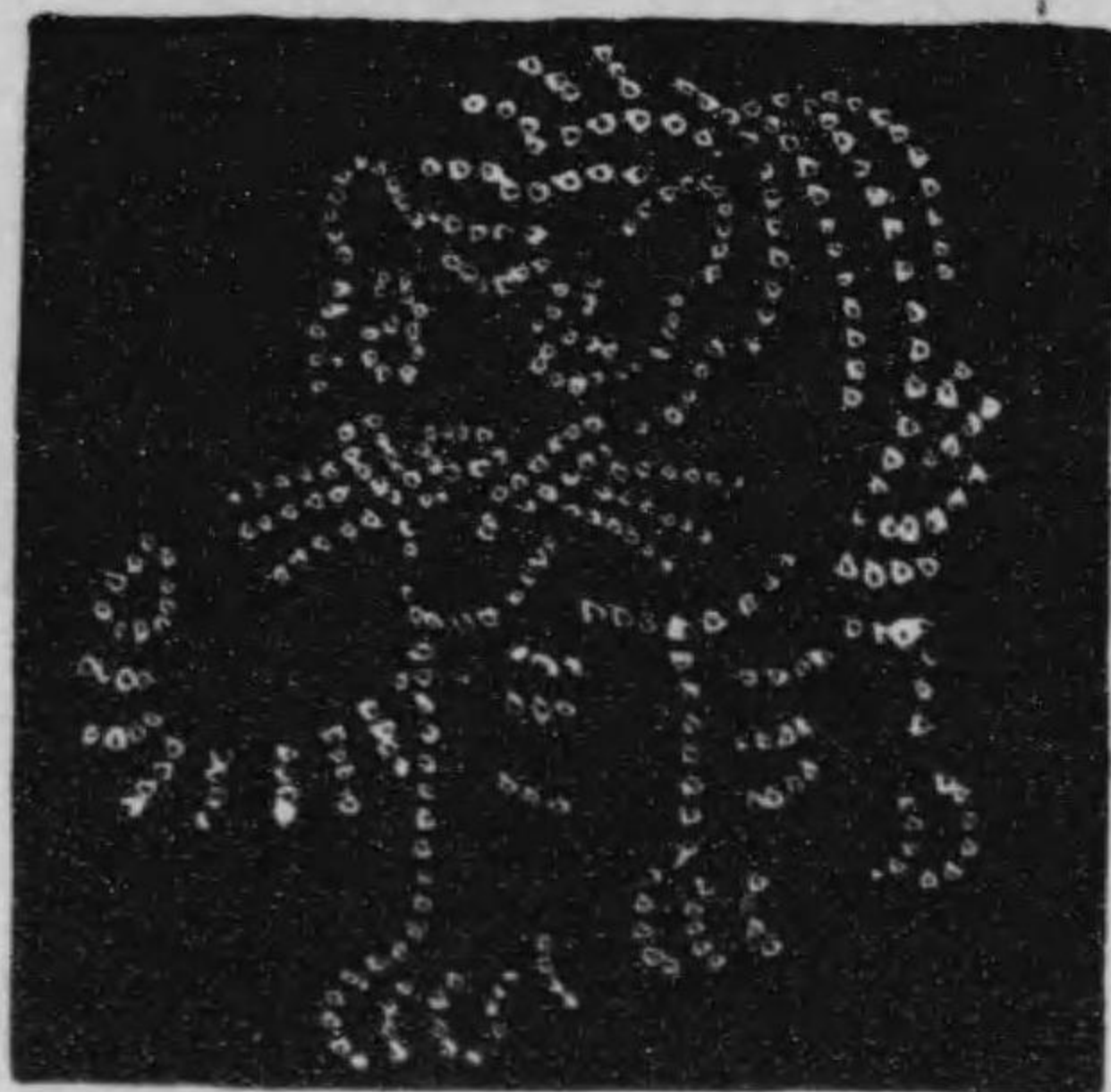
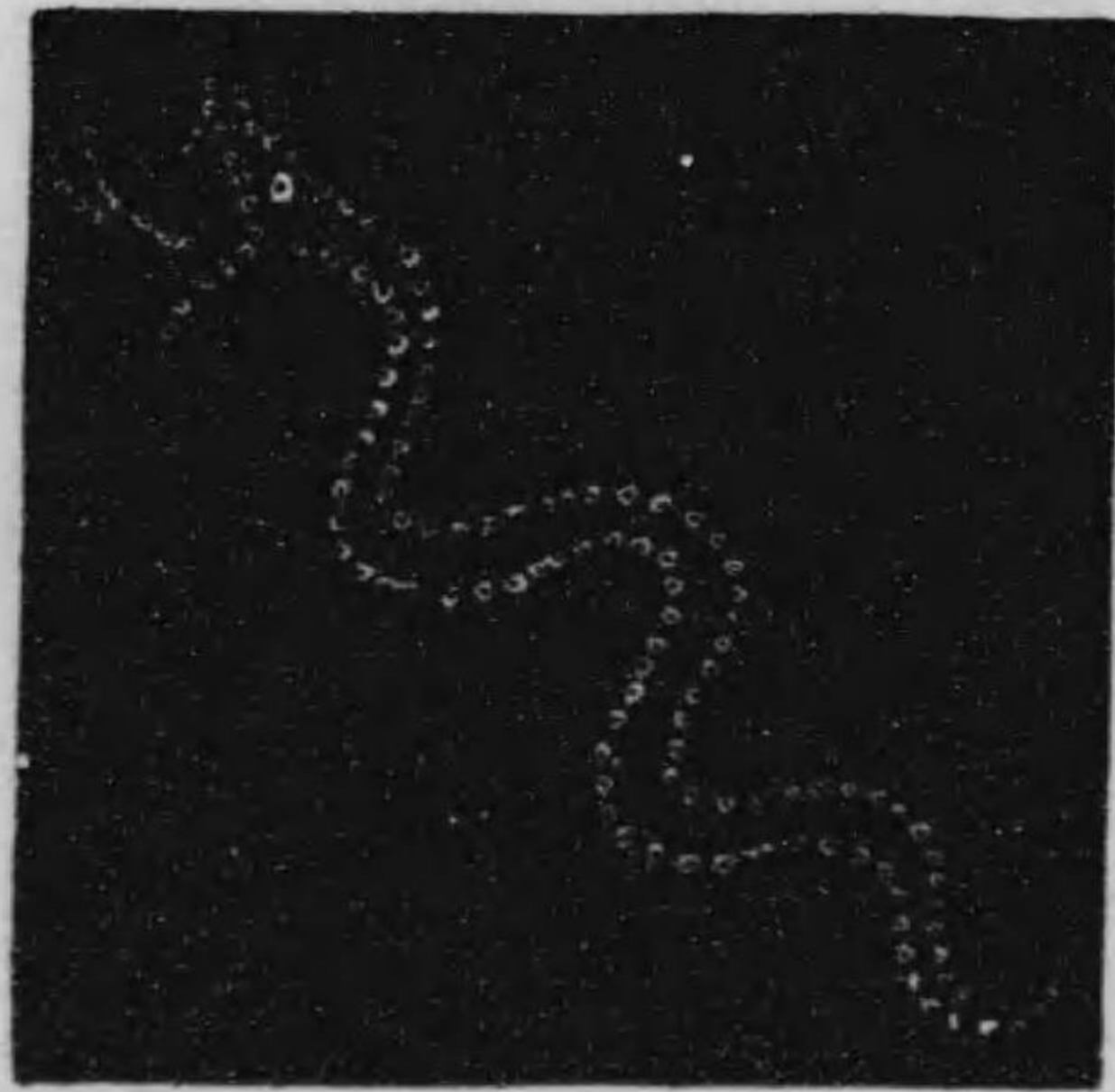
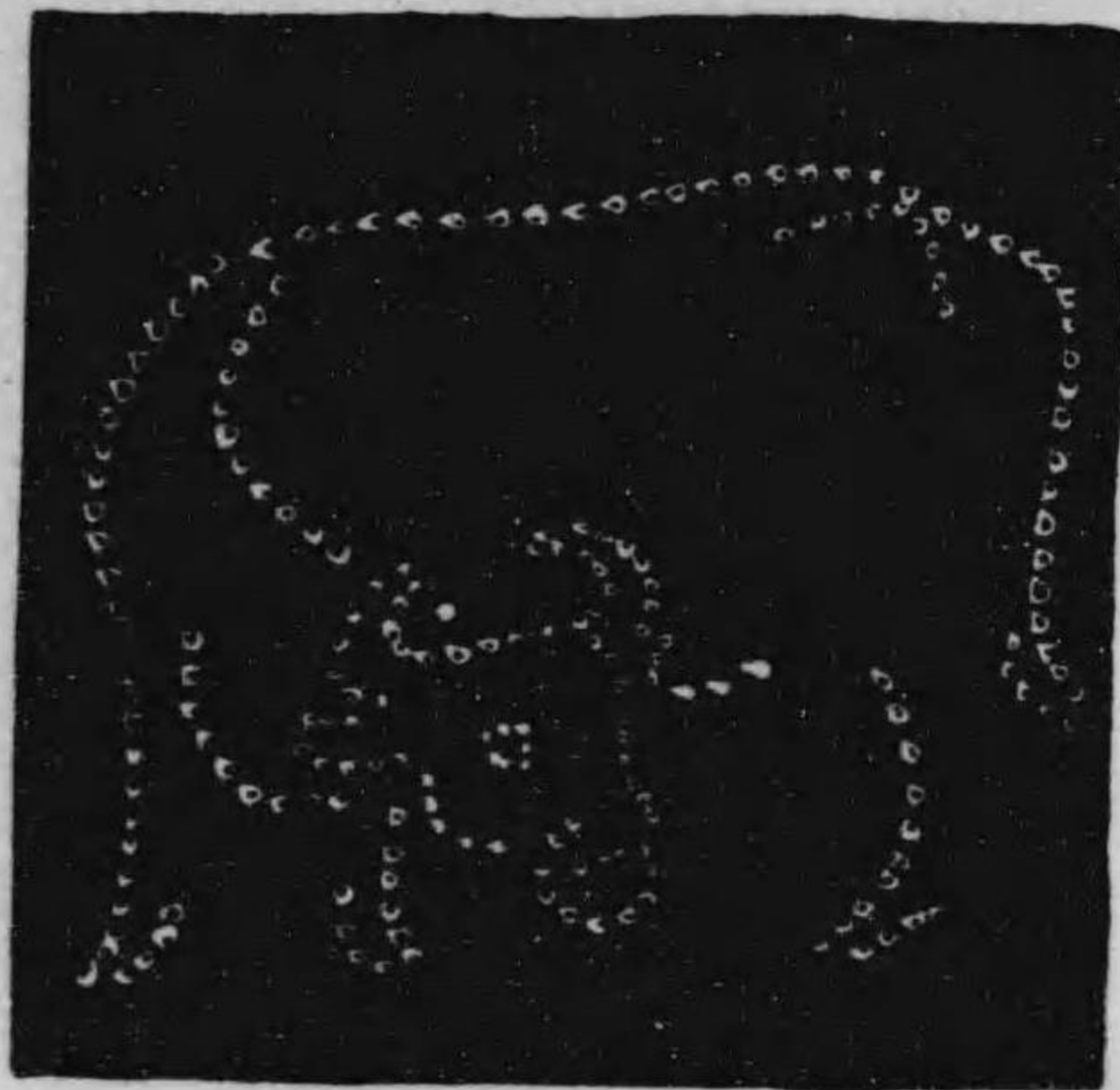
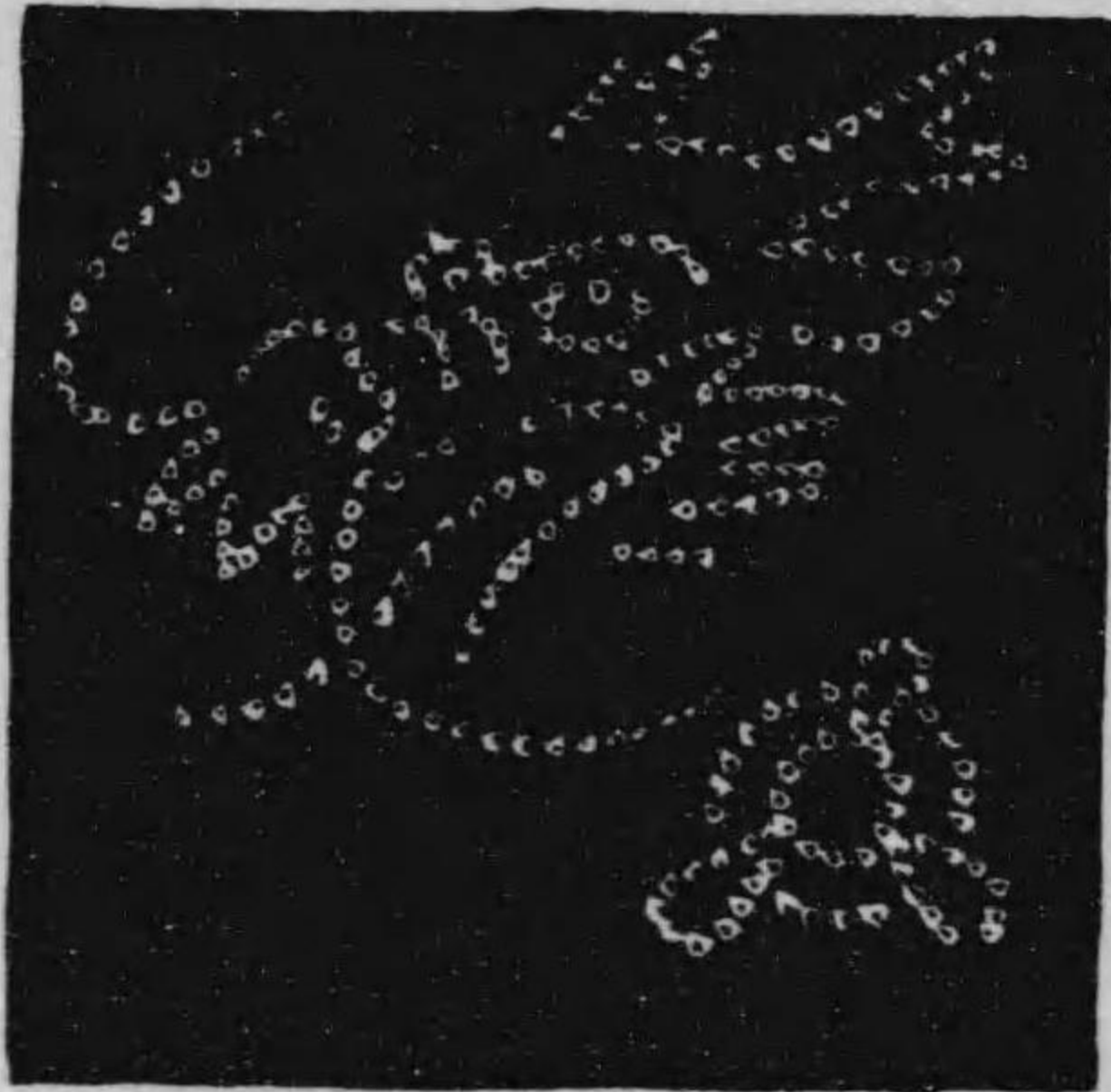
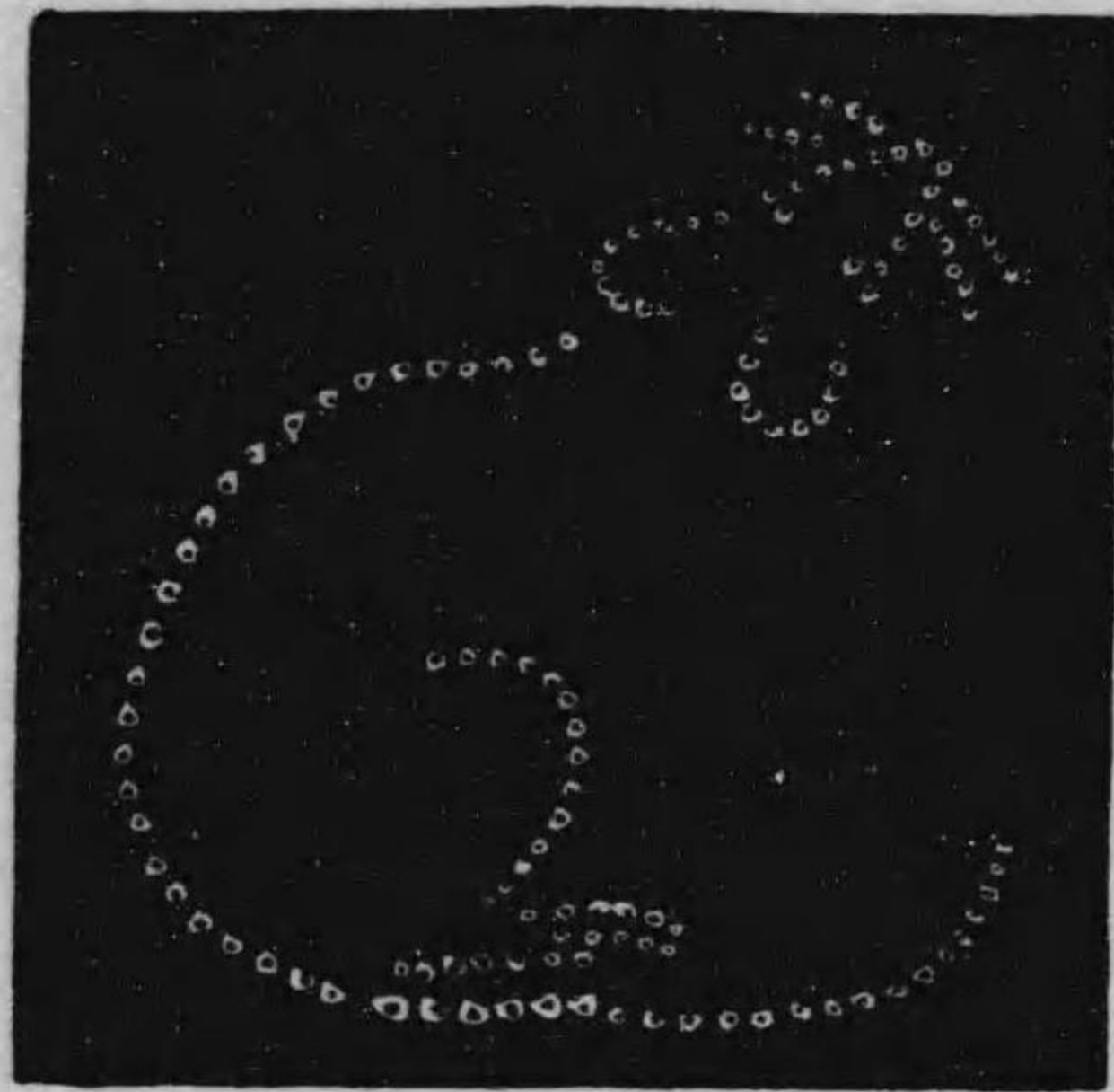
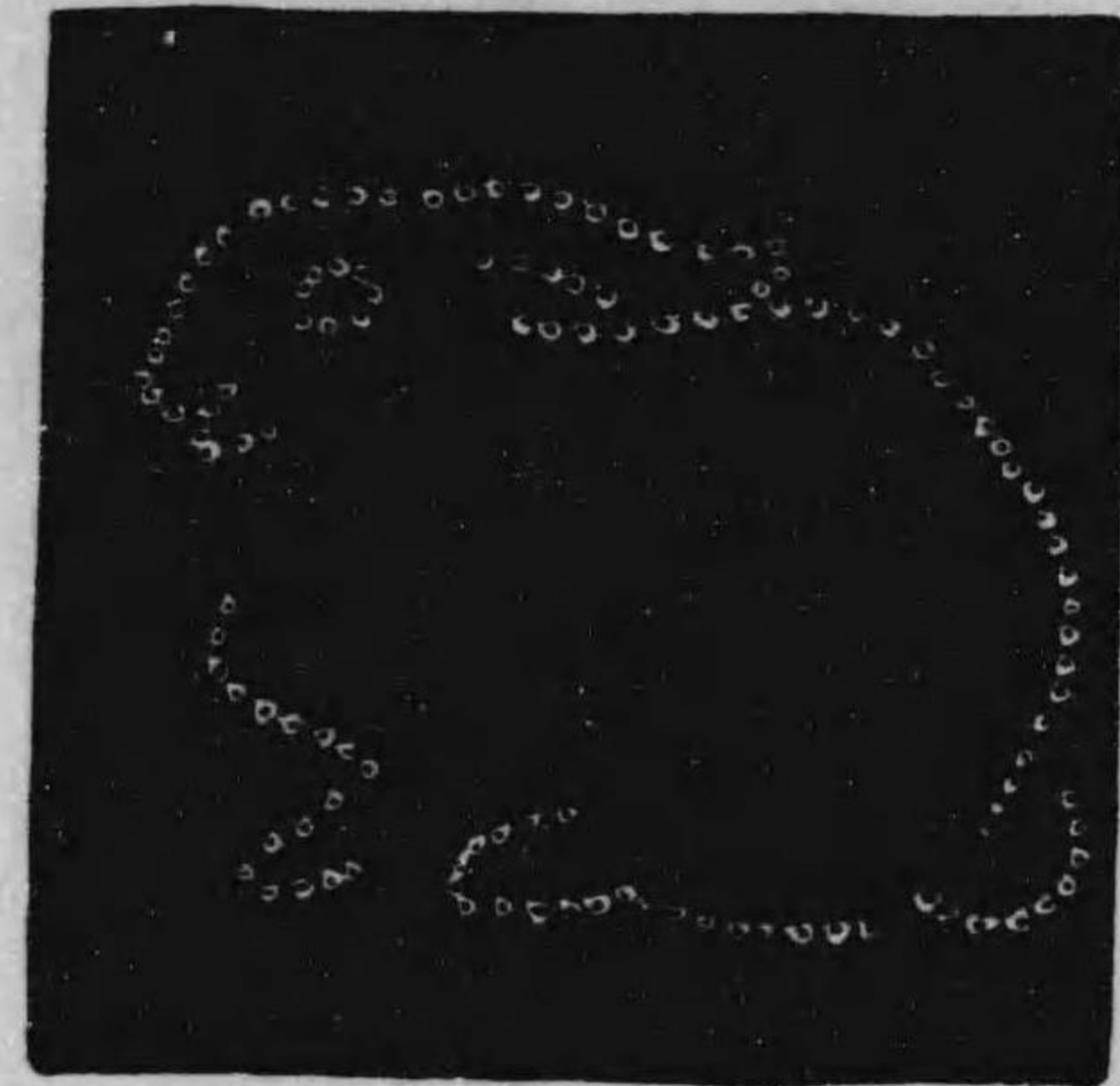
編者



Р 1 5 1 2 7

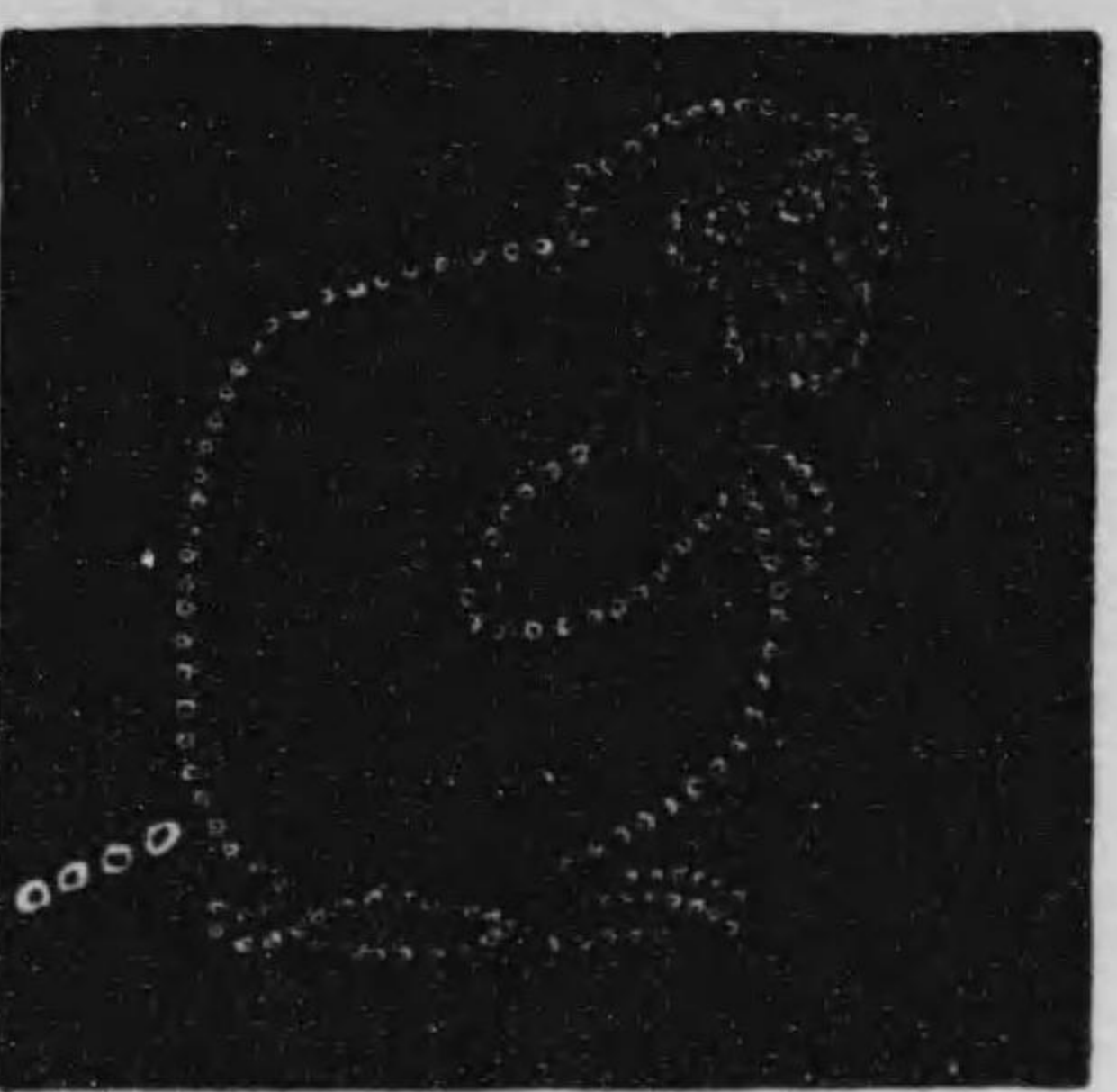
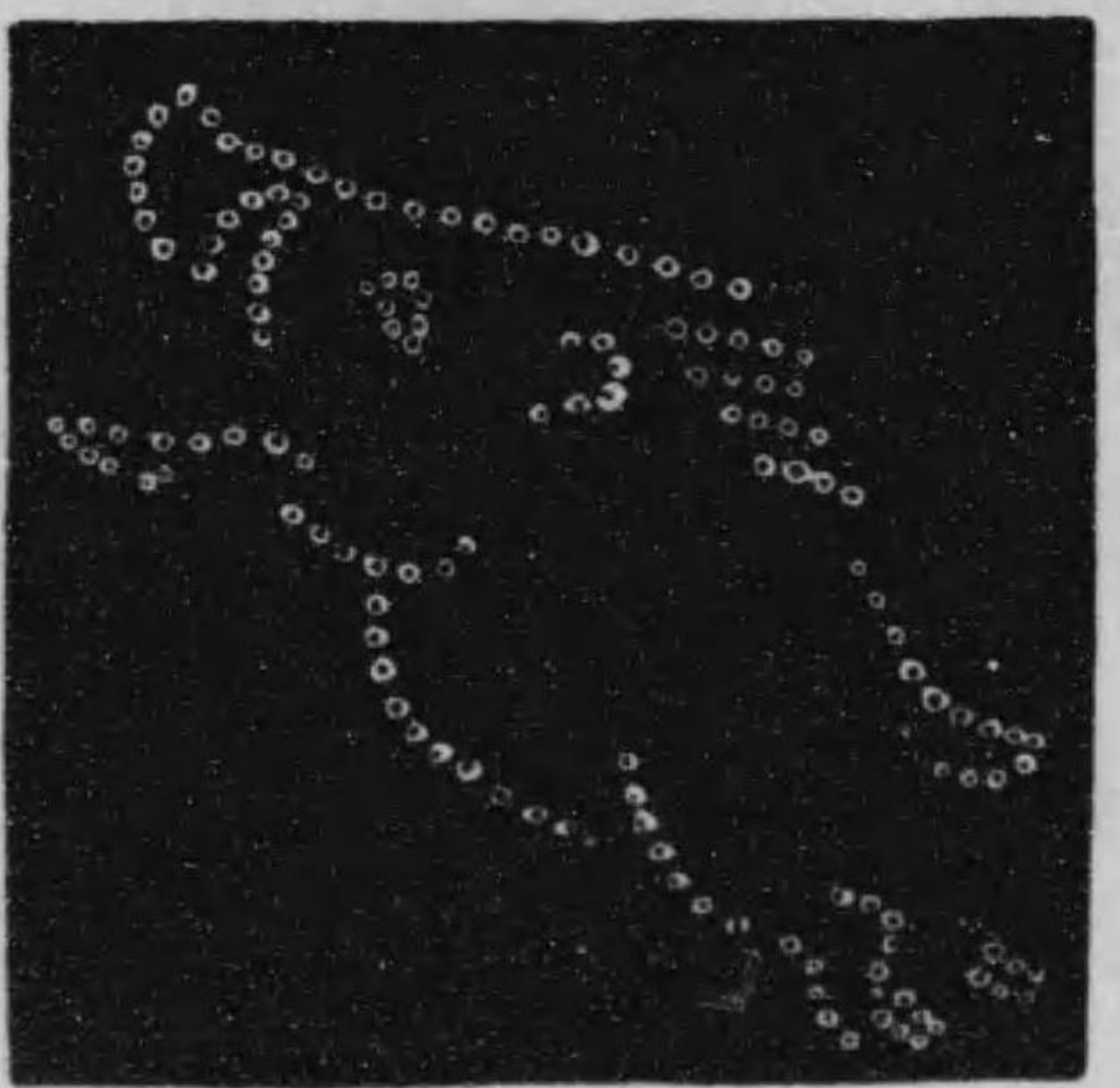
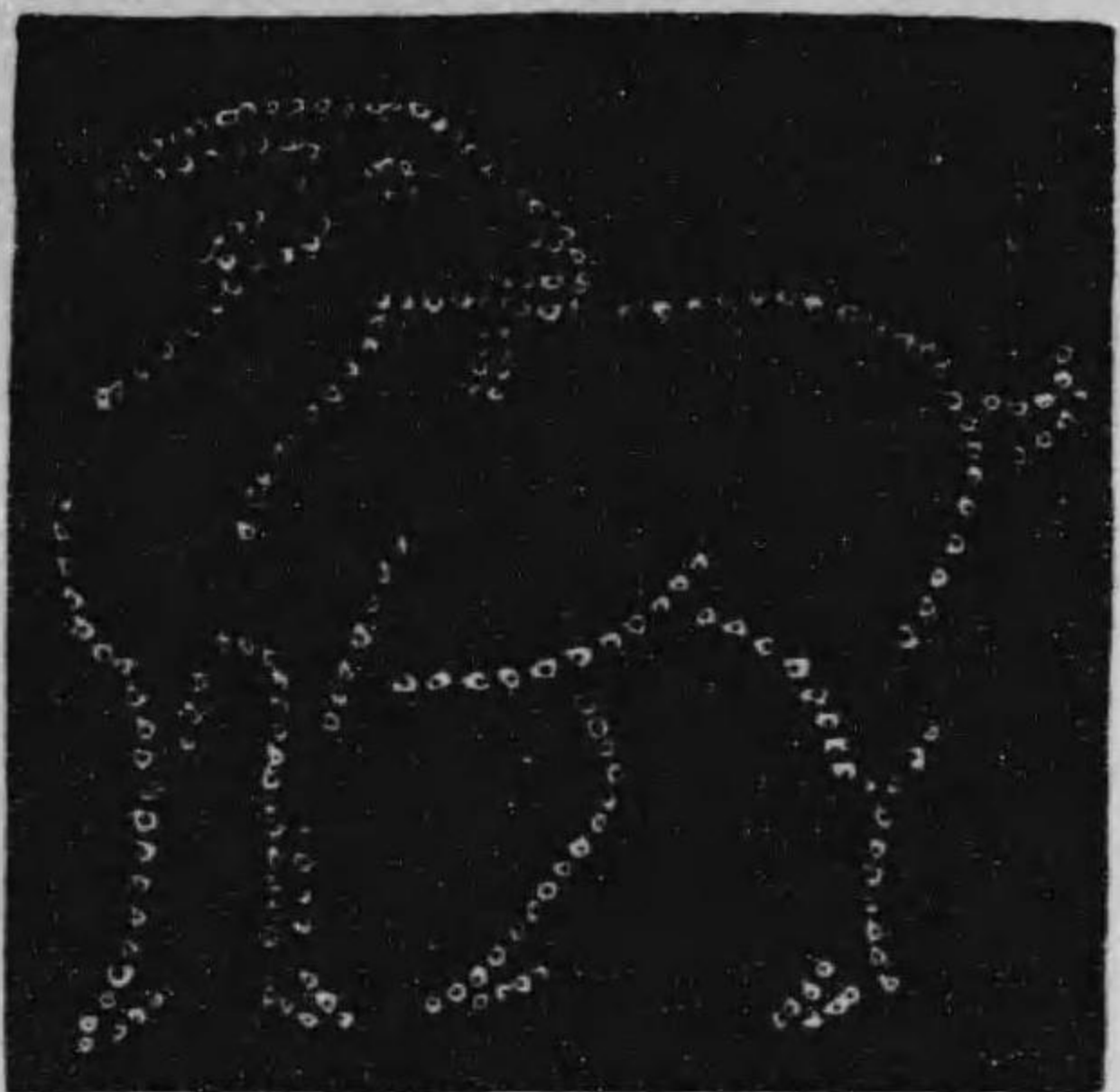
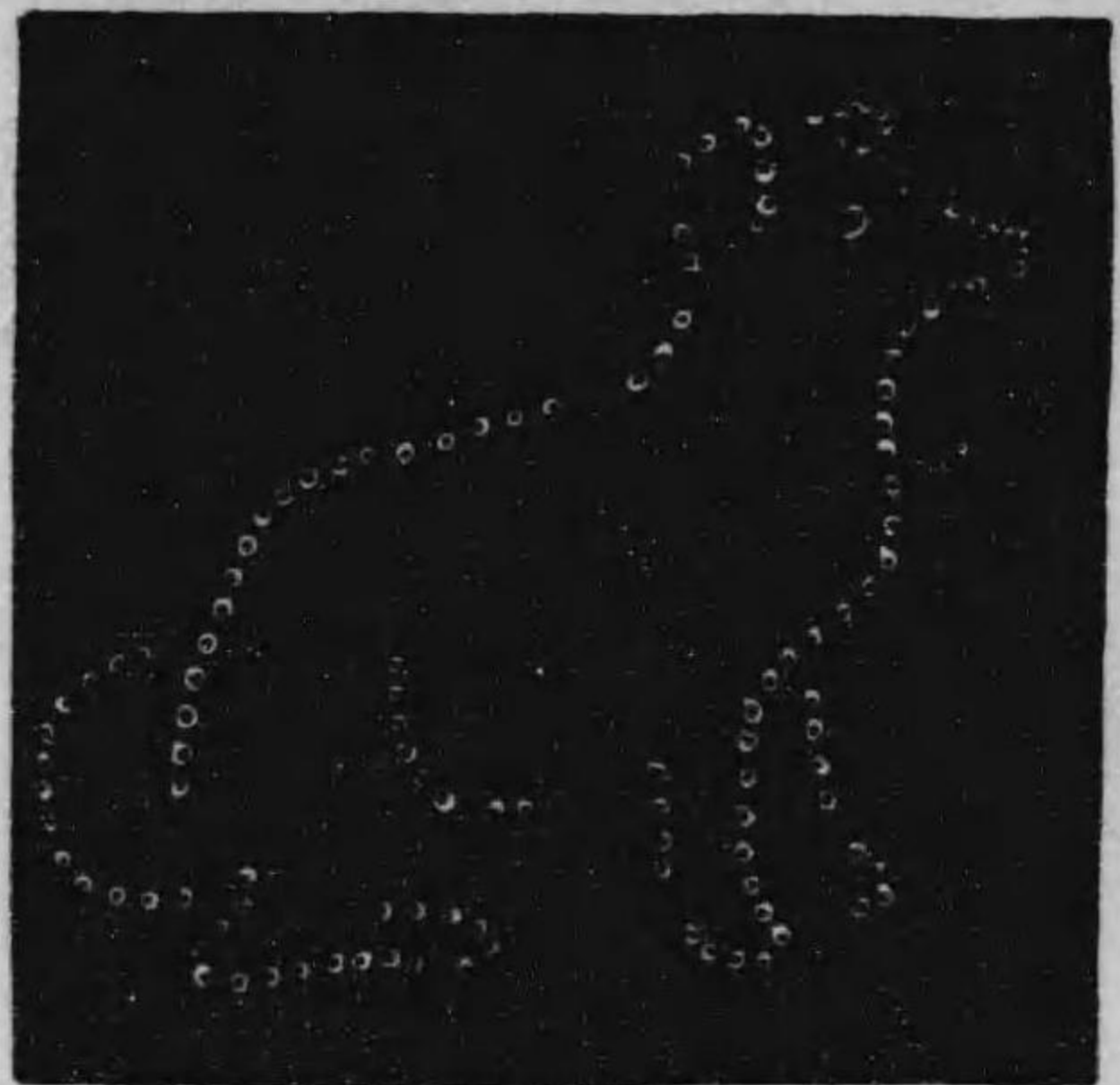
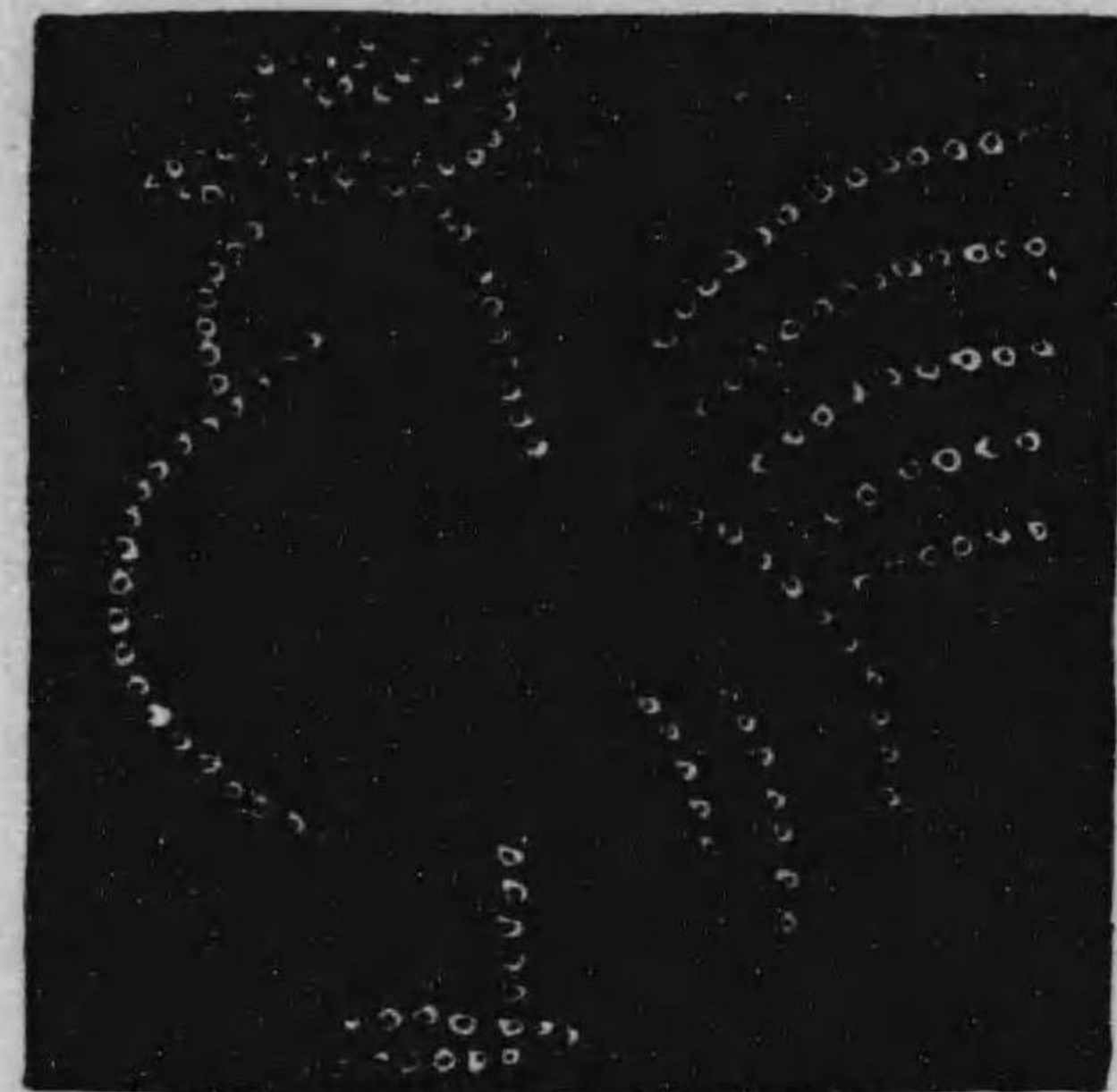




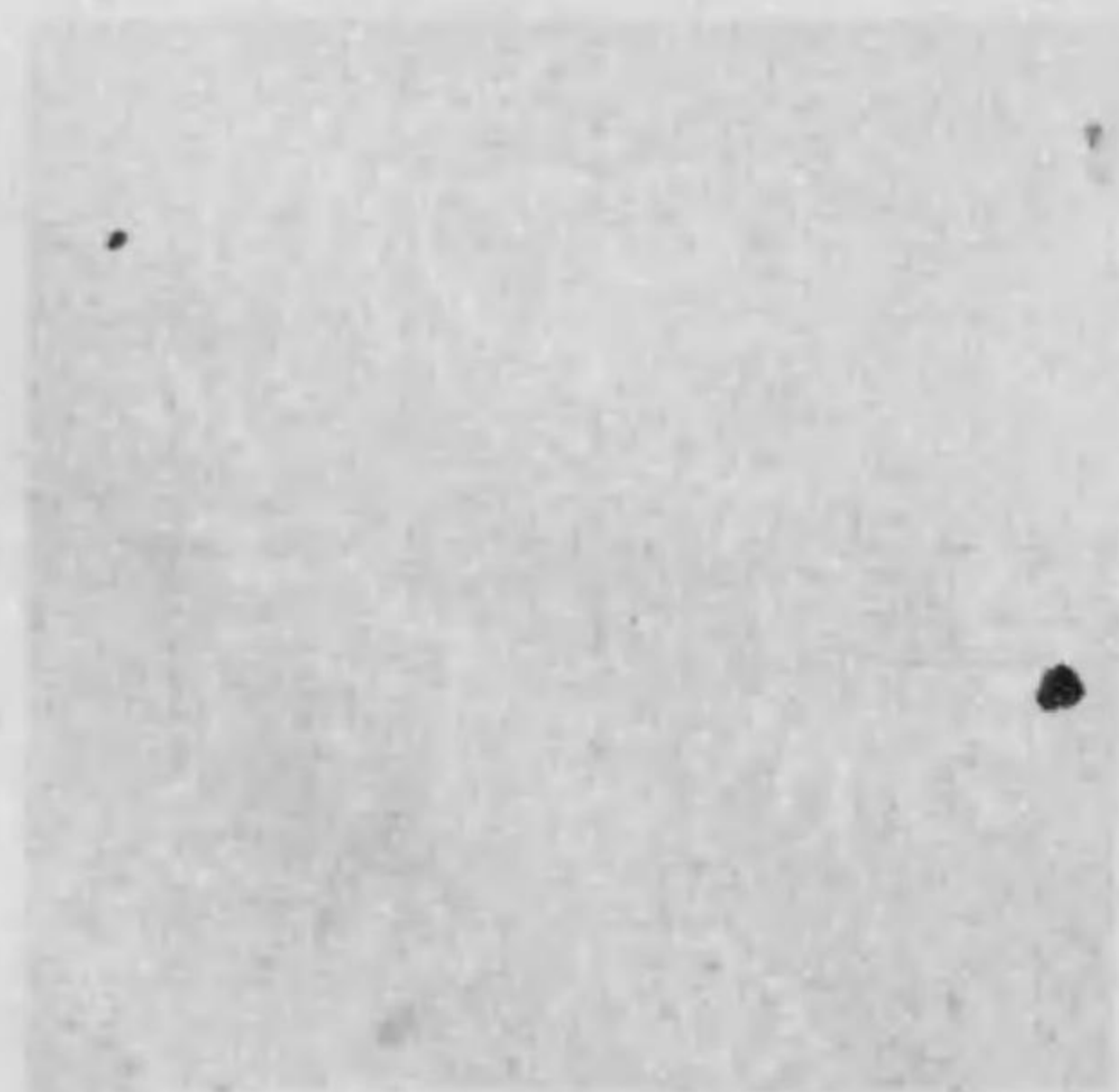
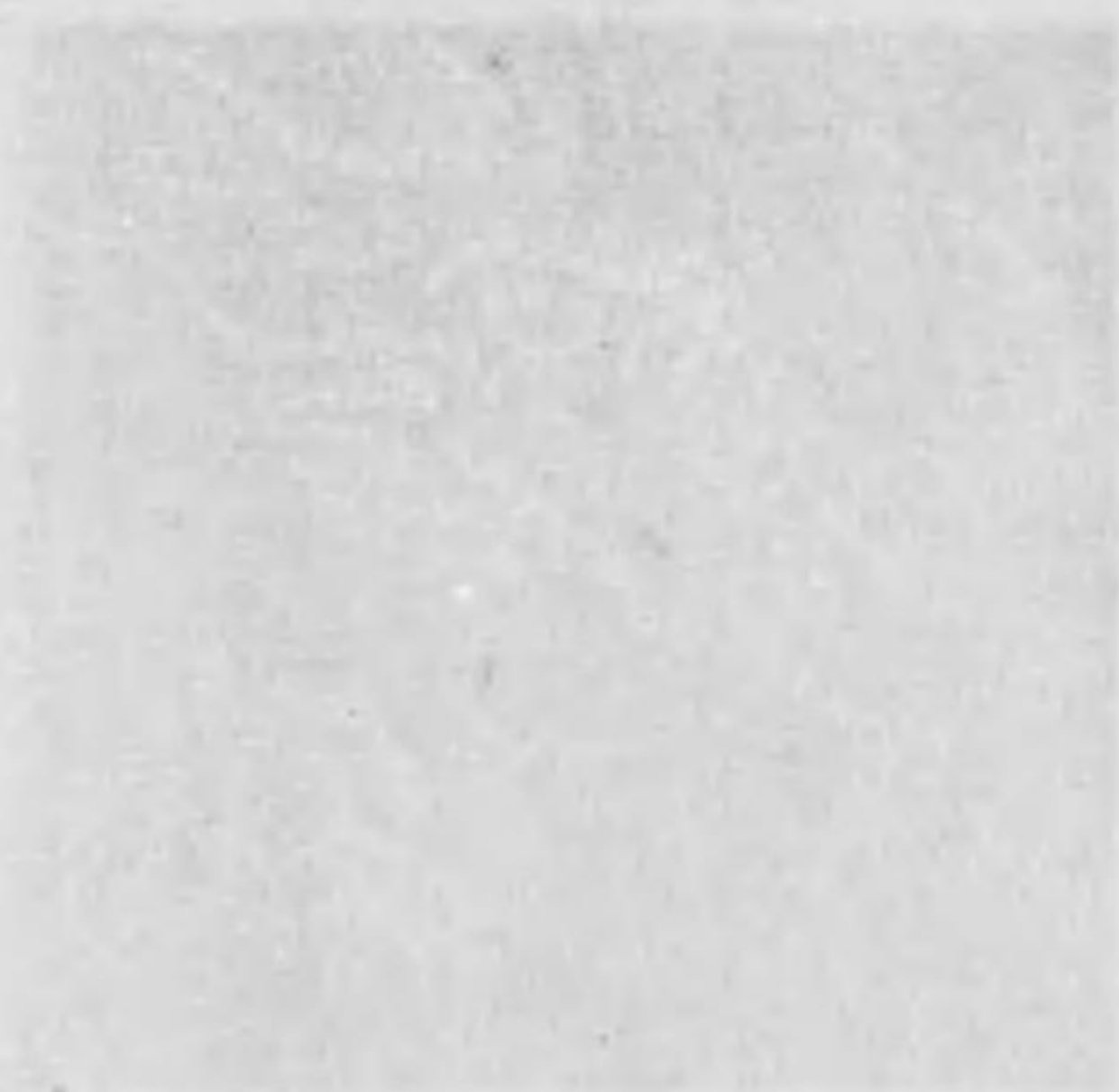
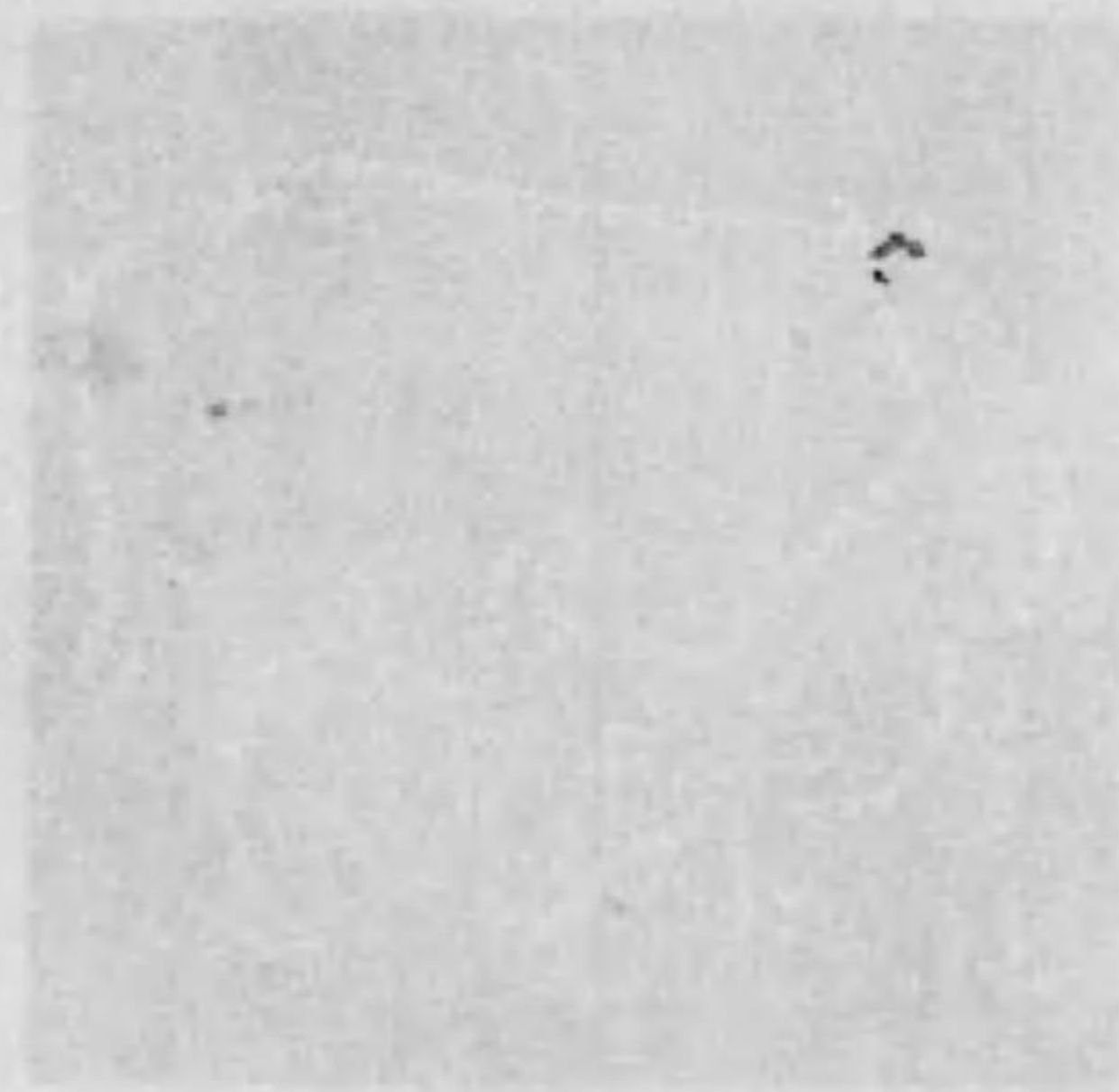
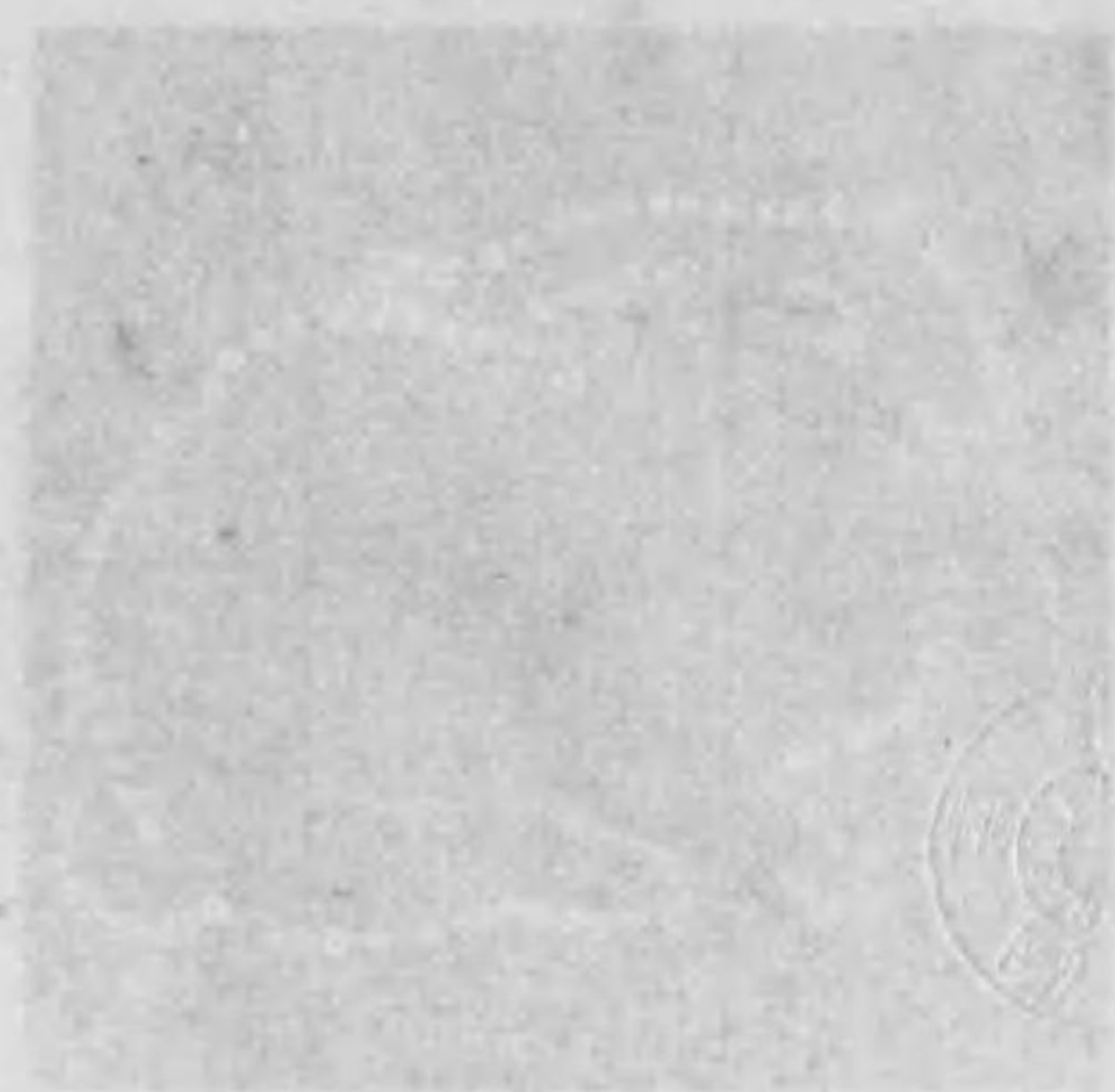
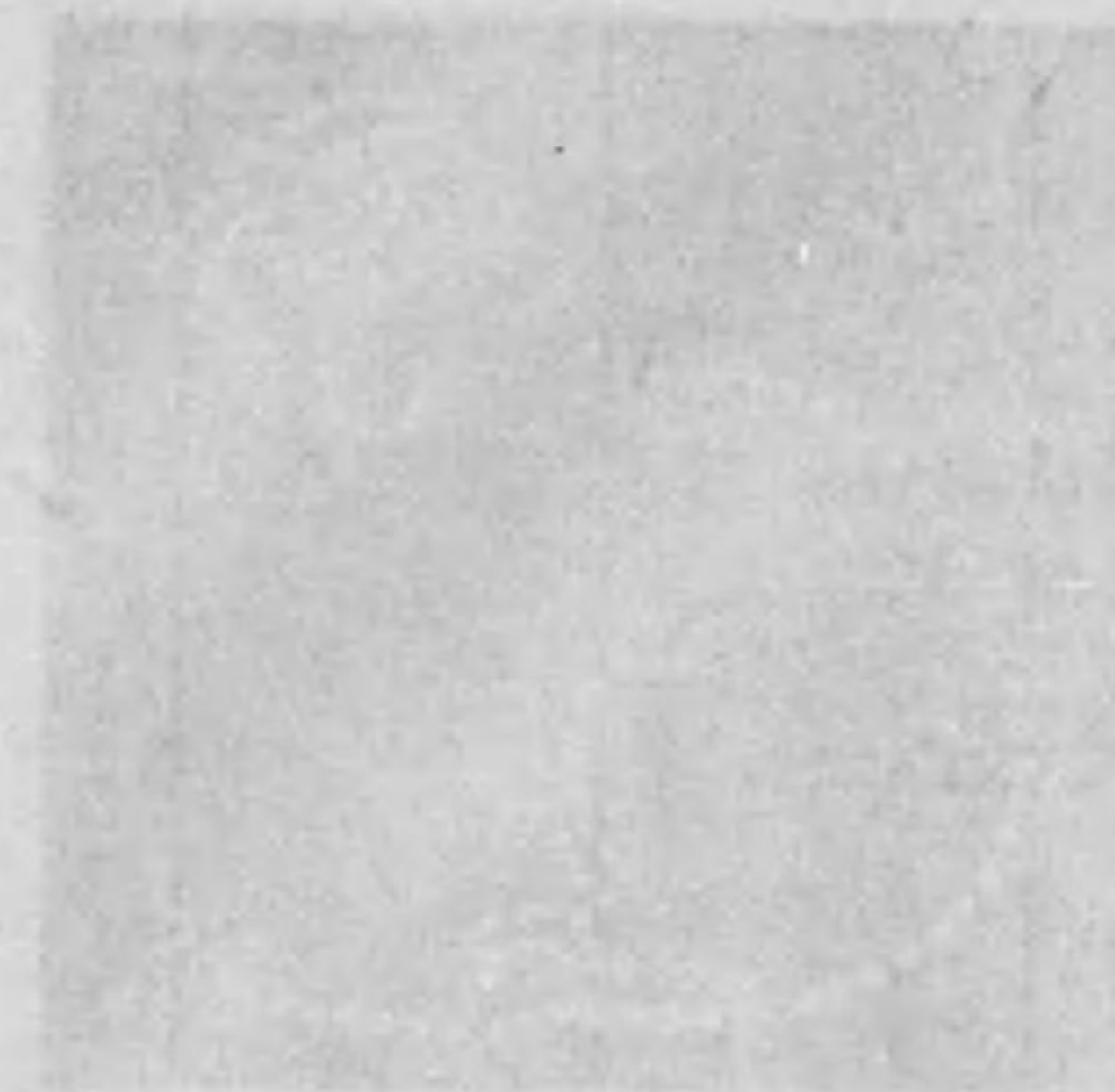


二十支の一





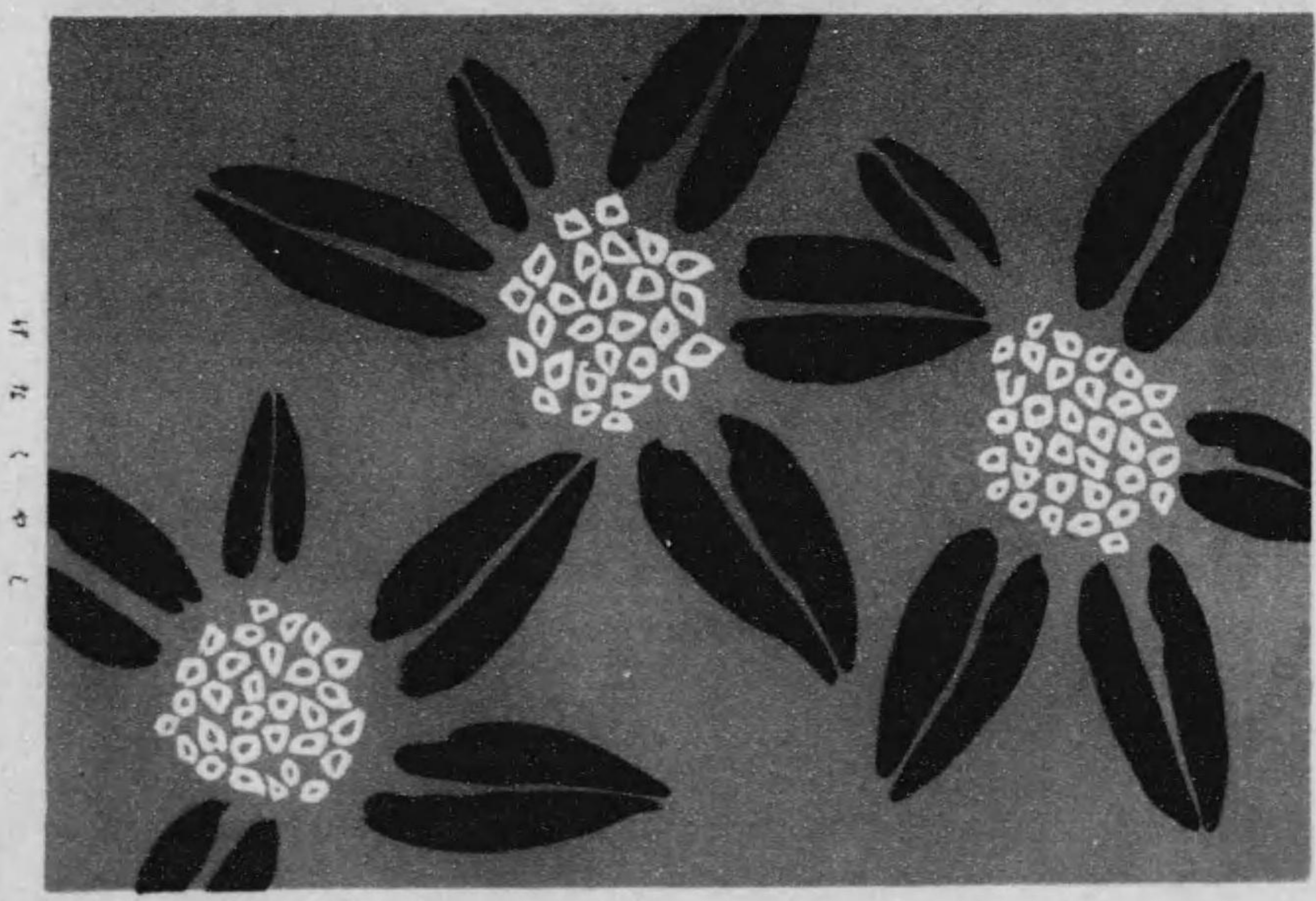
二十支の二



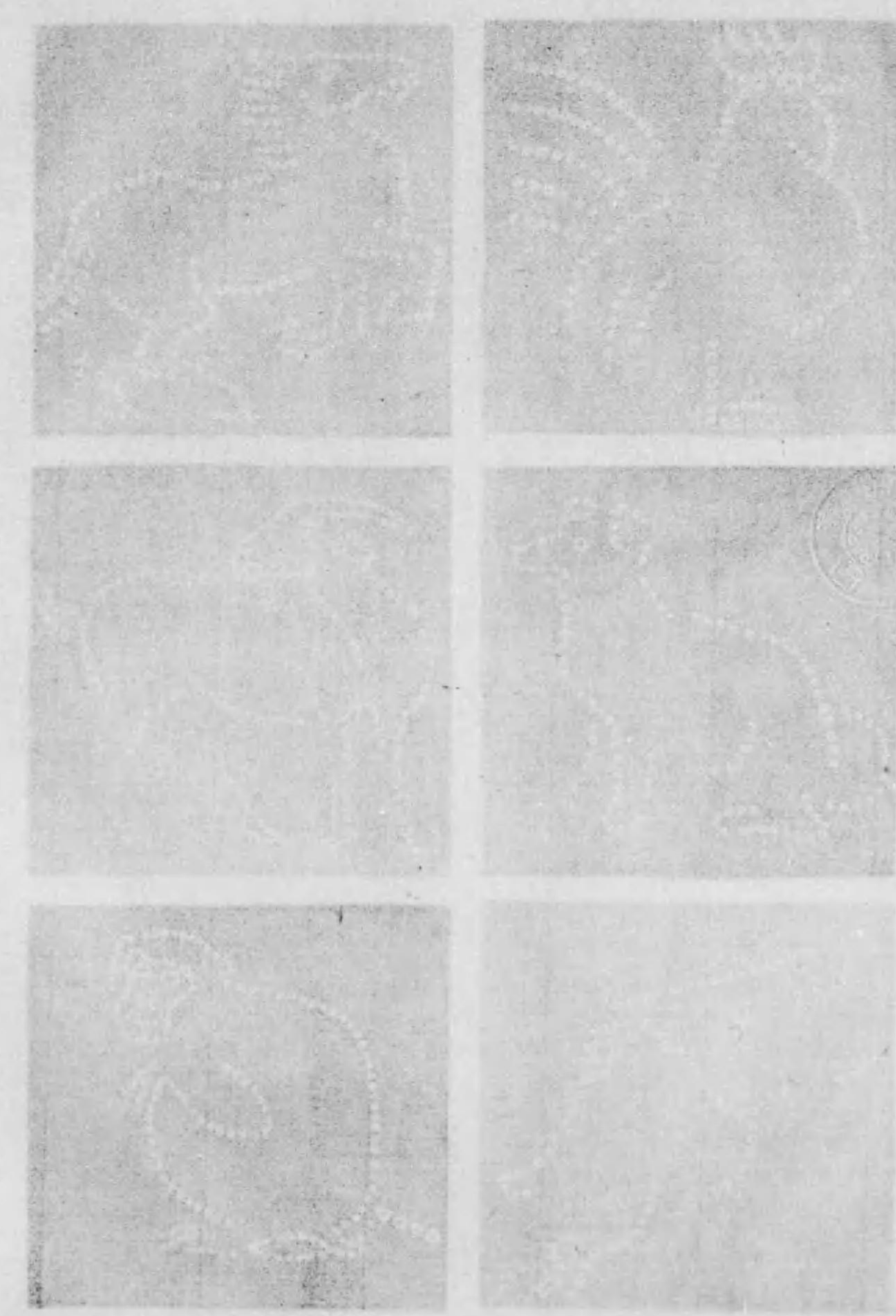


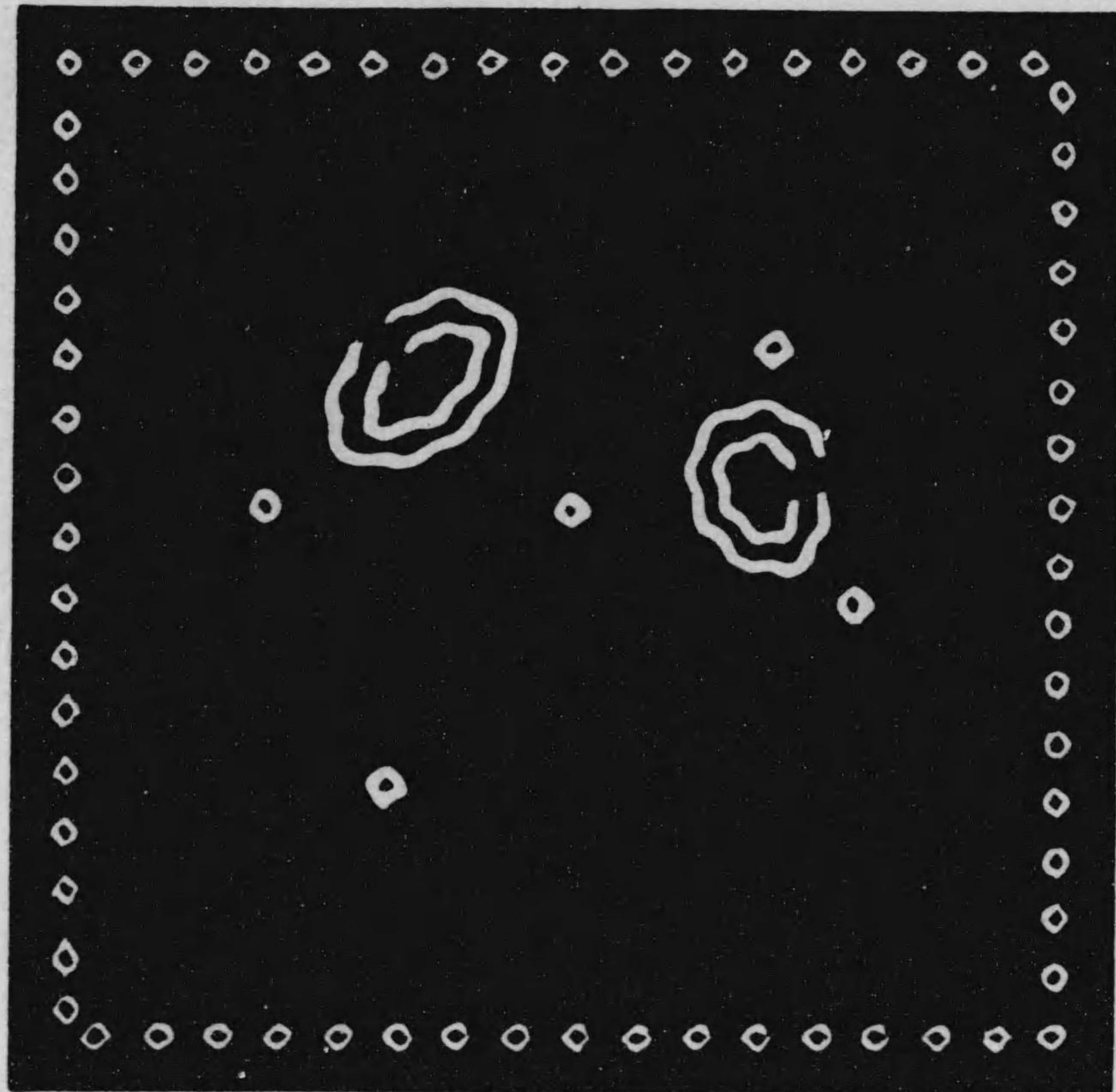


7 7 7 7 7 7



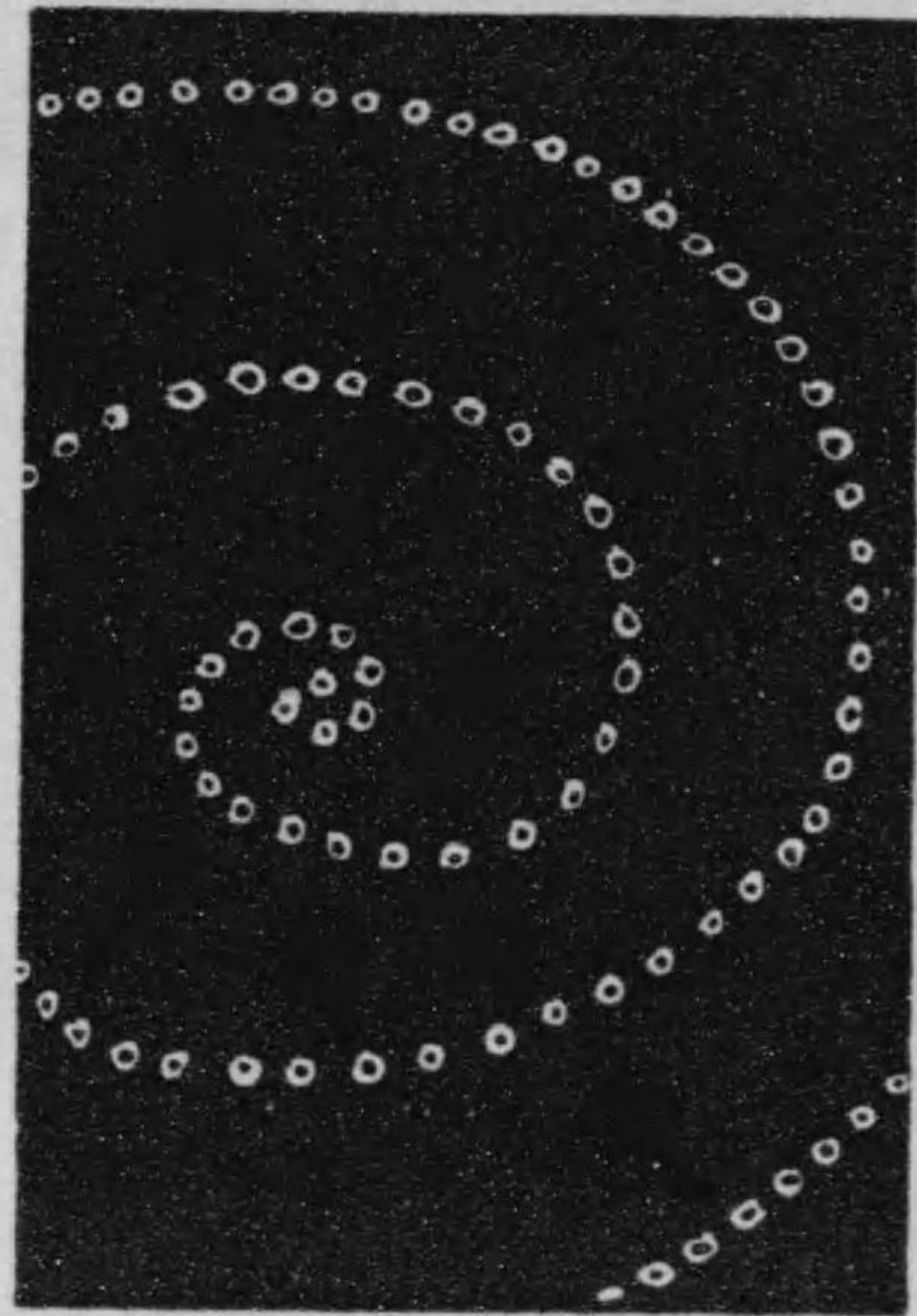
7 7 7 7 7 7



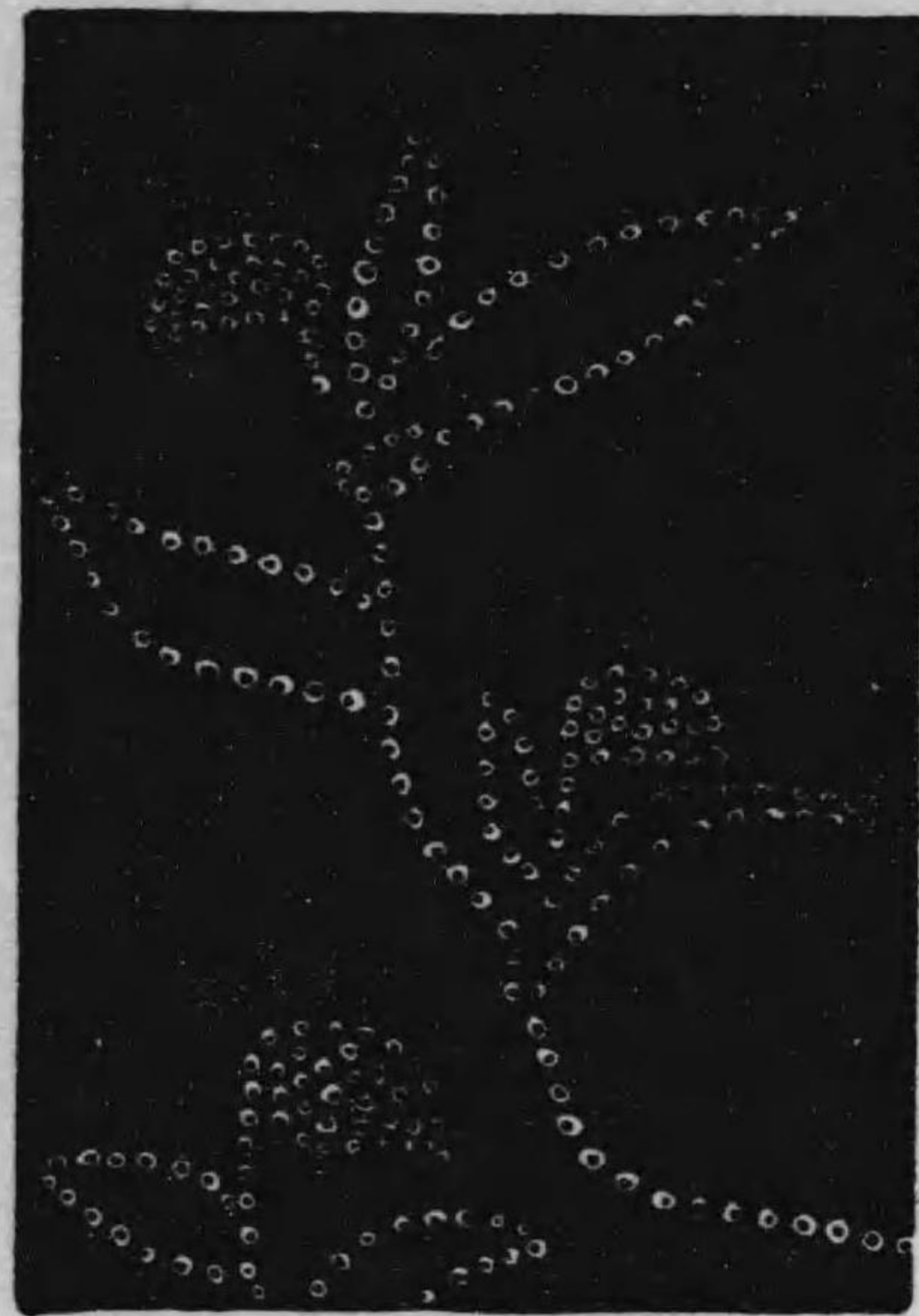


11 2 5 2

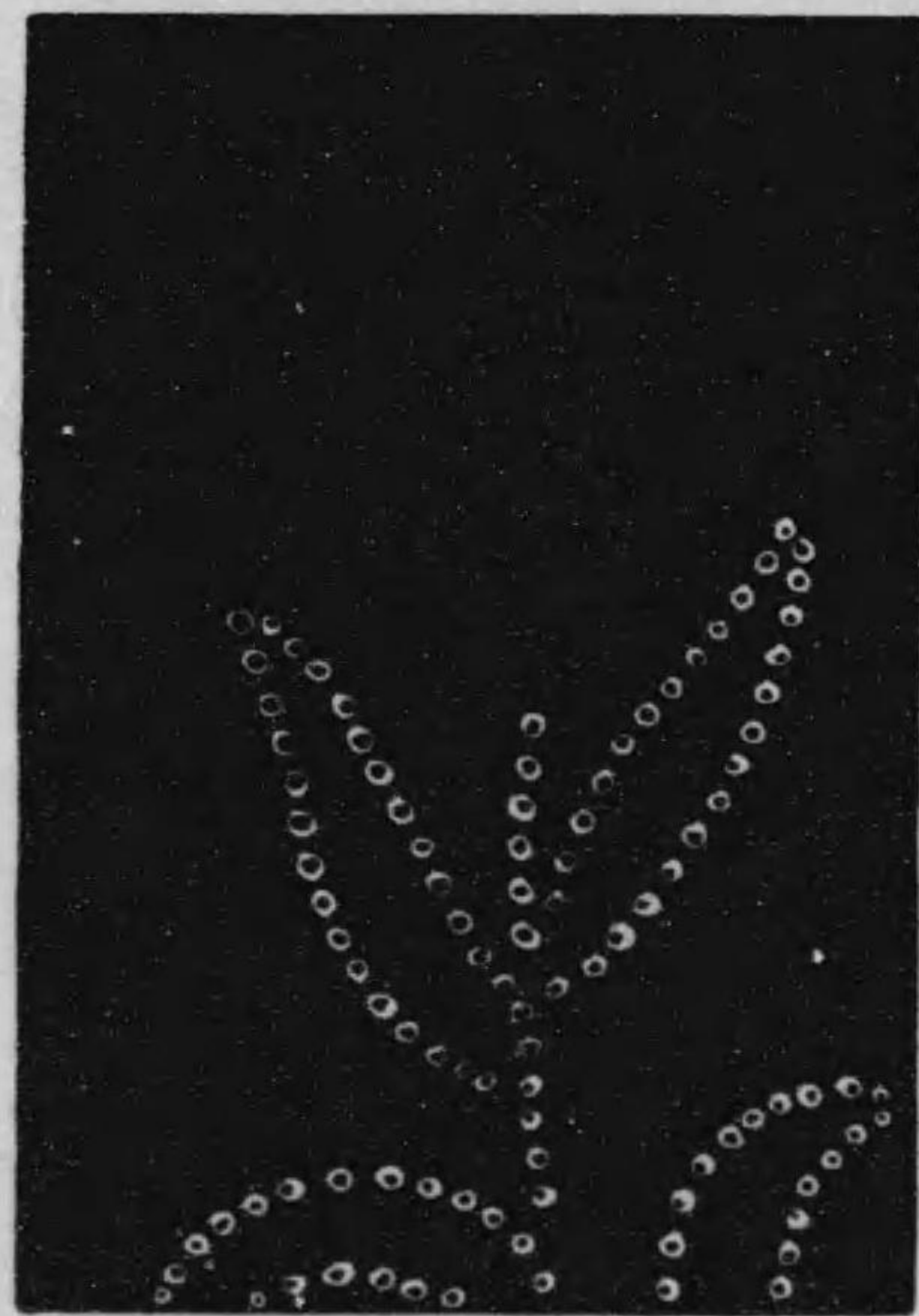




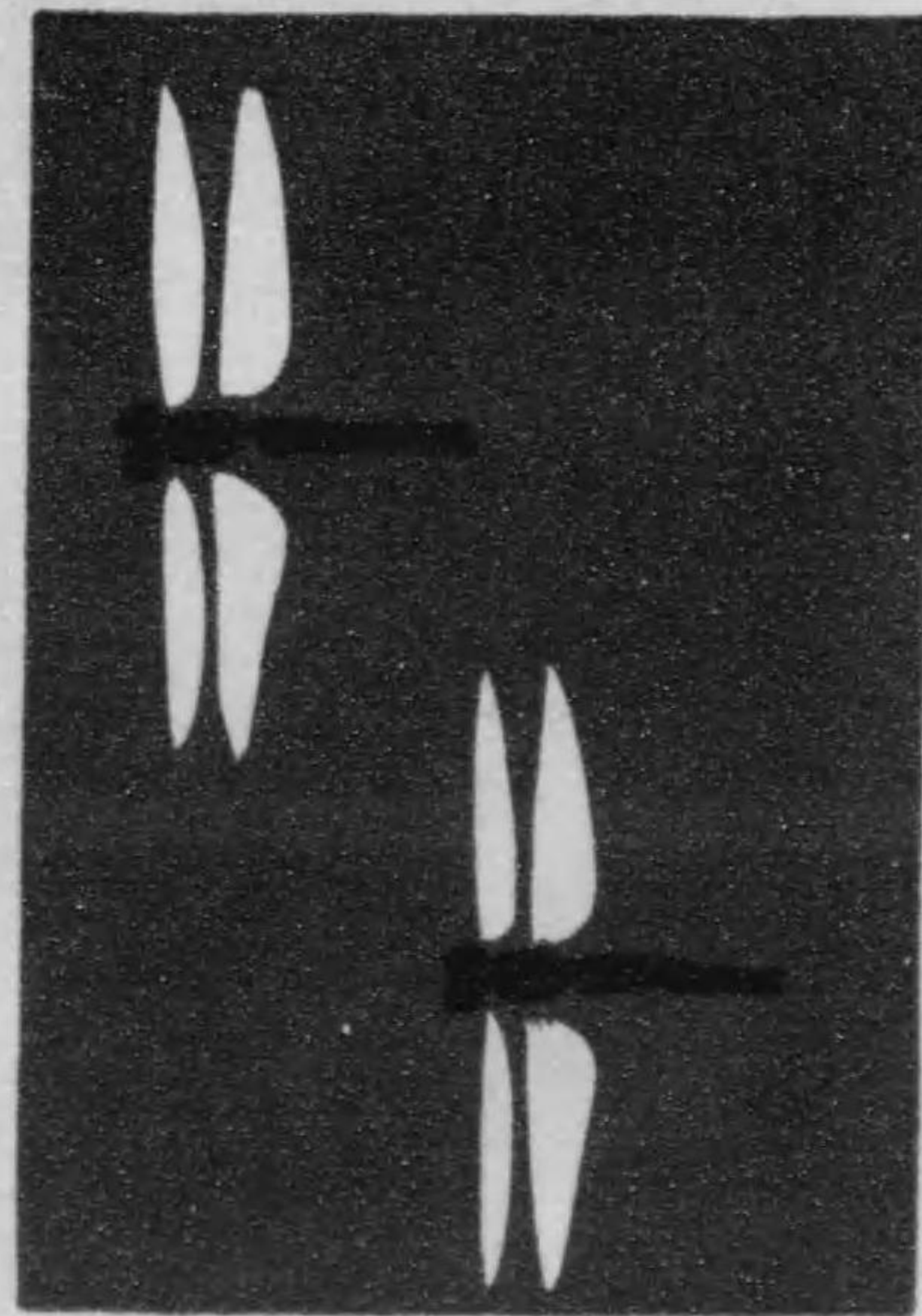
しやびまわ



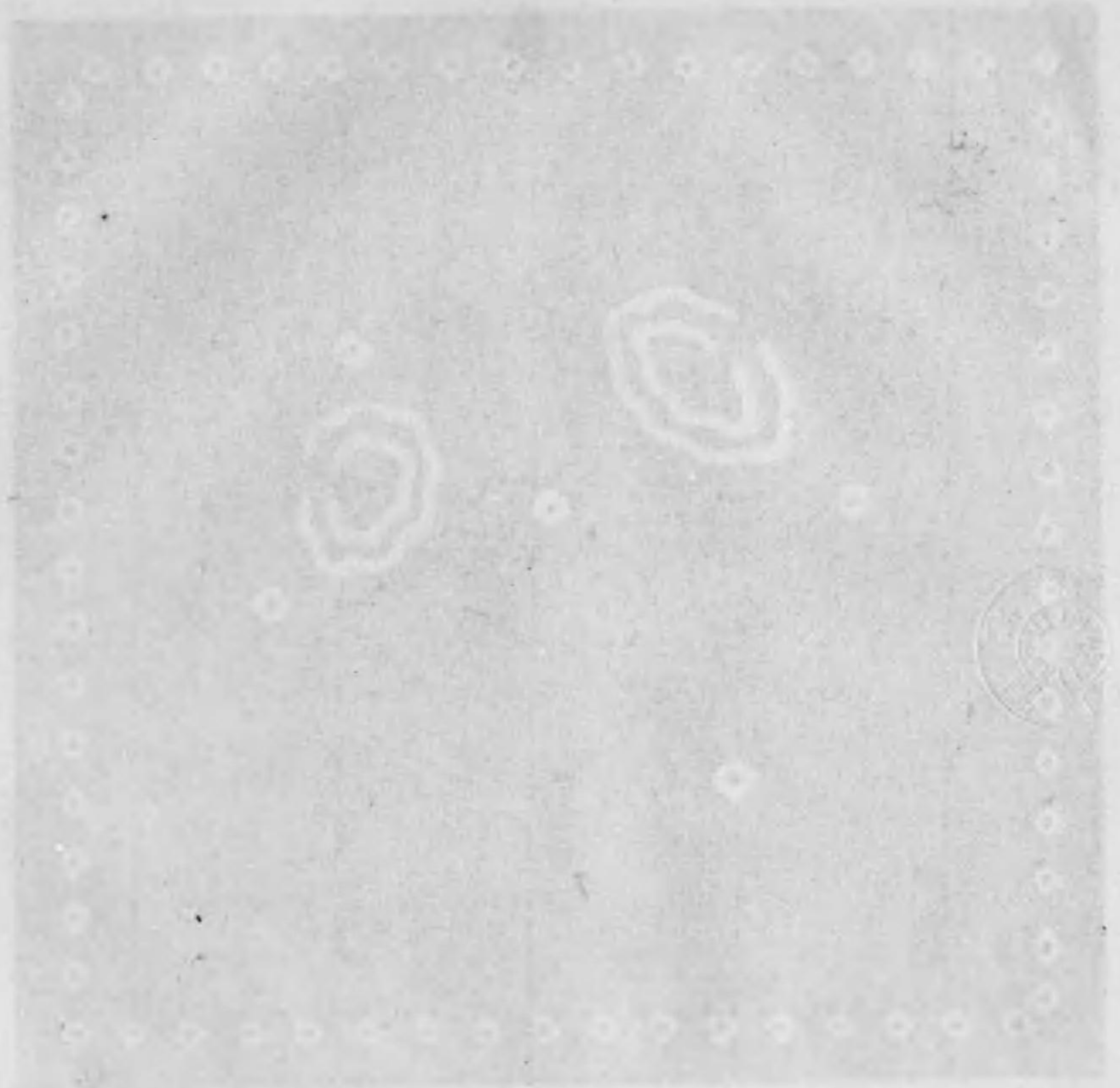
まきゆつ



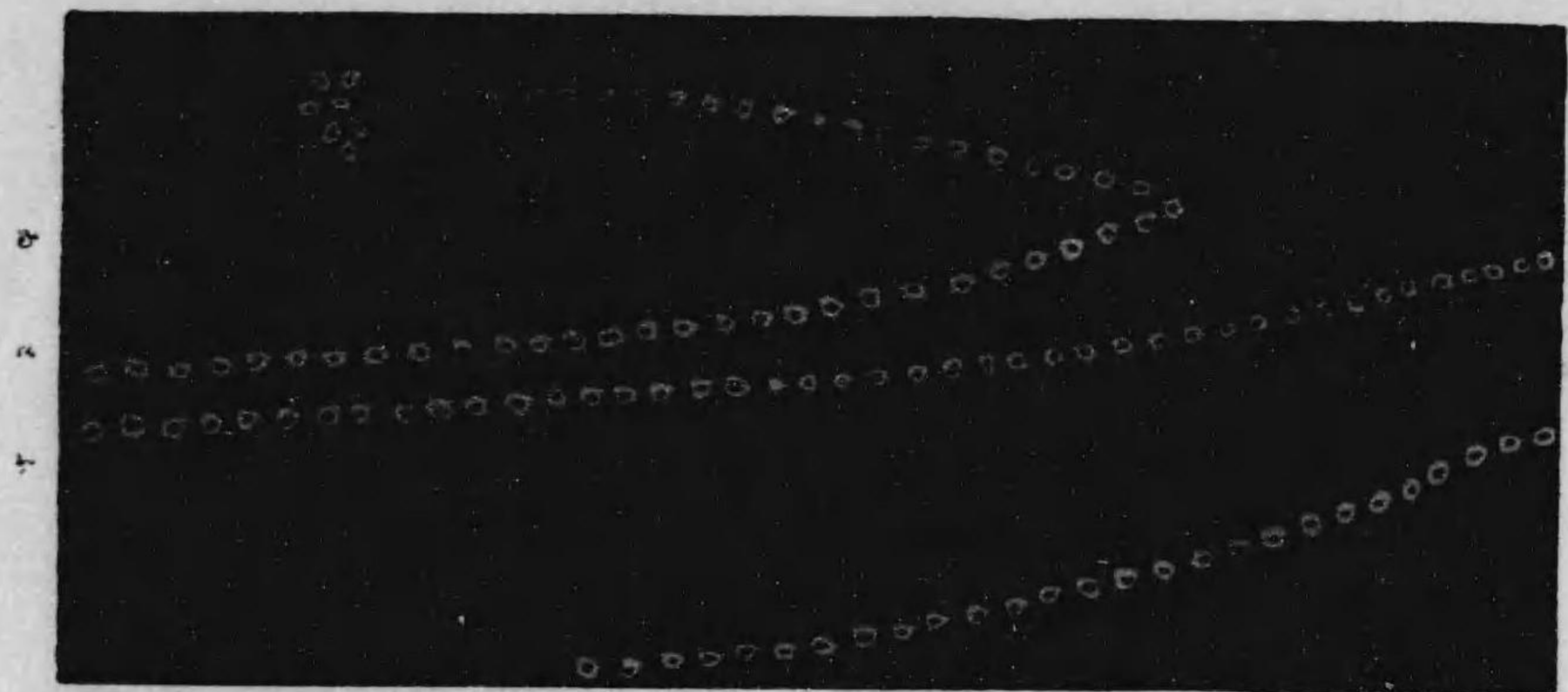
まのらさ



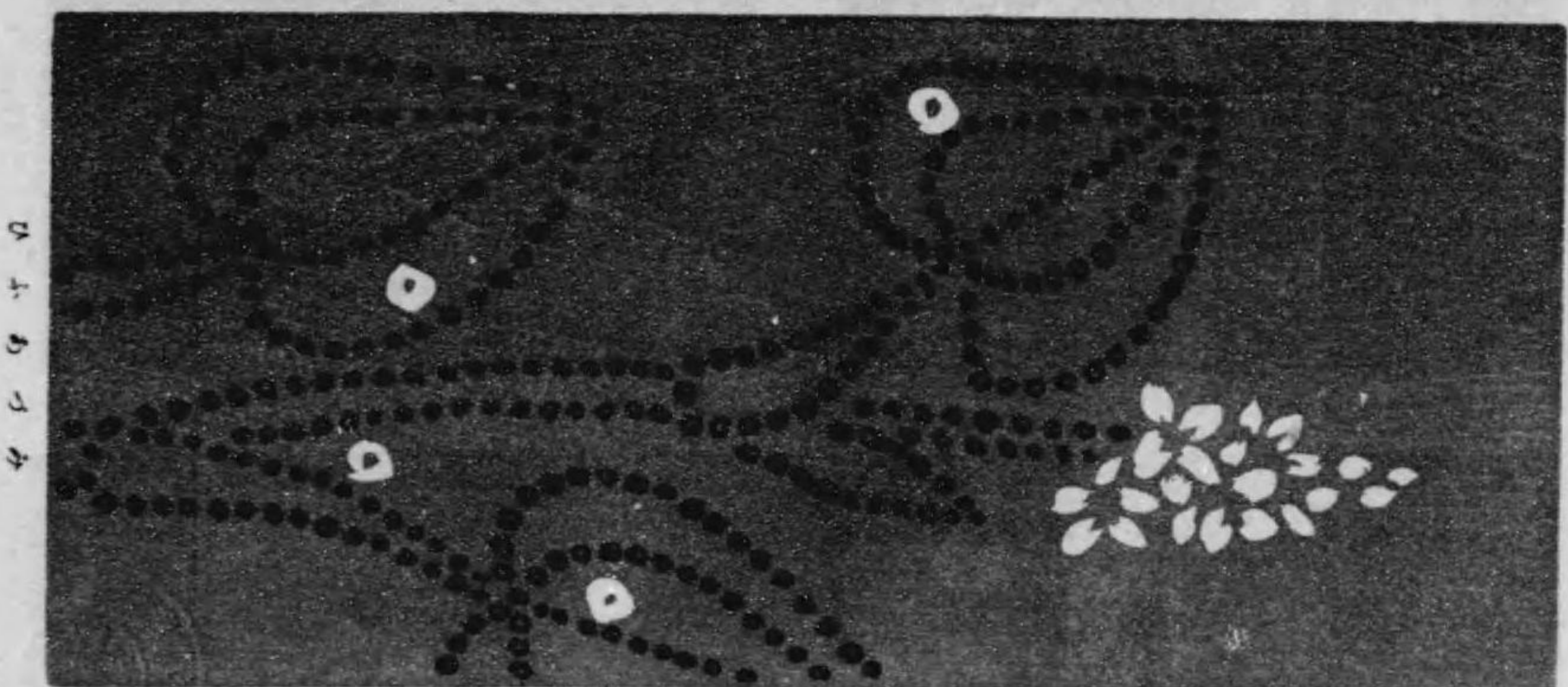
はんま



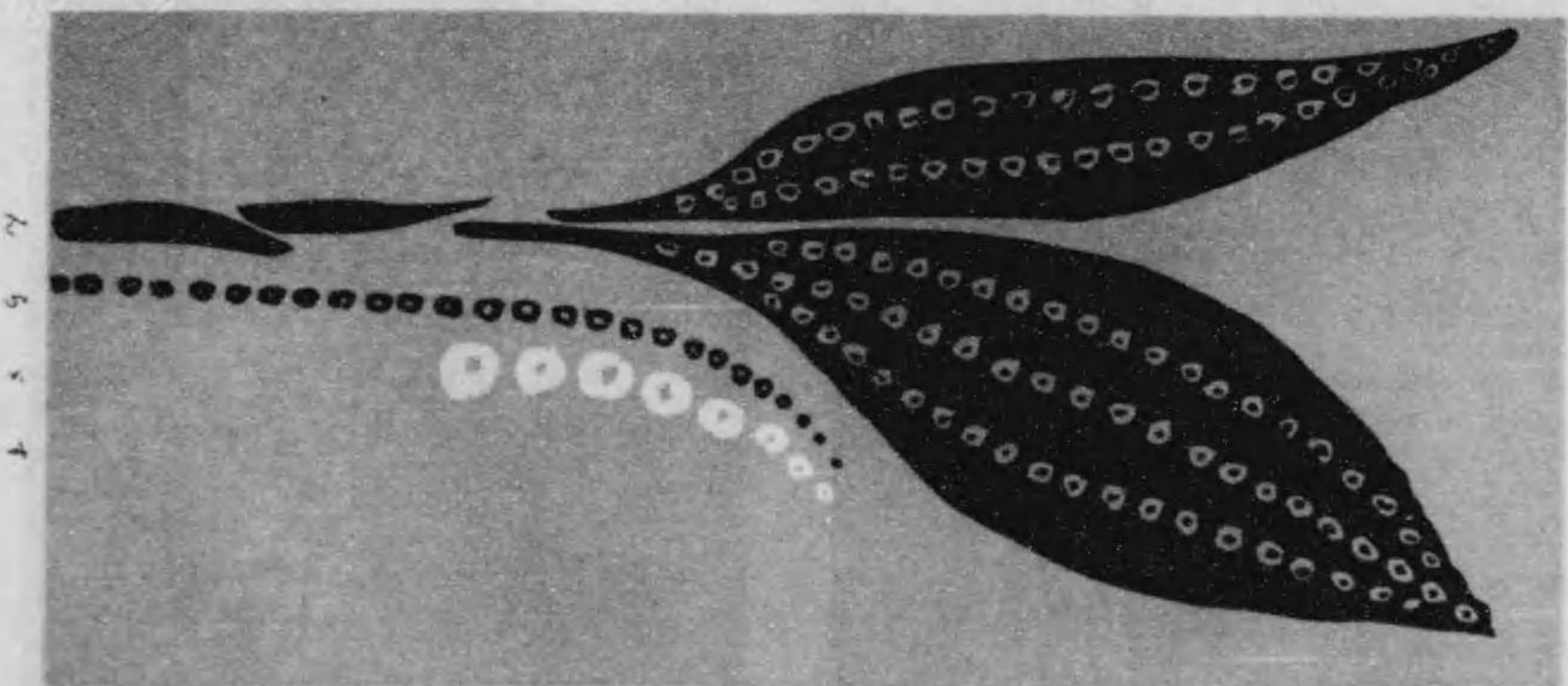
8



8  
2  
1

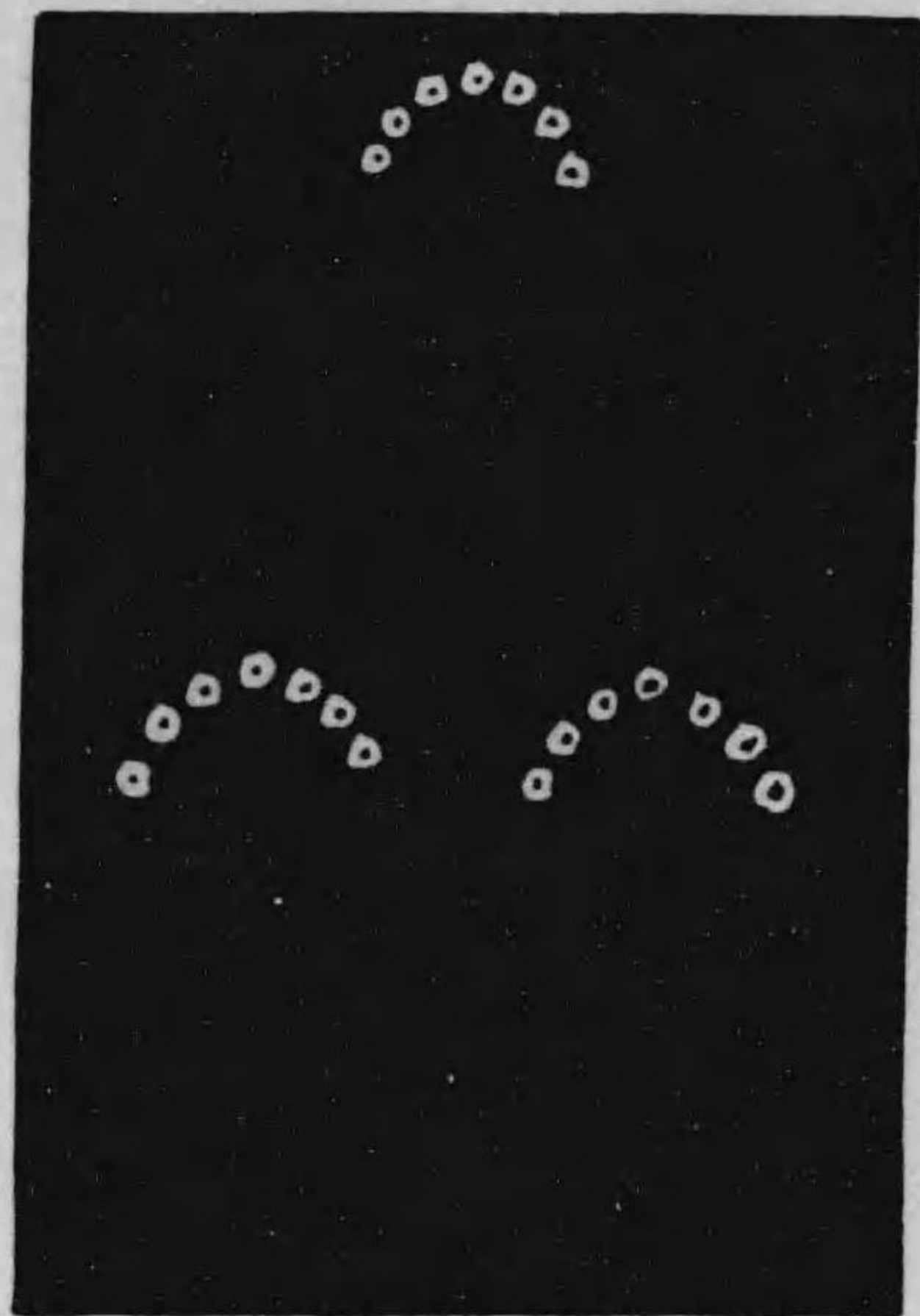


4  
3  
2  
1

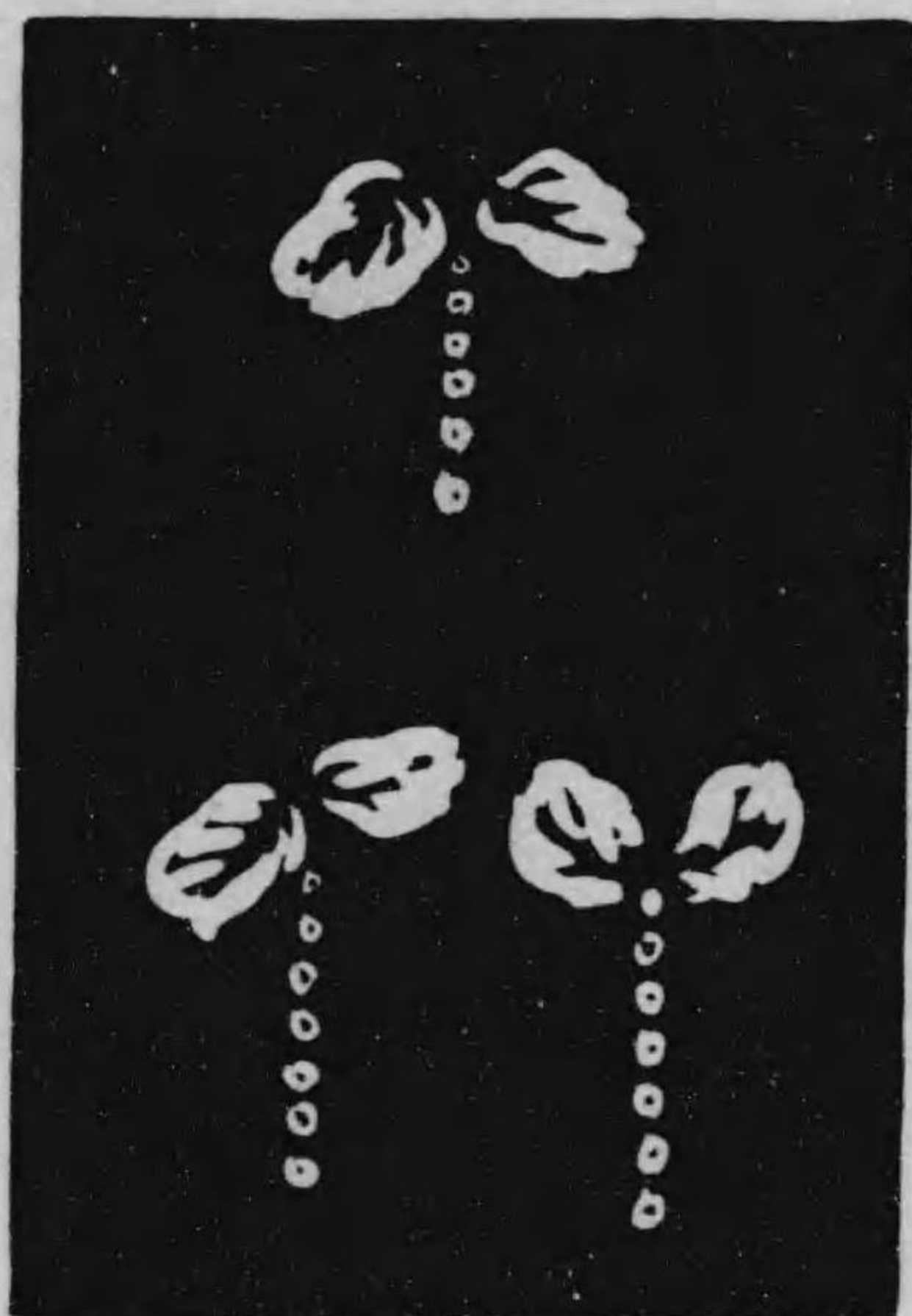


4  
3  
2  
1

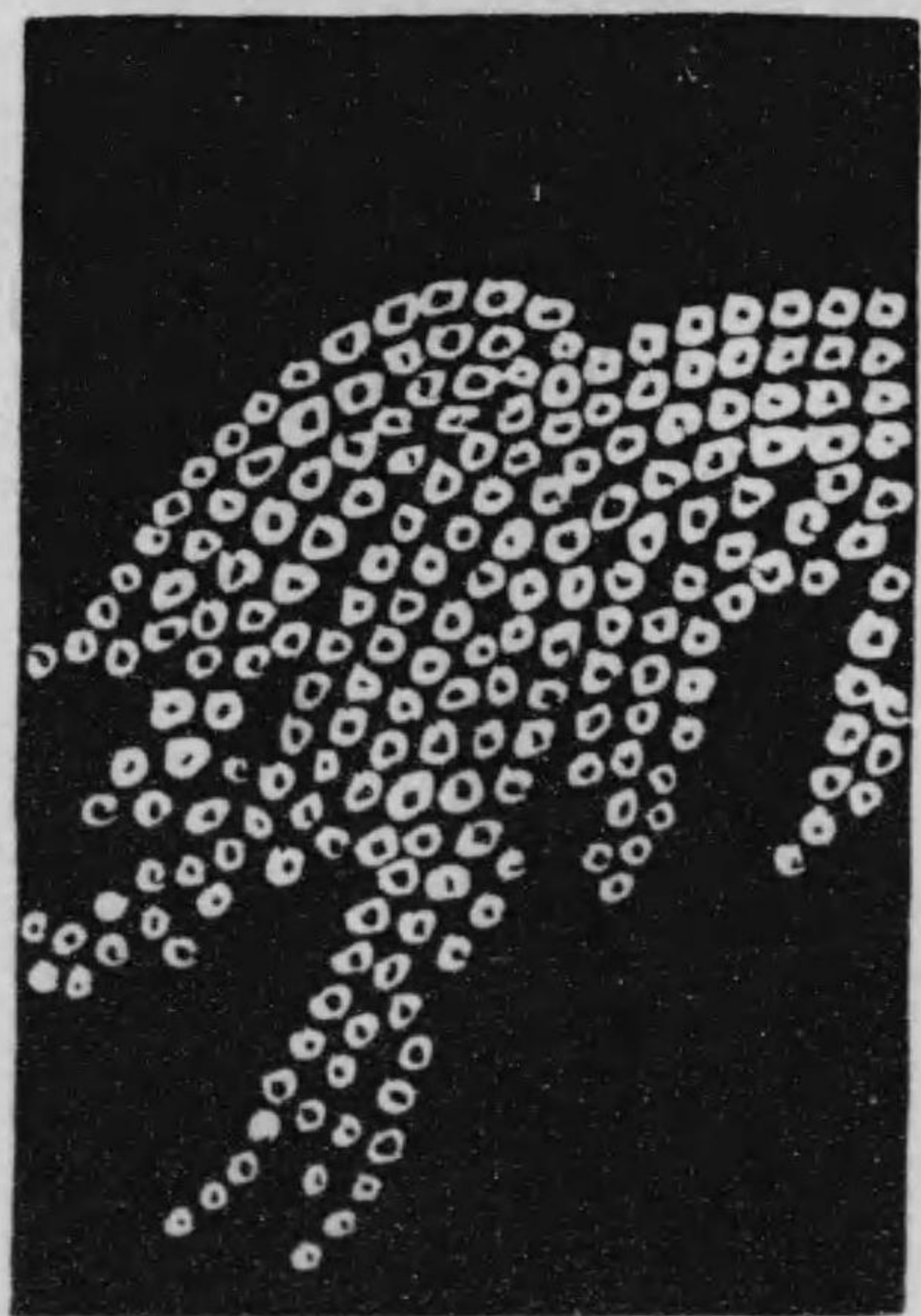




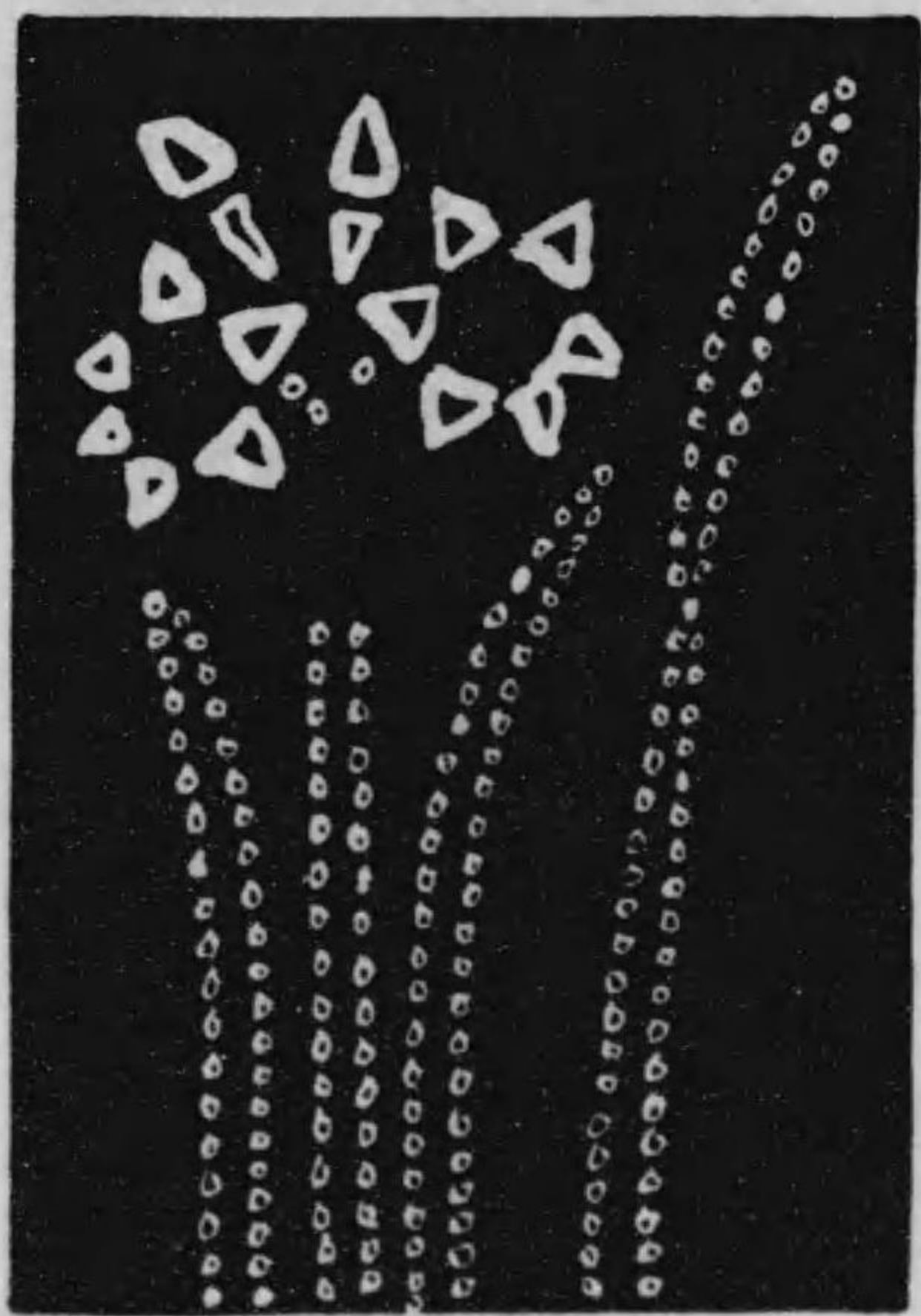
うかかつげ



芽のほがさあ



なほのう

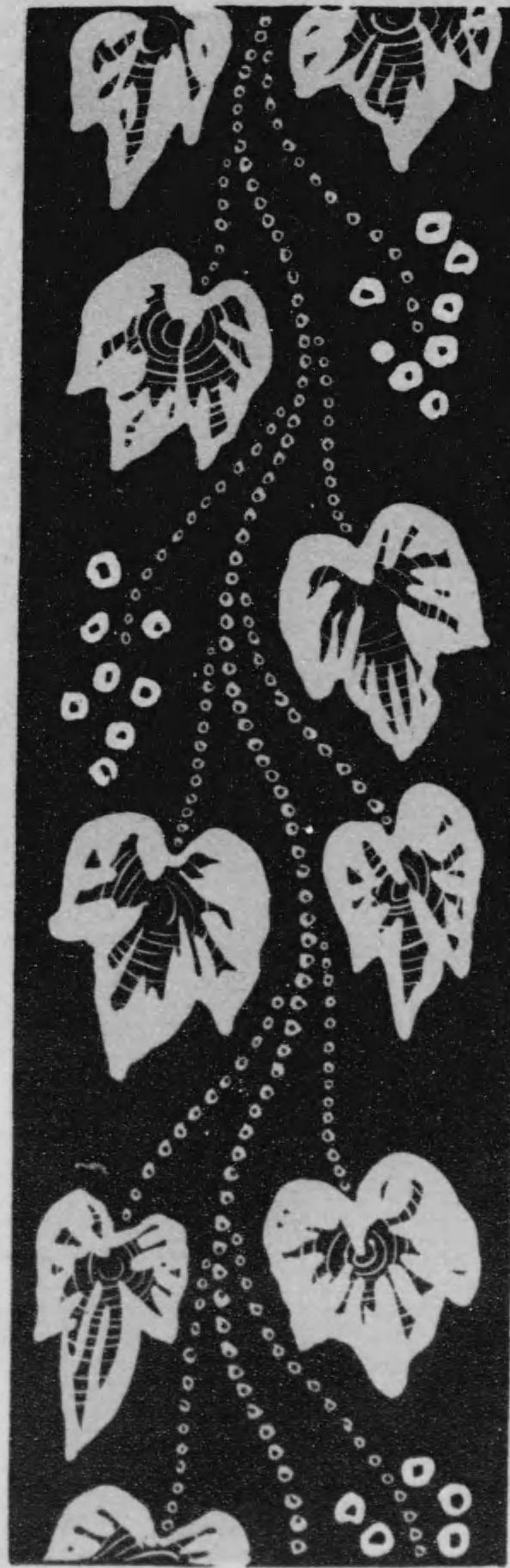


んせぬす



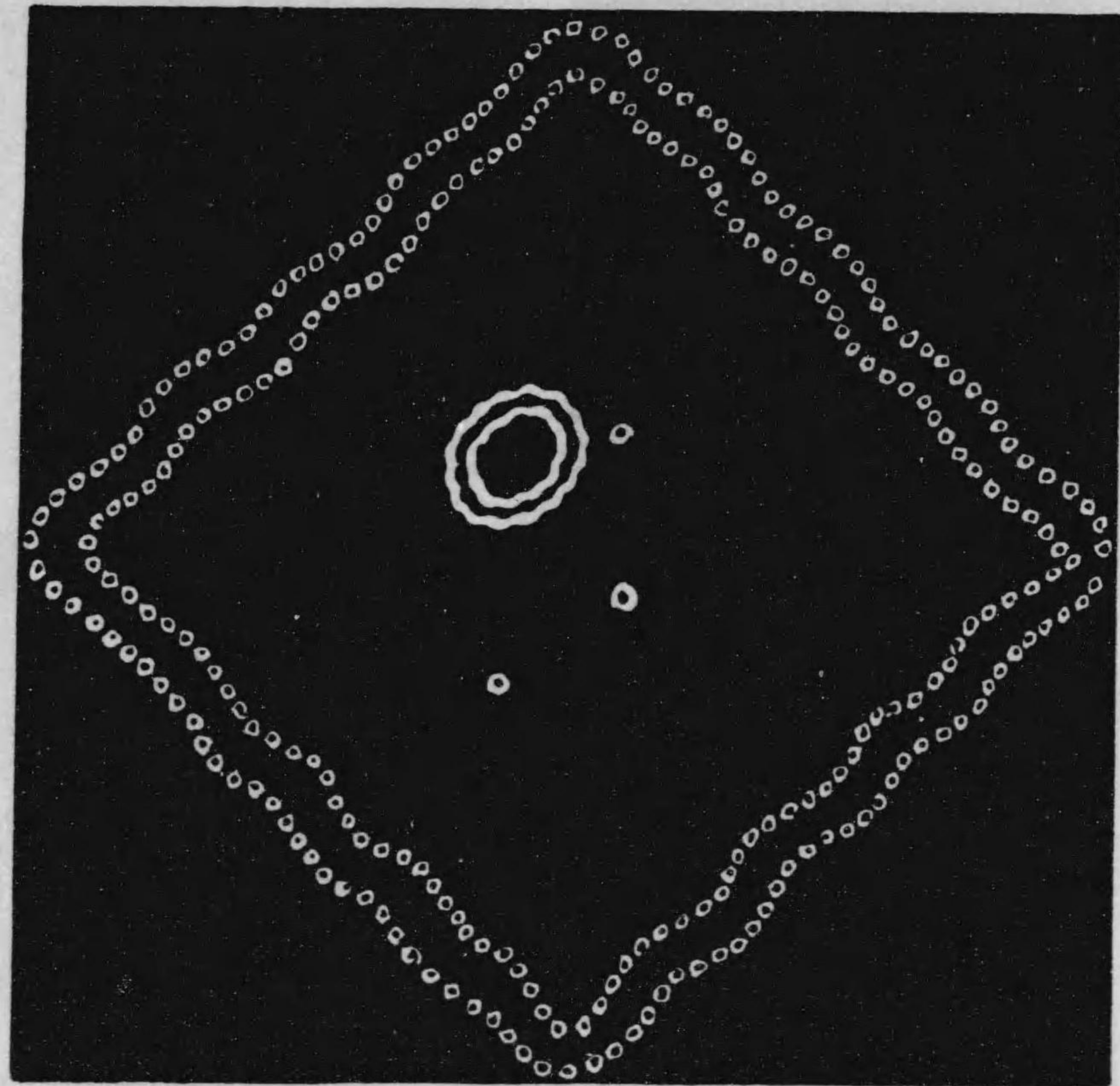


花のり



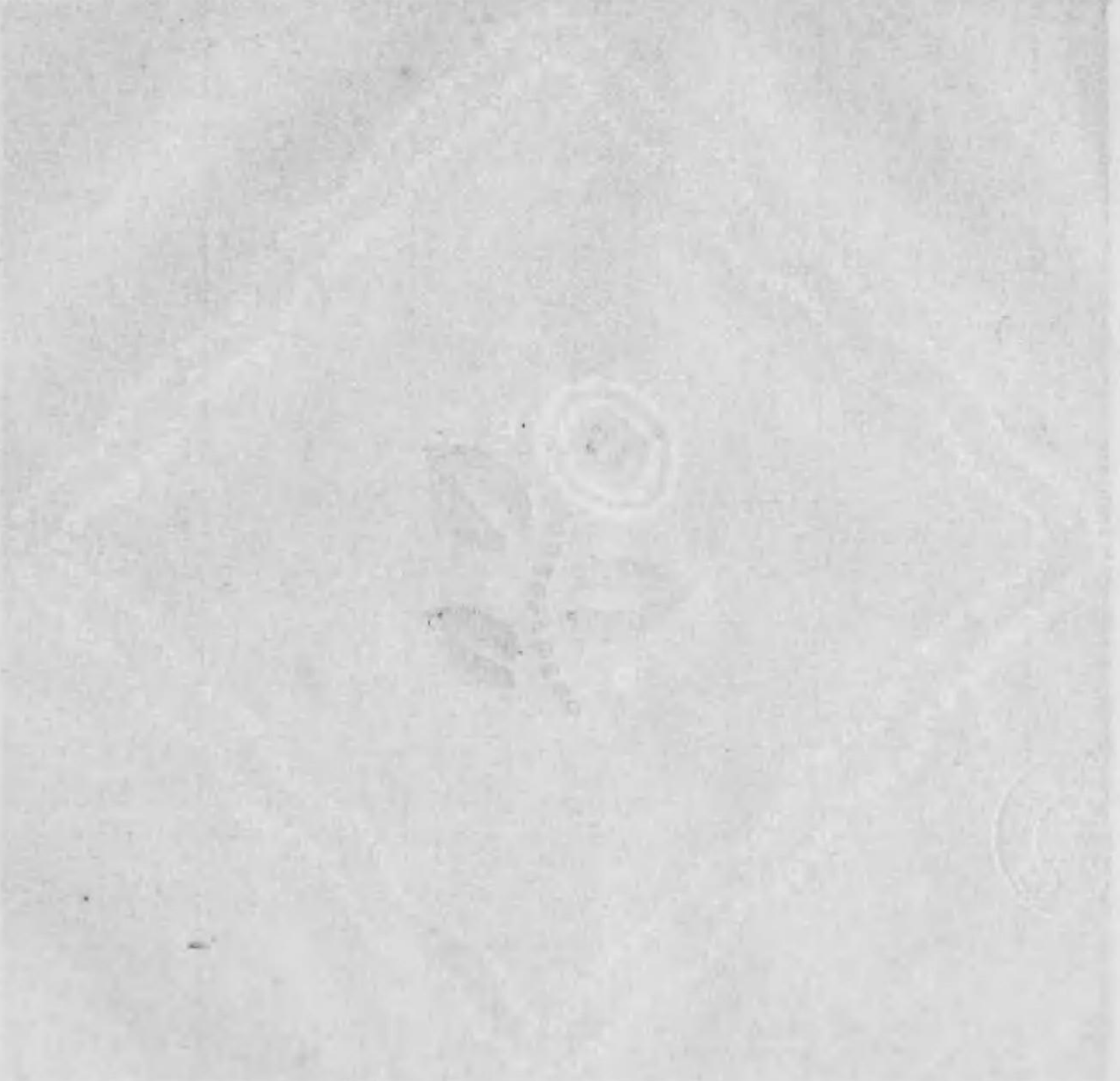
花のり





6 12

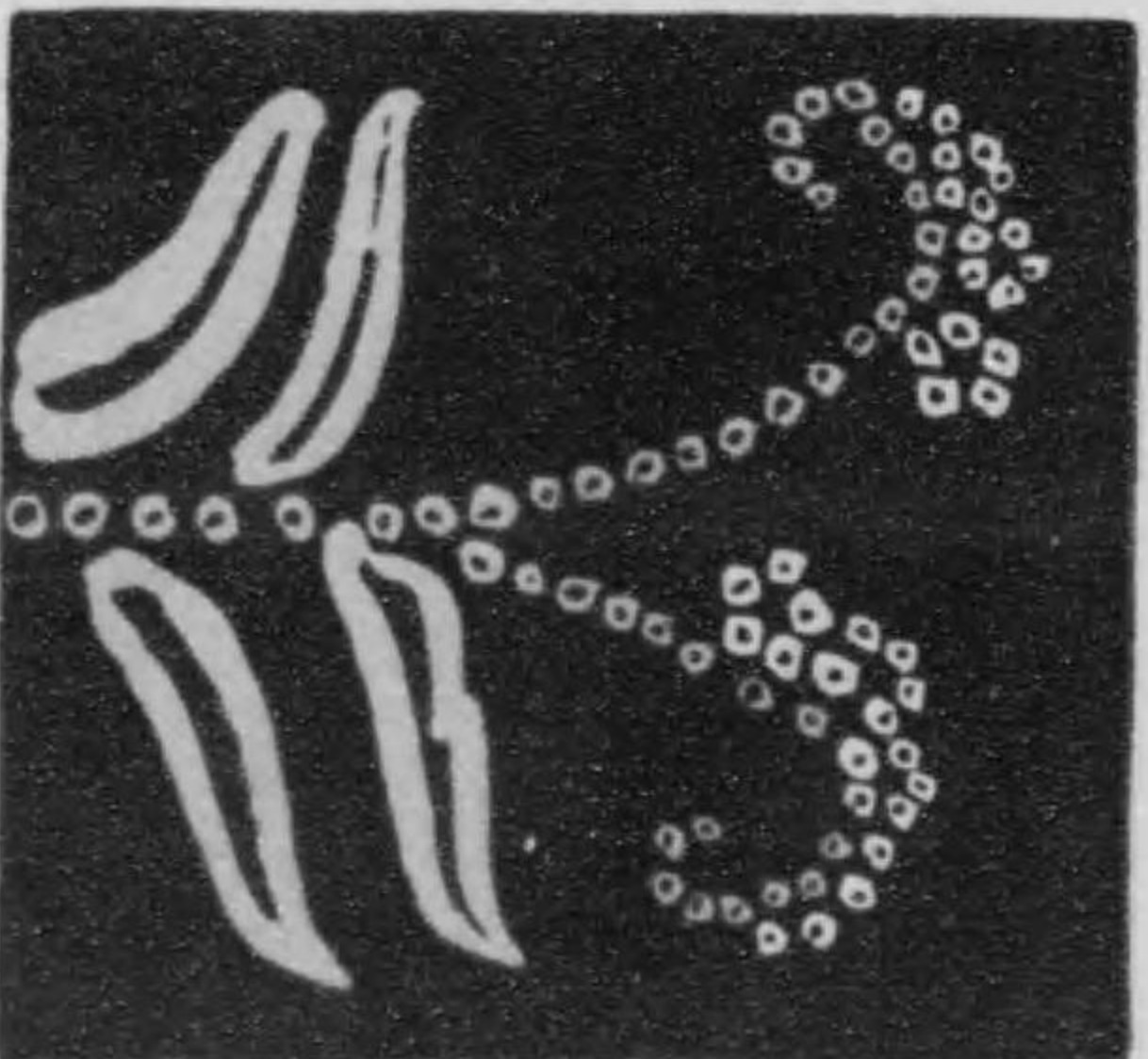




リ 中 大 法



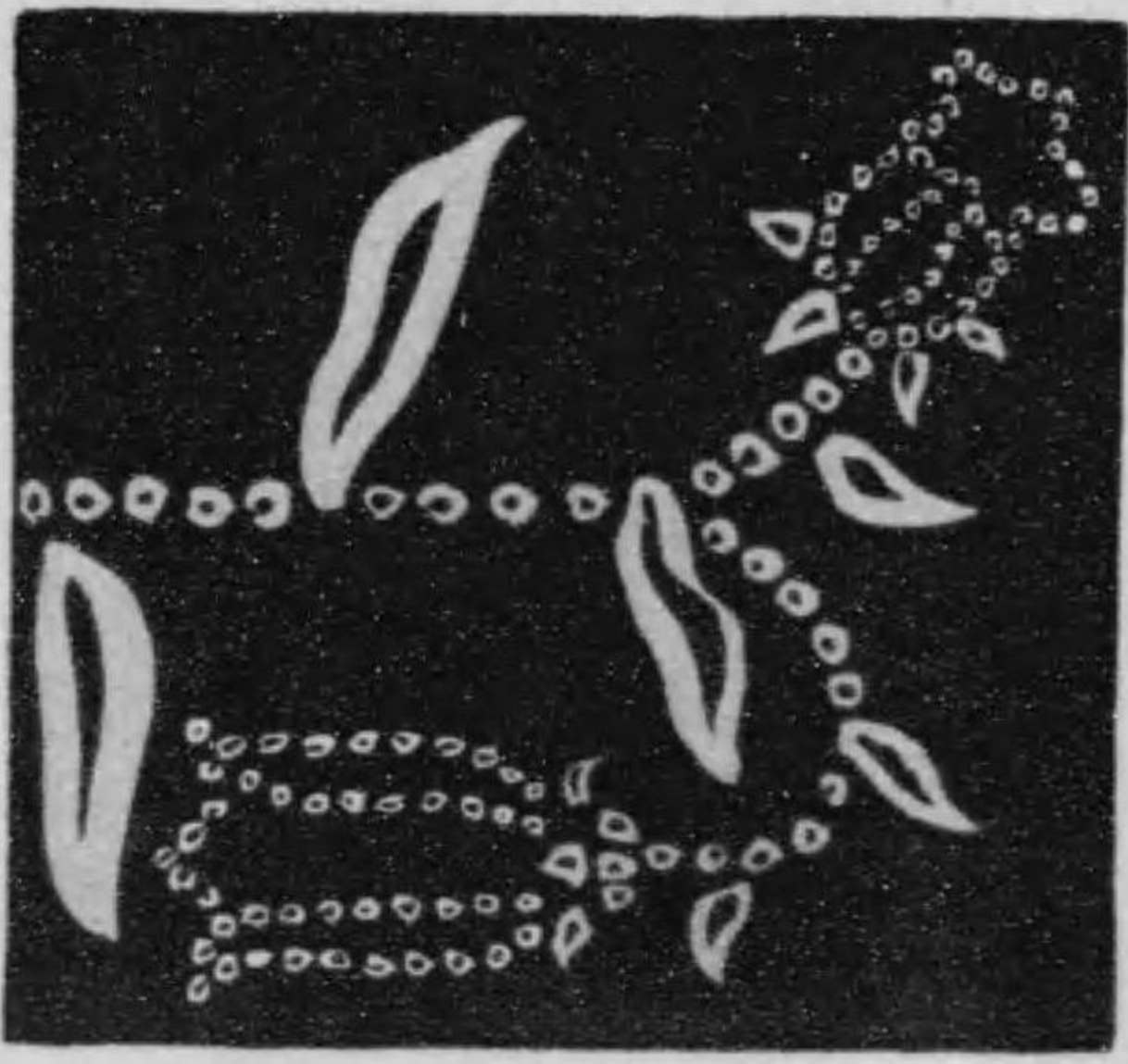
リ 中 大 法



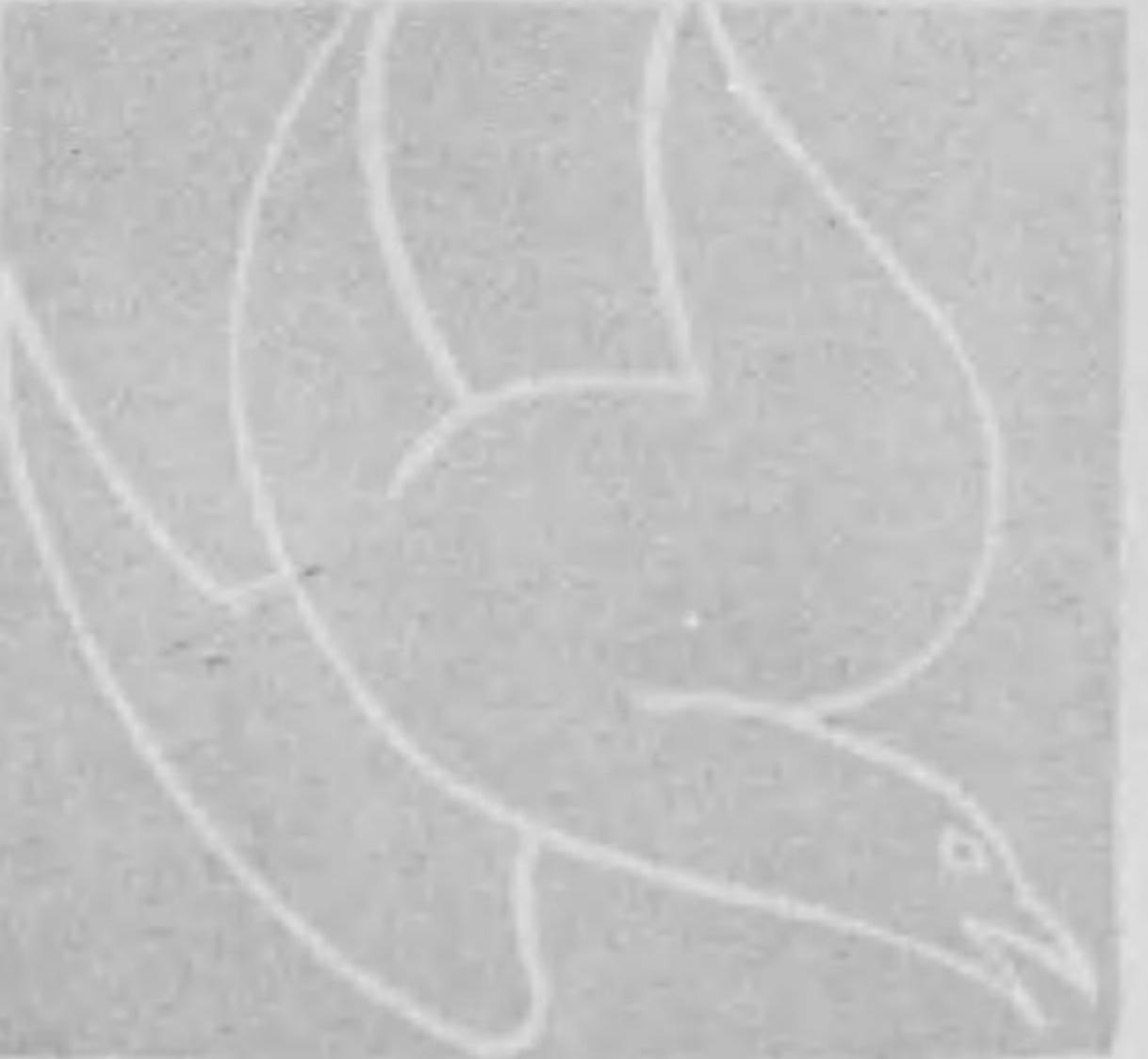
リ 中 大 法



リ 中 大 法

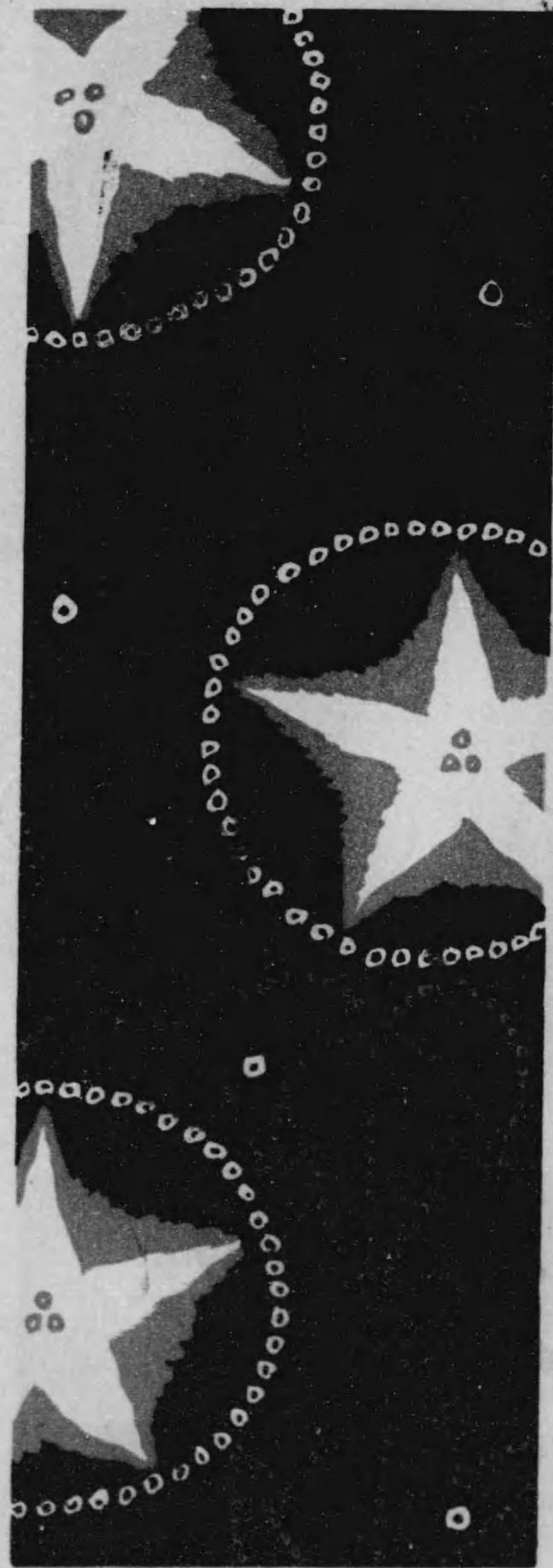


リ 中 大 法

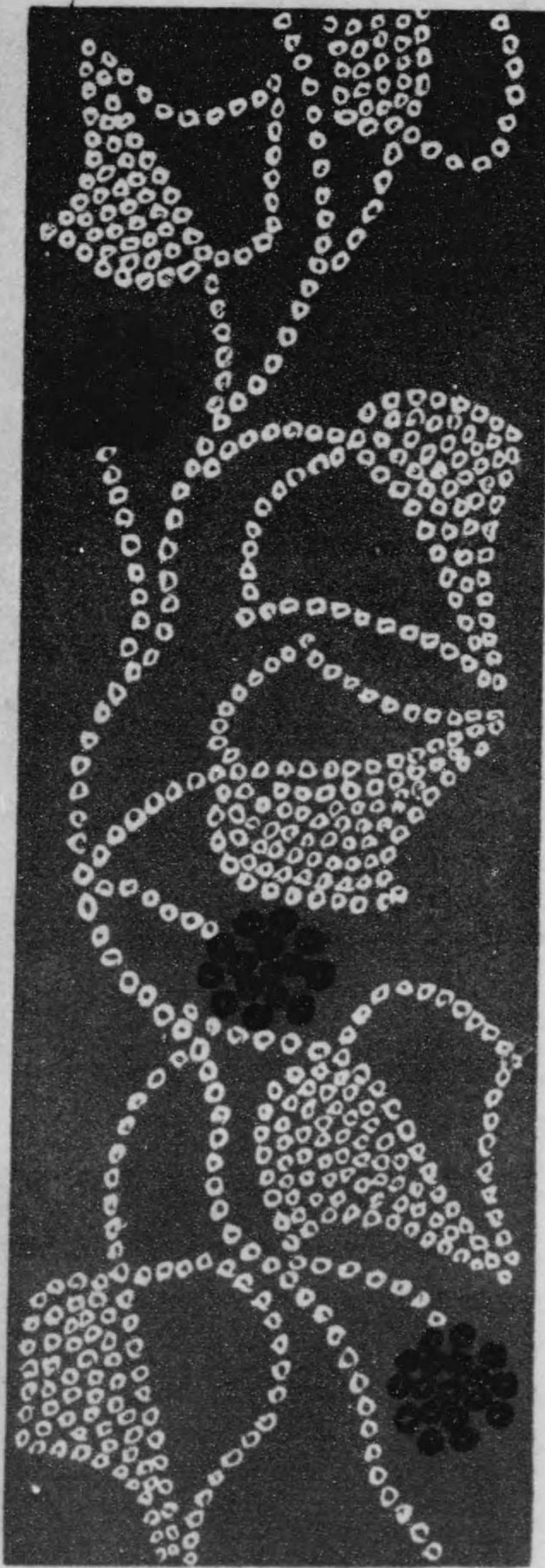


リ 中 大 法

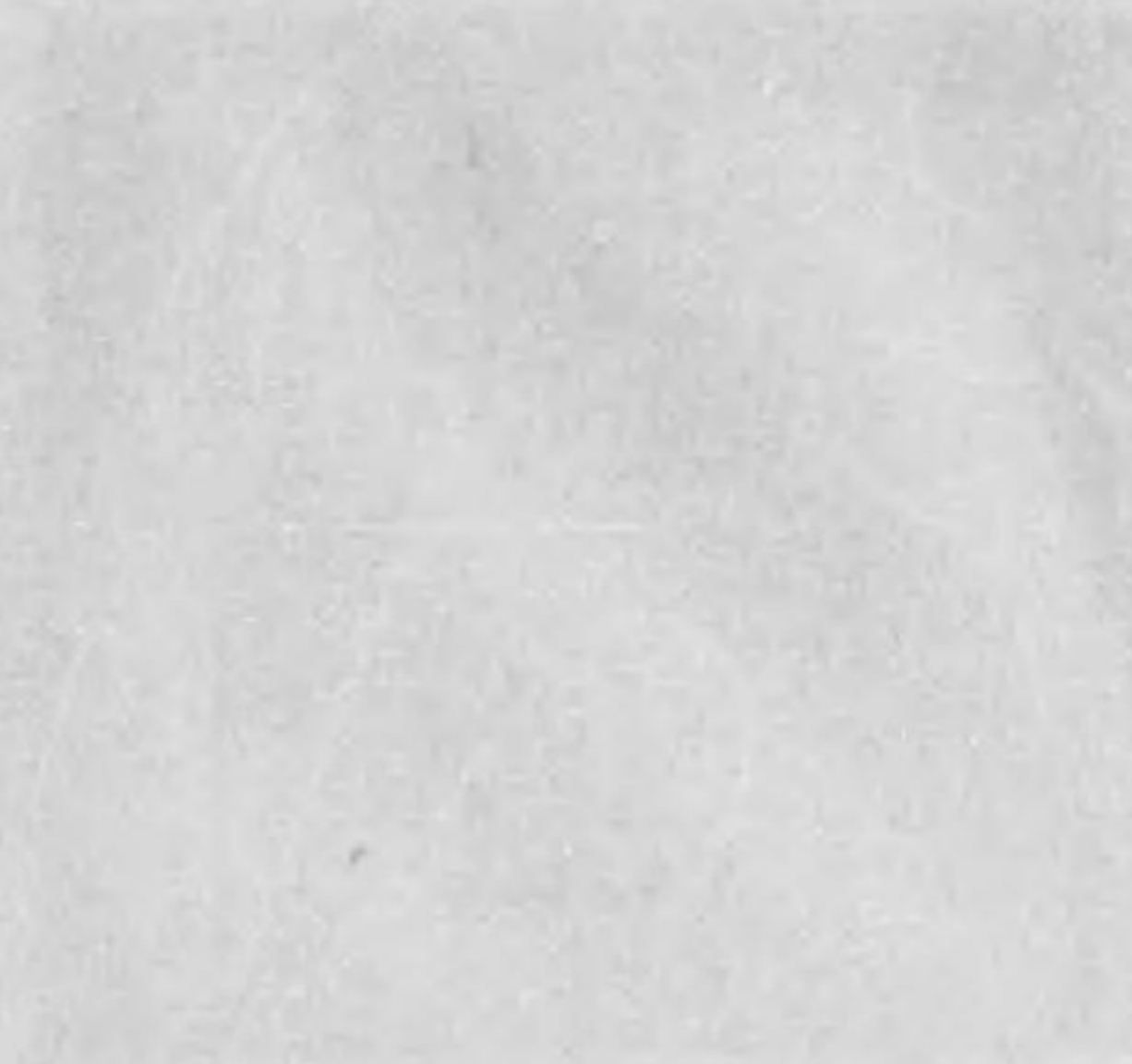


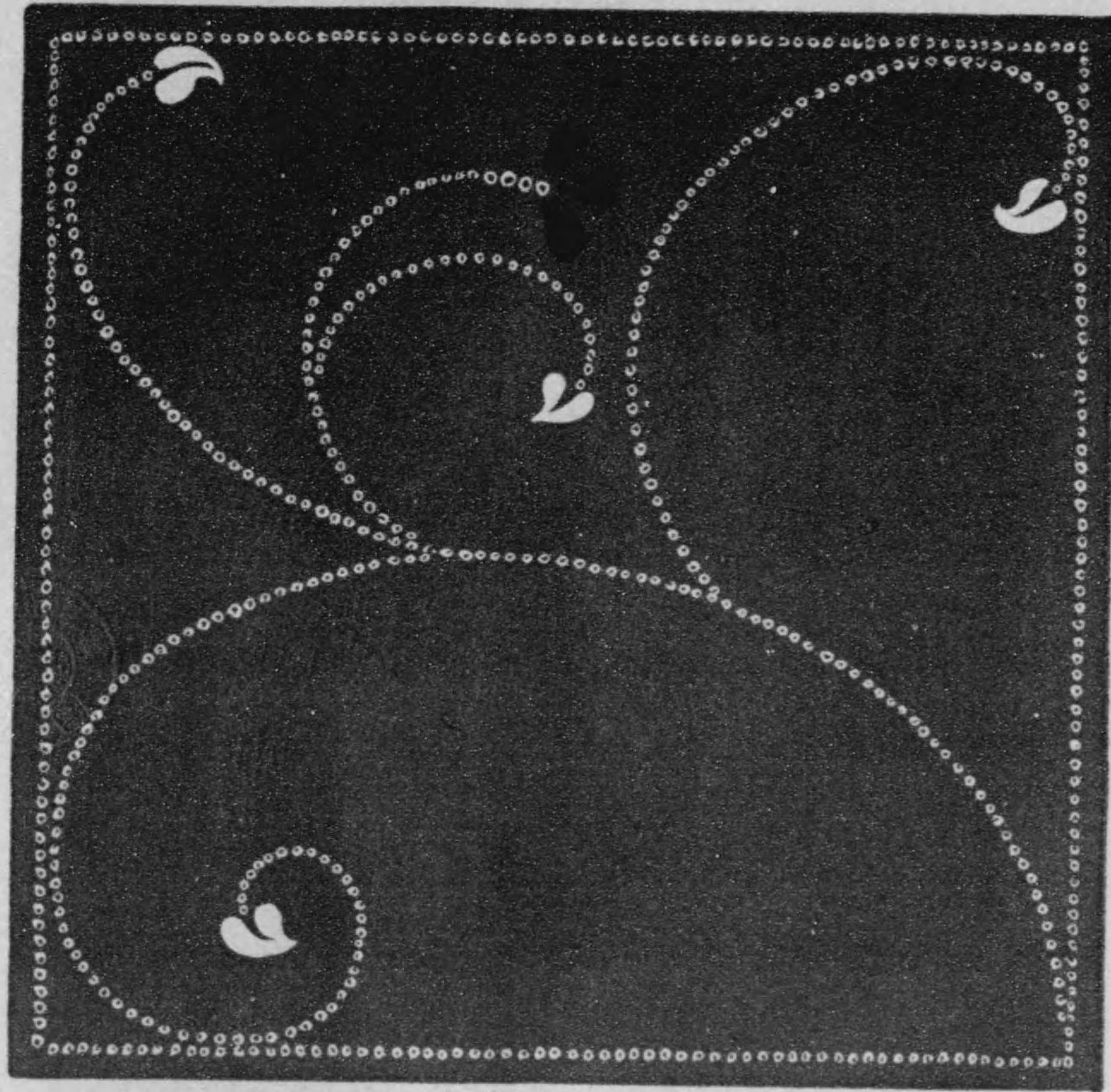


12 2 3 4



13 5 6 7

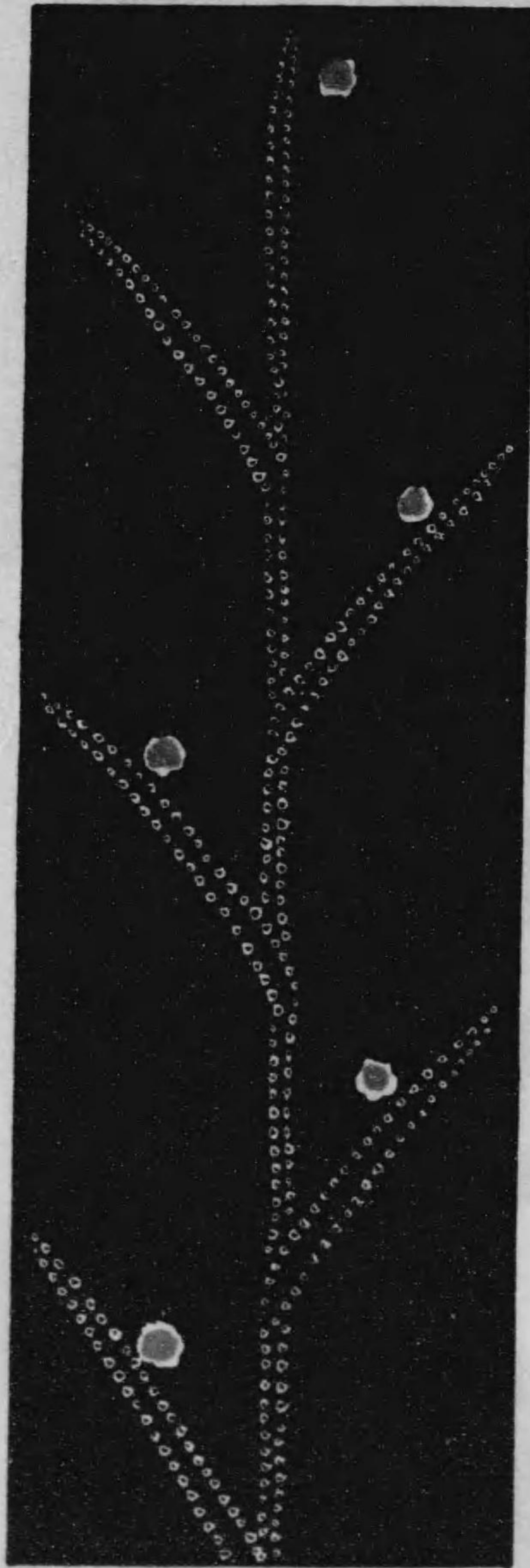




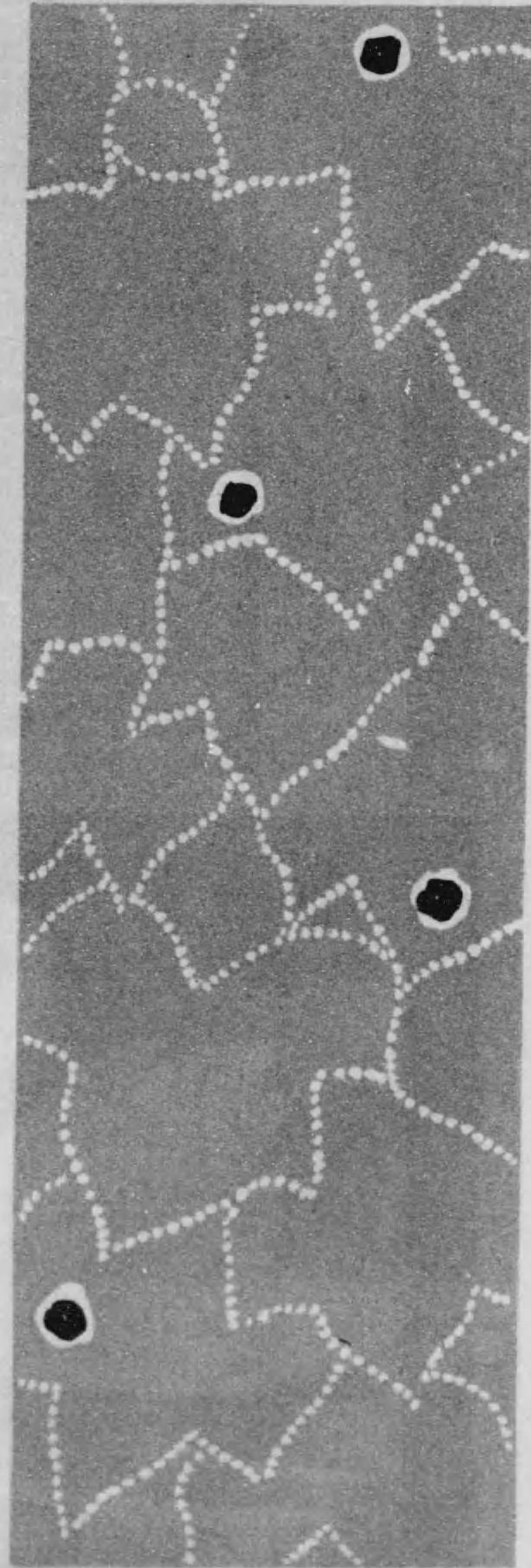
うさらくまこ



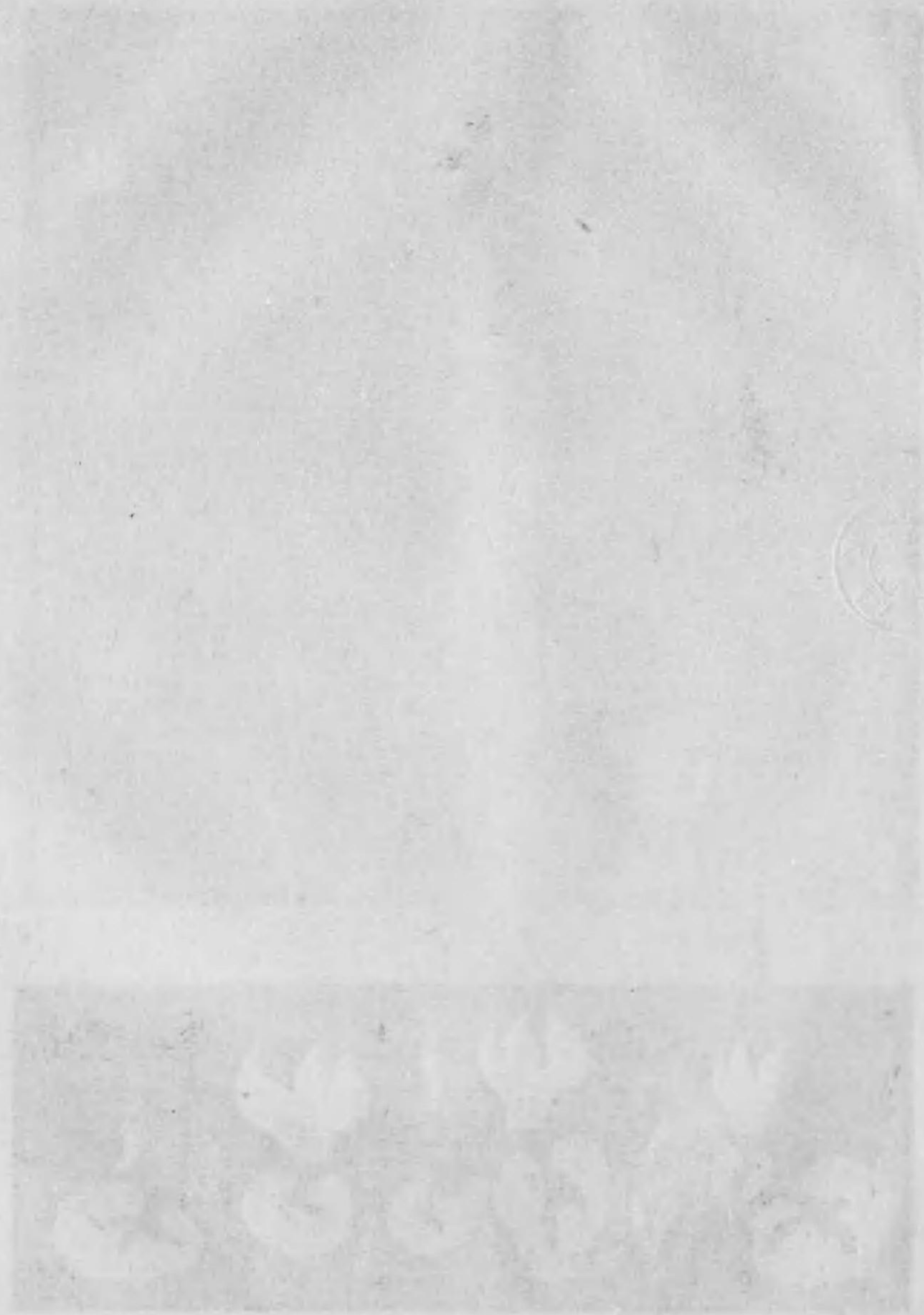
うさらくまこ



あだはにしめ



あだはにしめ



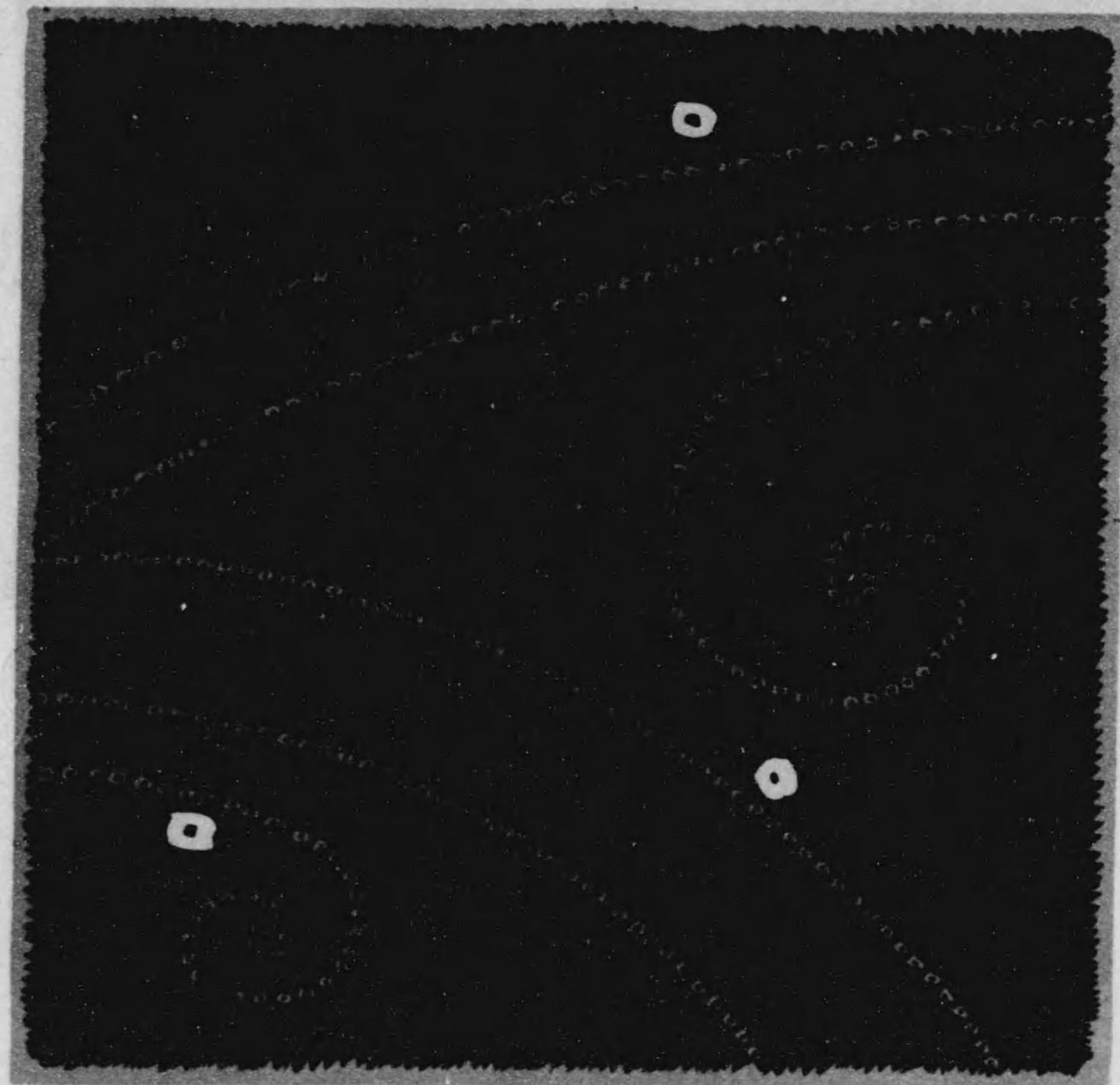


т и



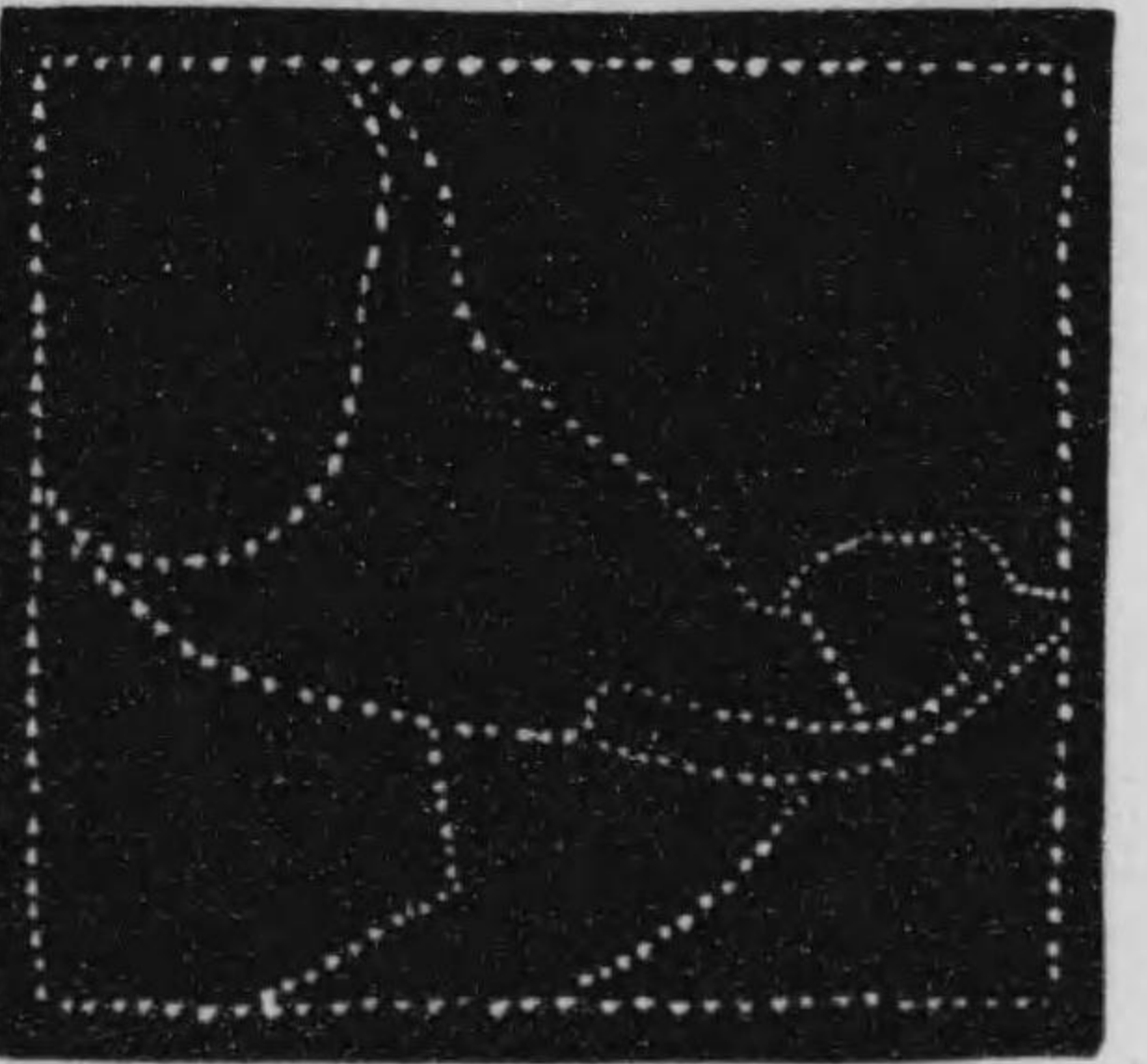
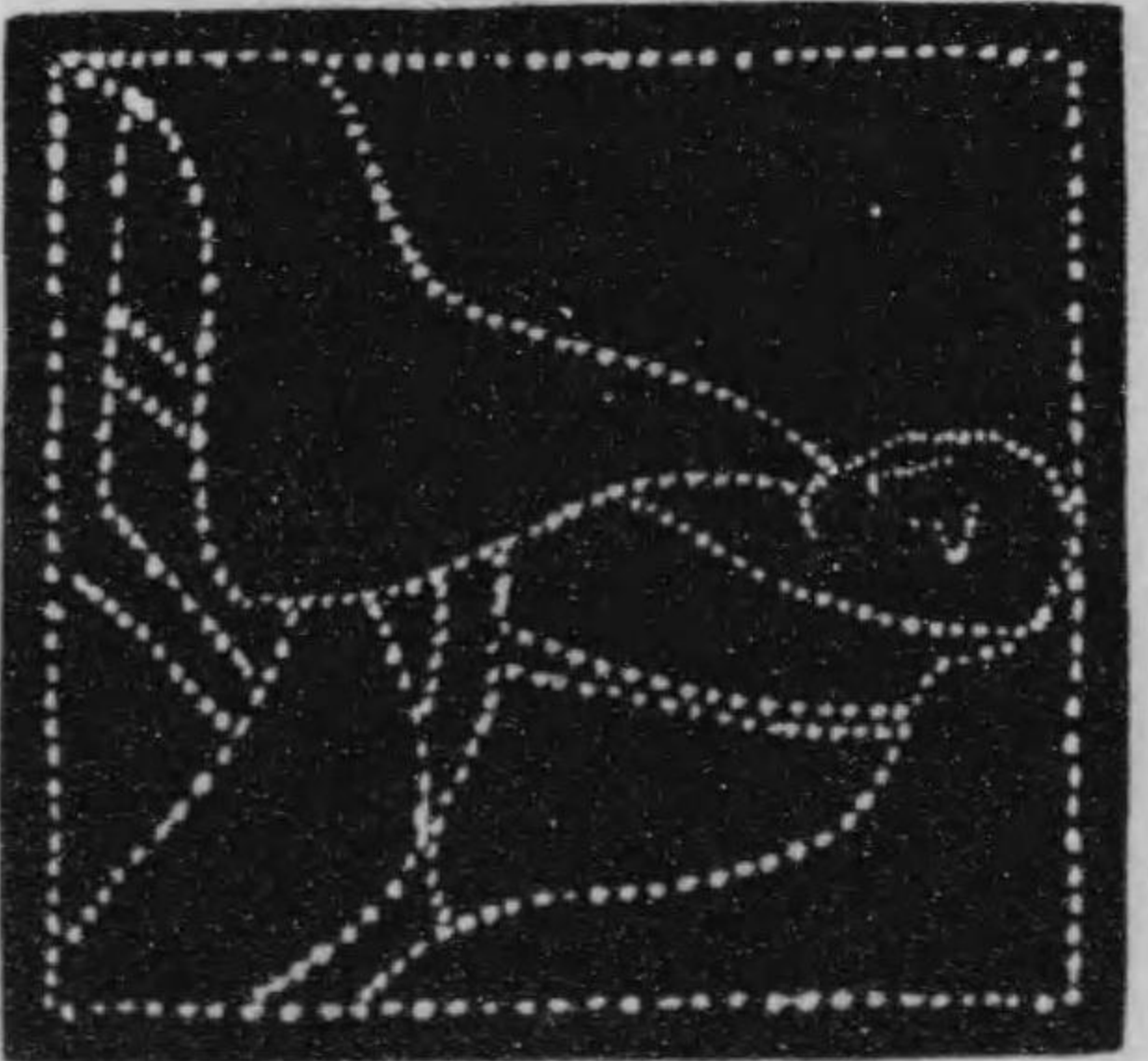
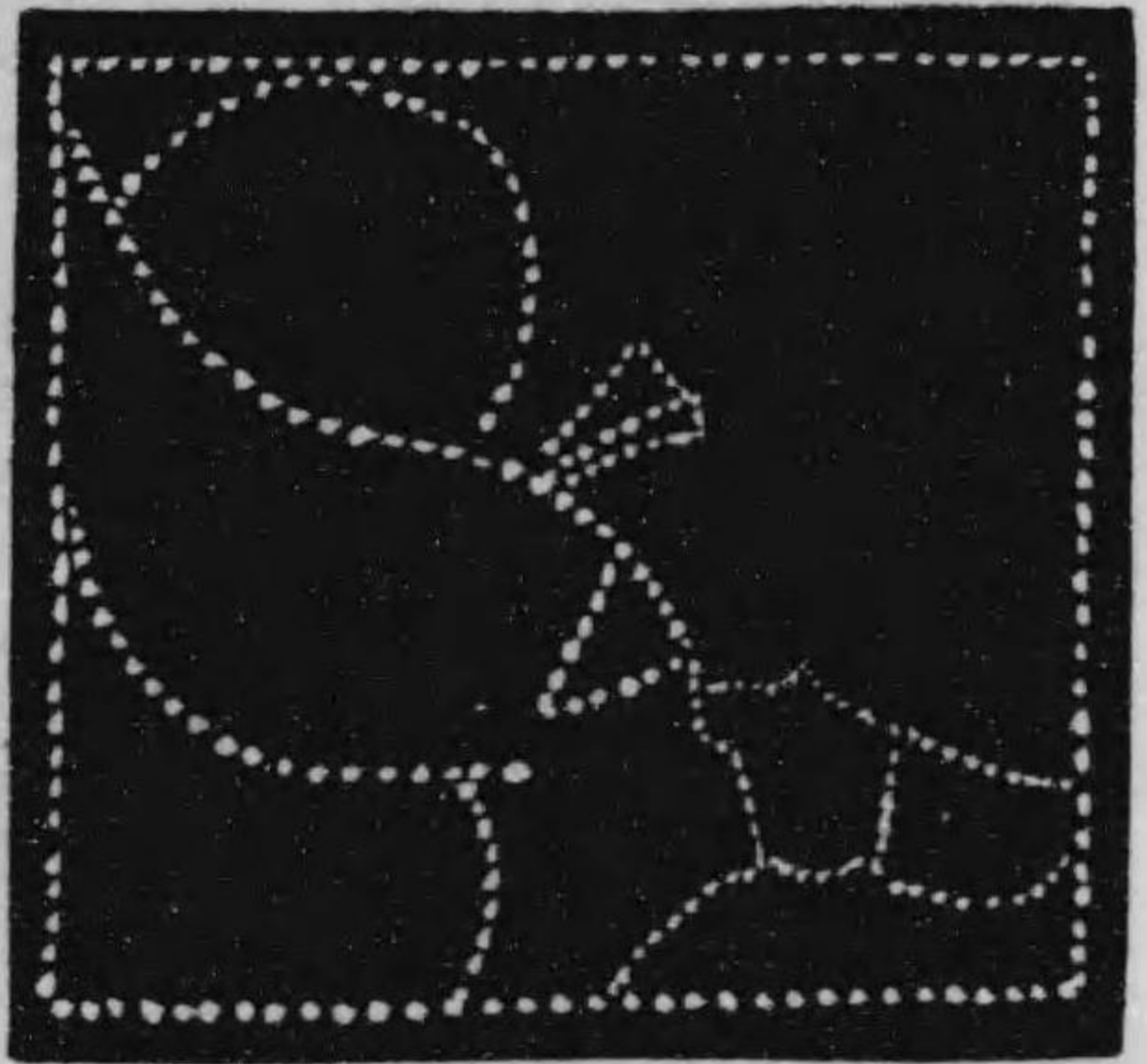
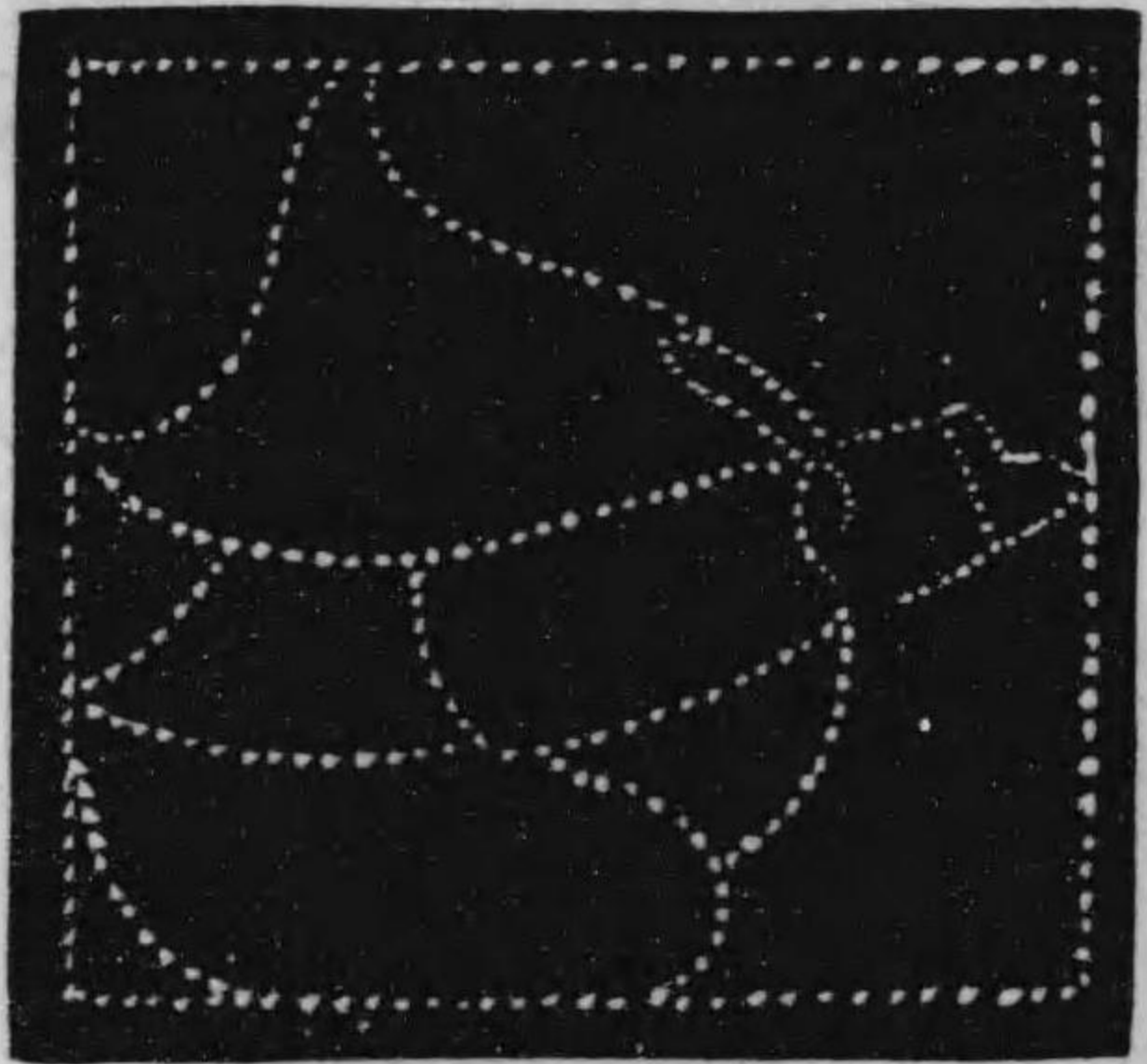
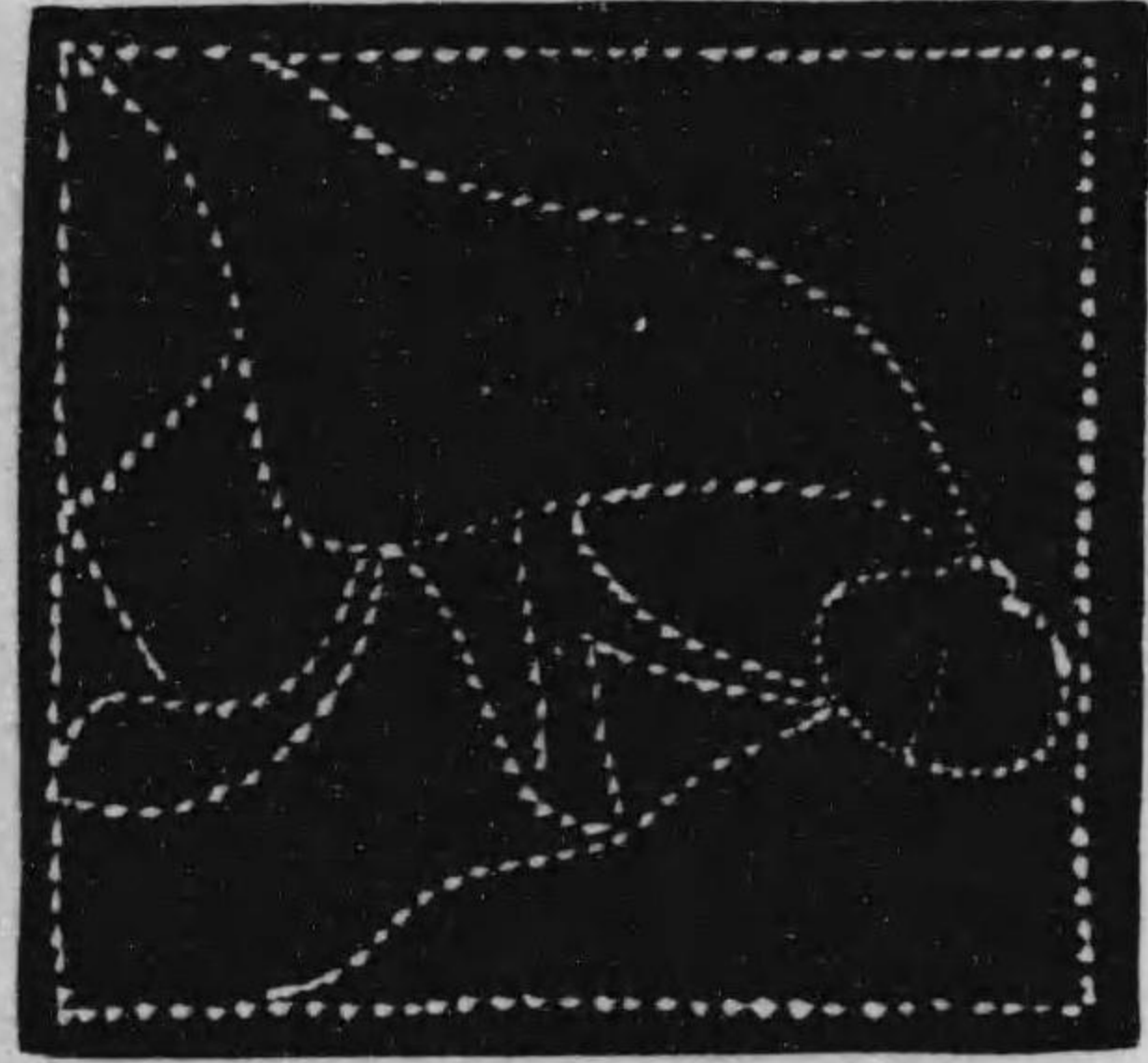
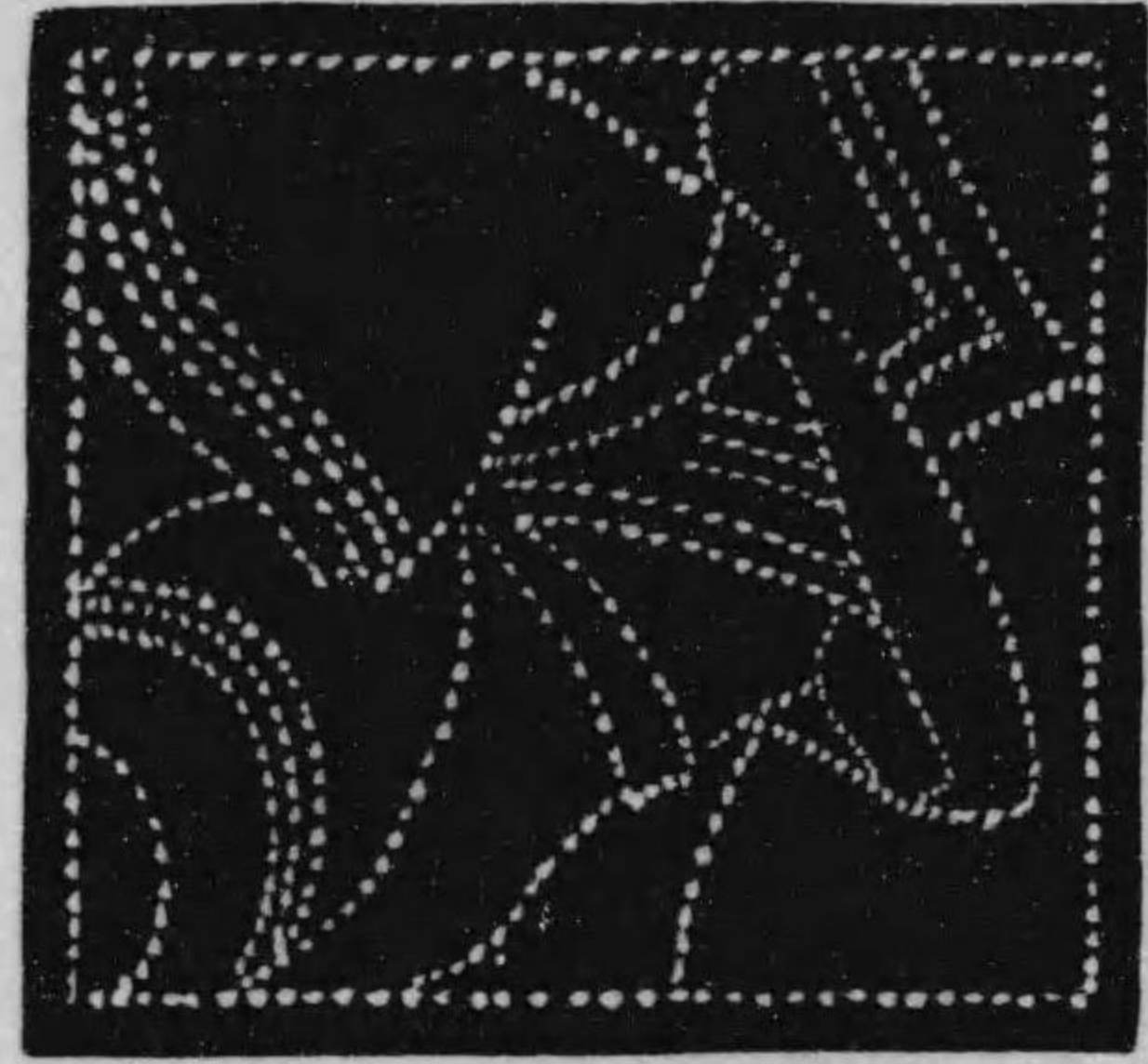
к а в г



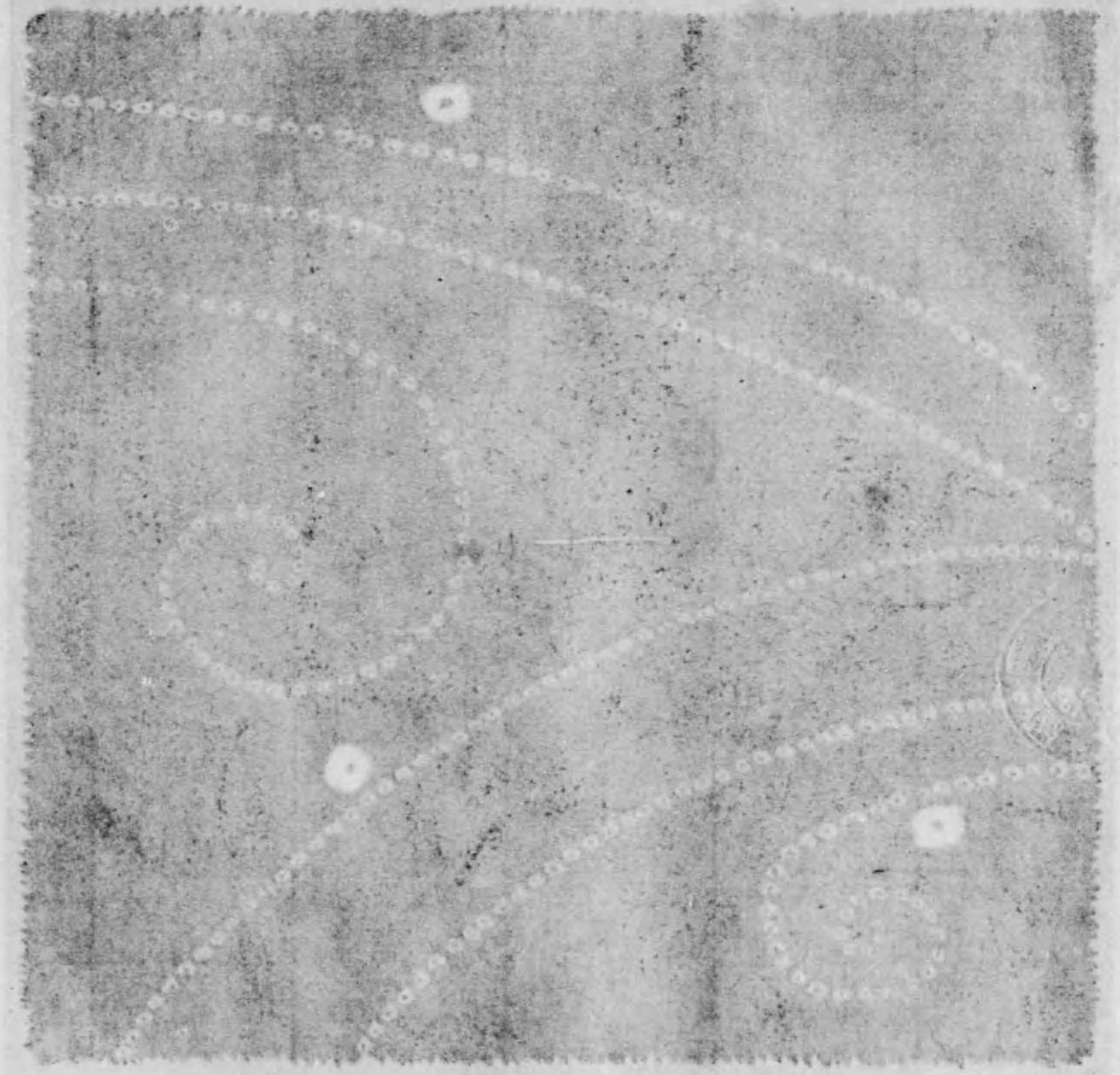


71

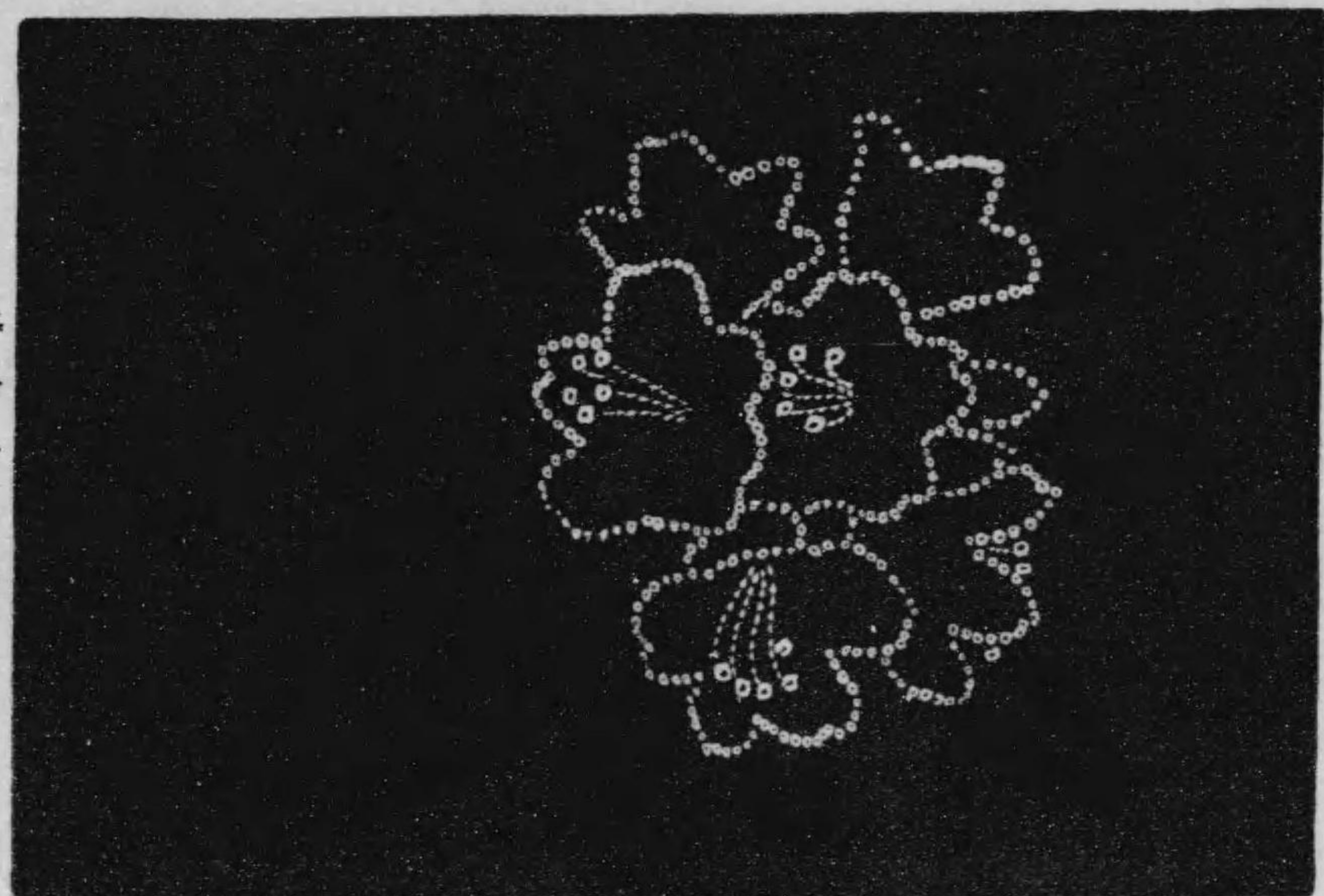




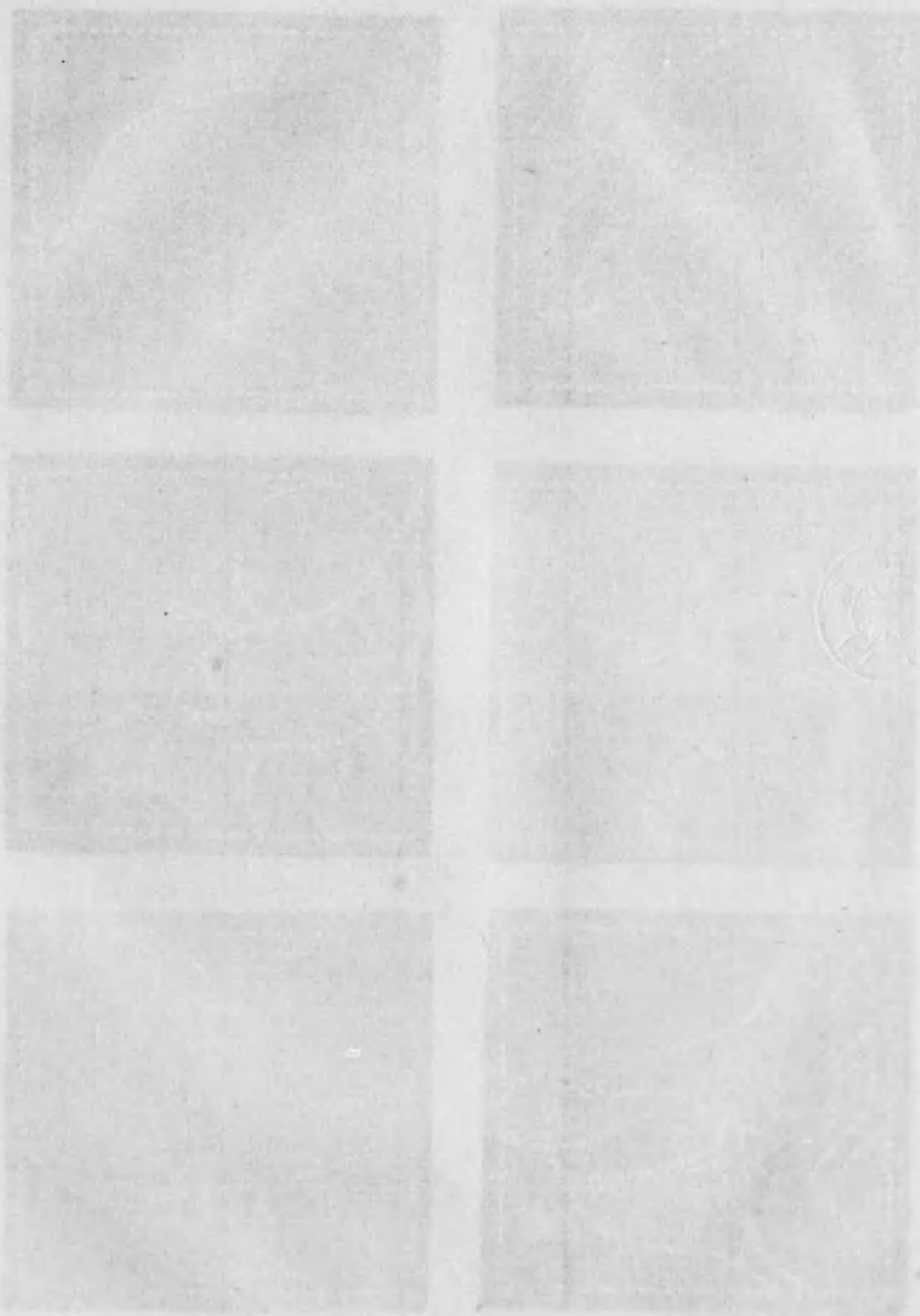
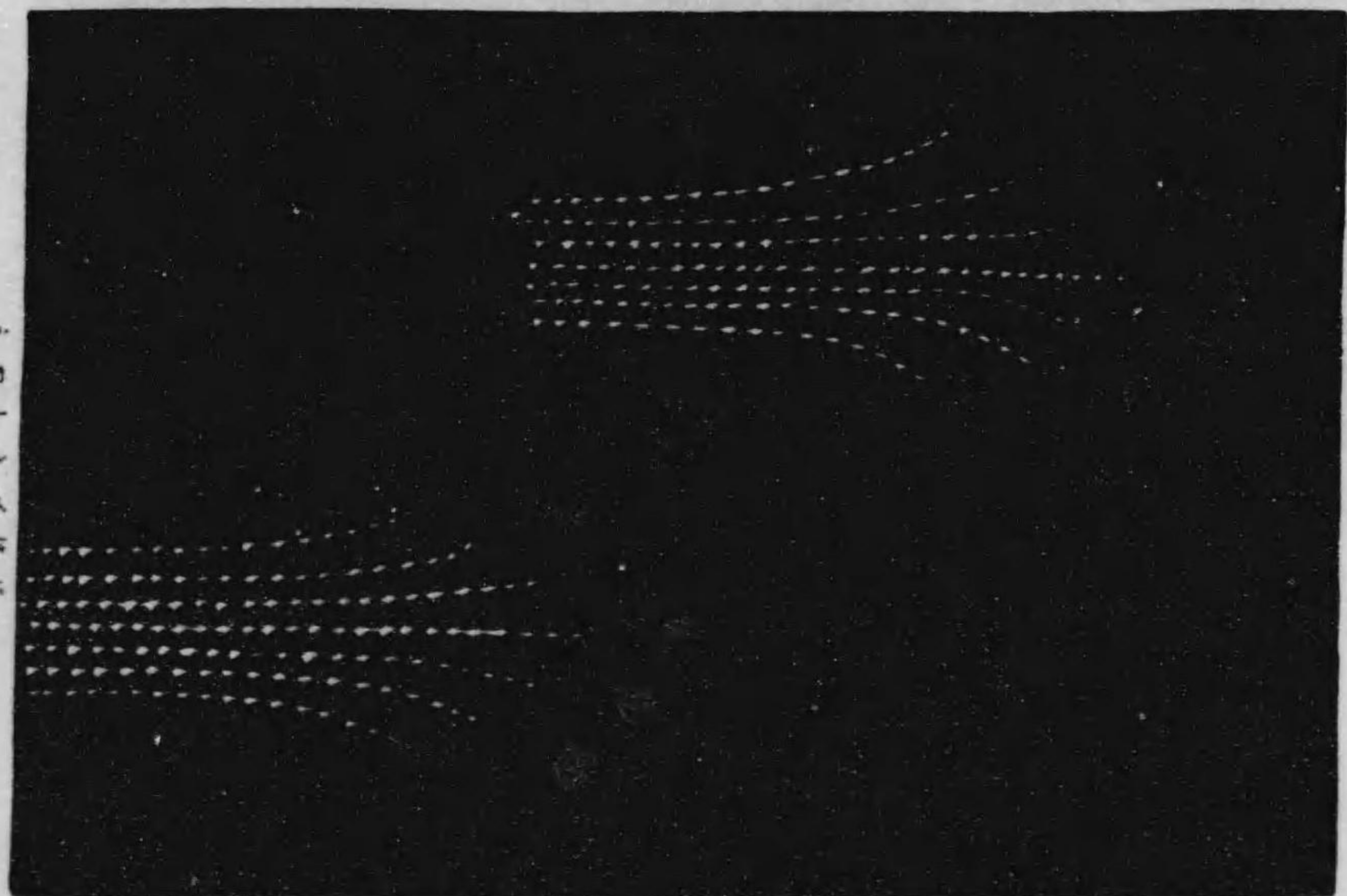
5  
4  
3  
2  
1

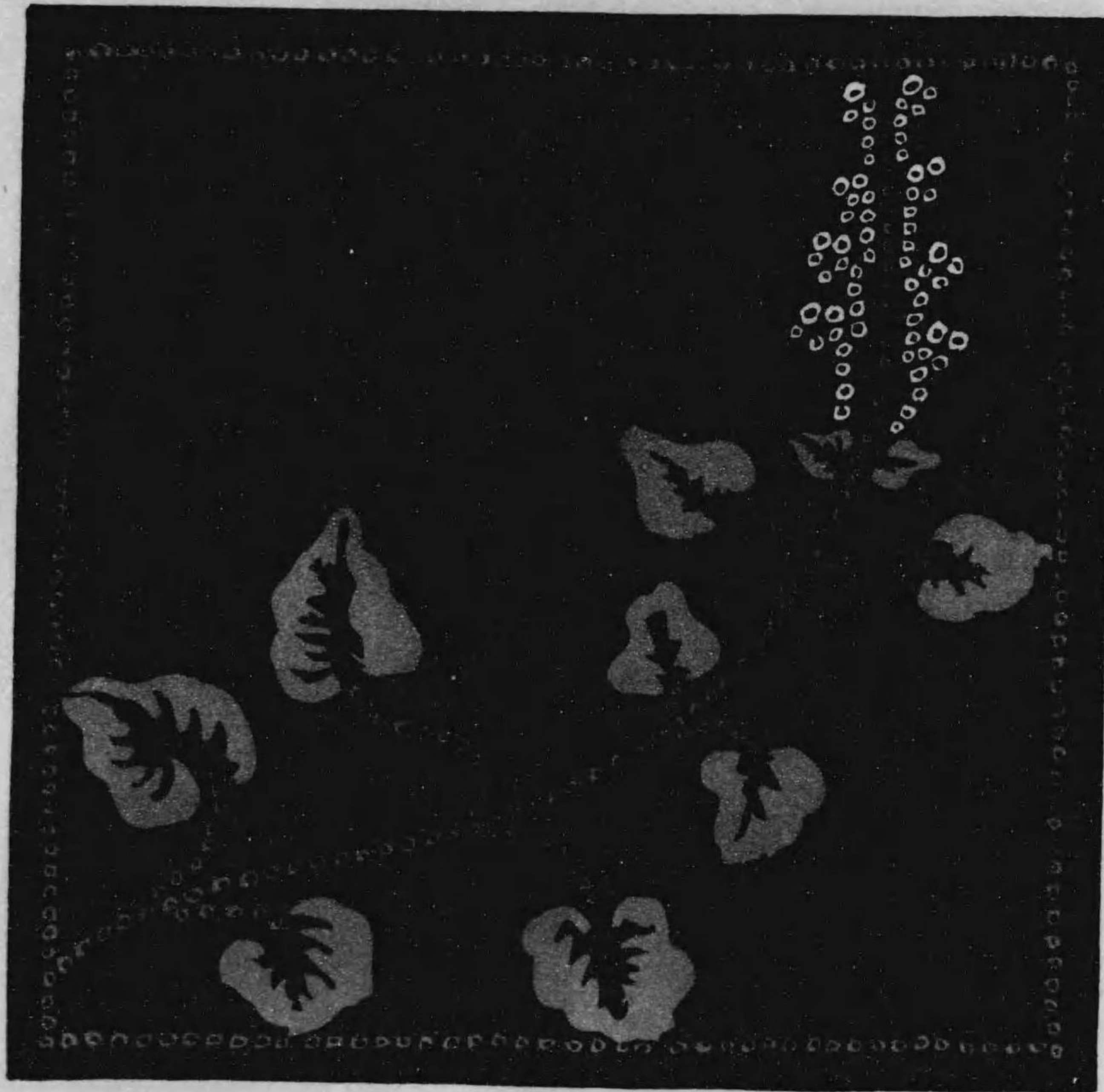


7 4 > 7 1

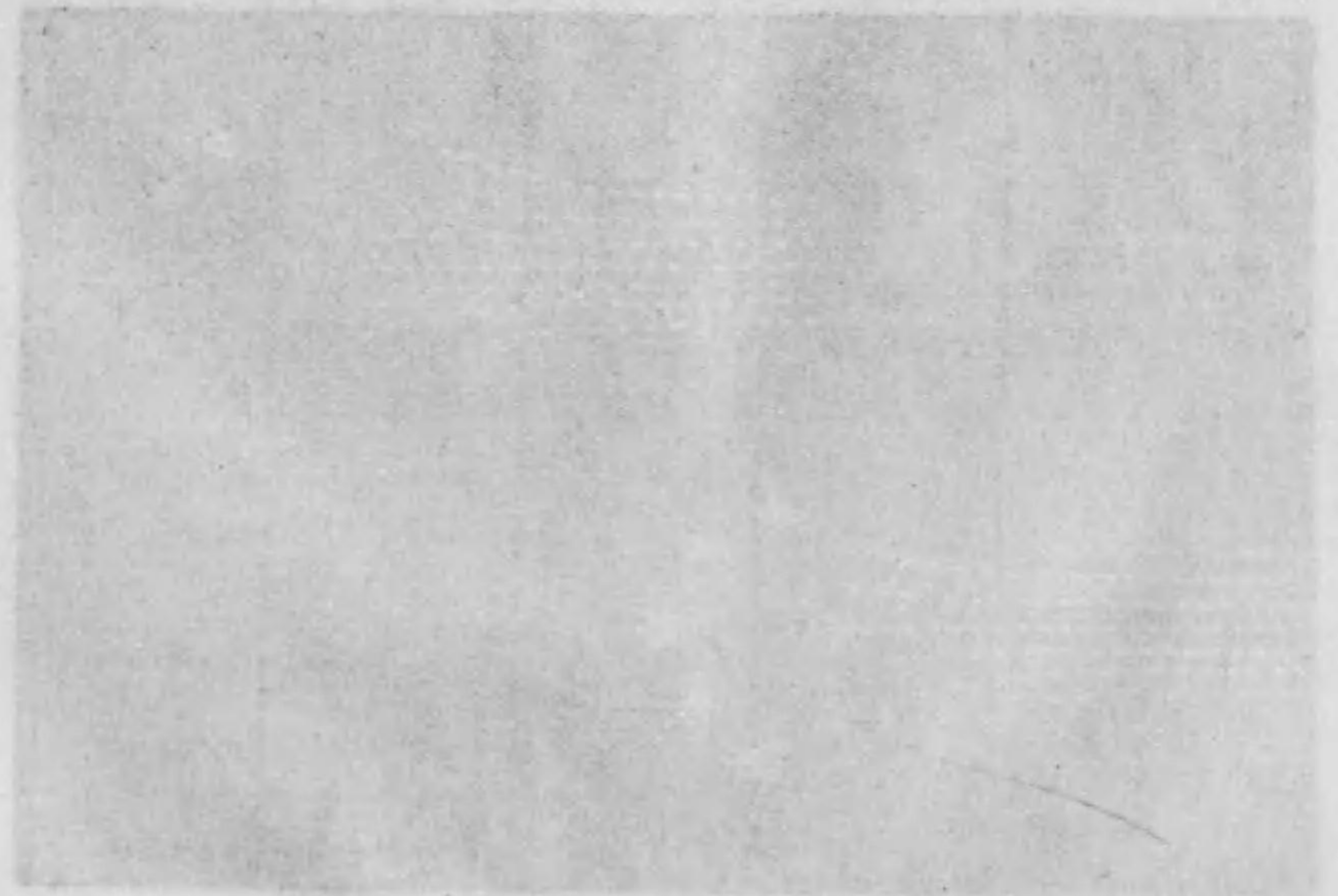


1 1 1 1 1 1 1 1 1 1





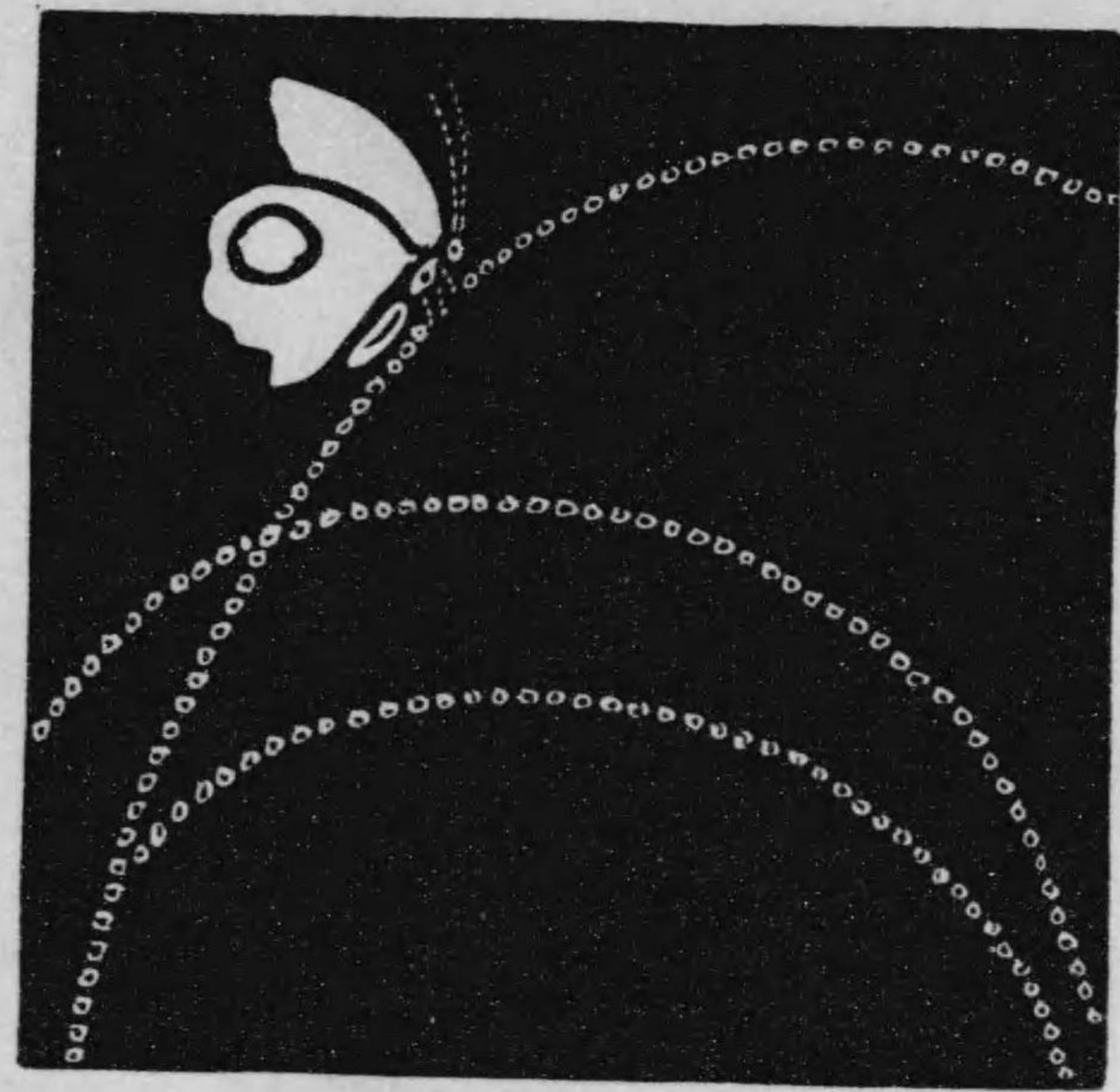
うさみなつた



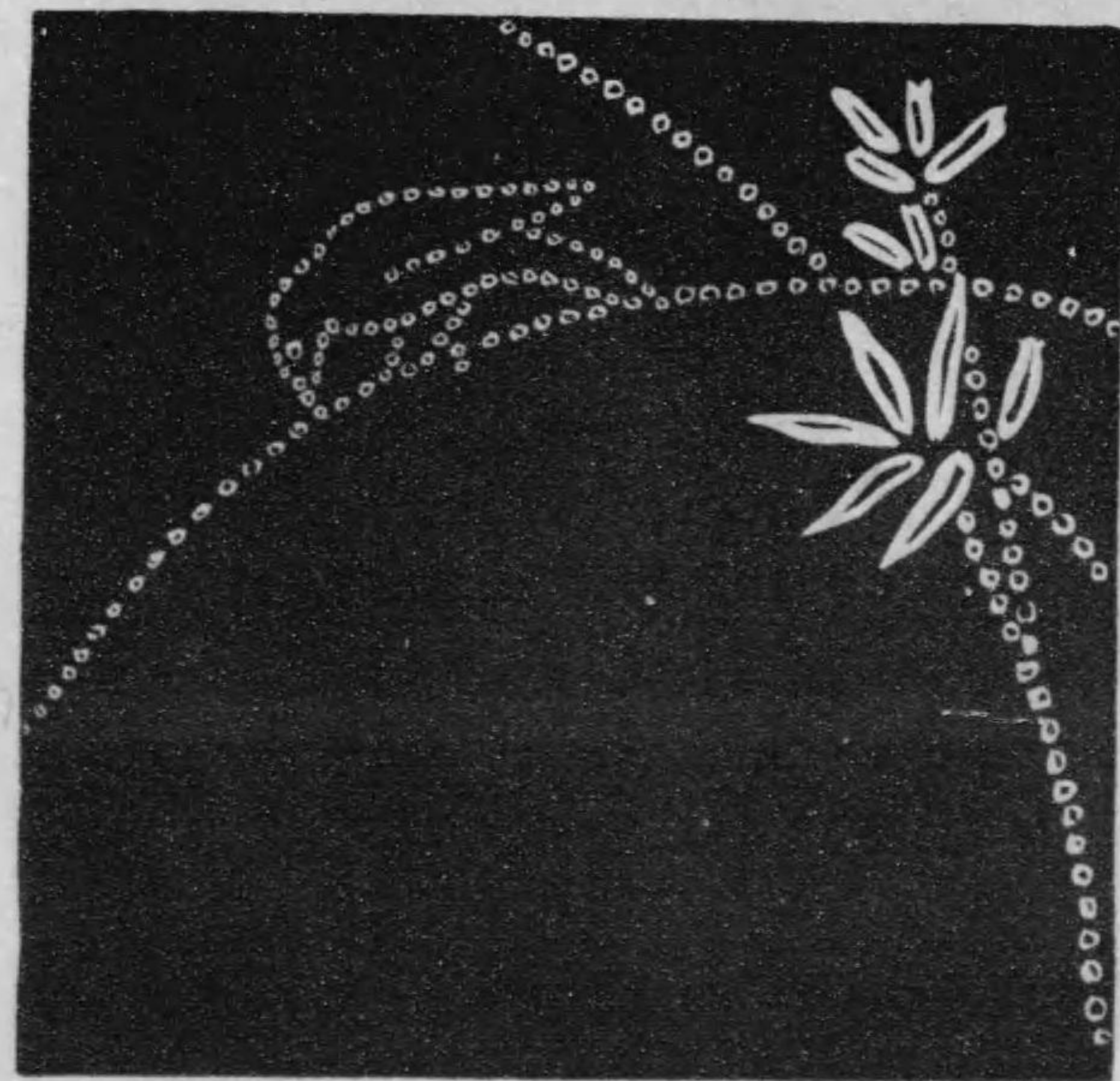


欠



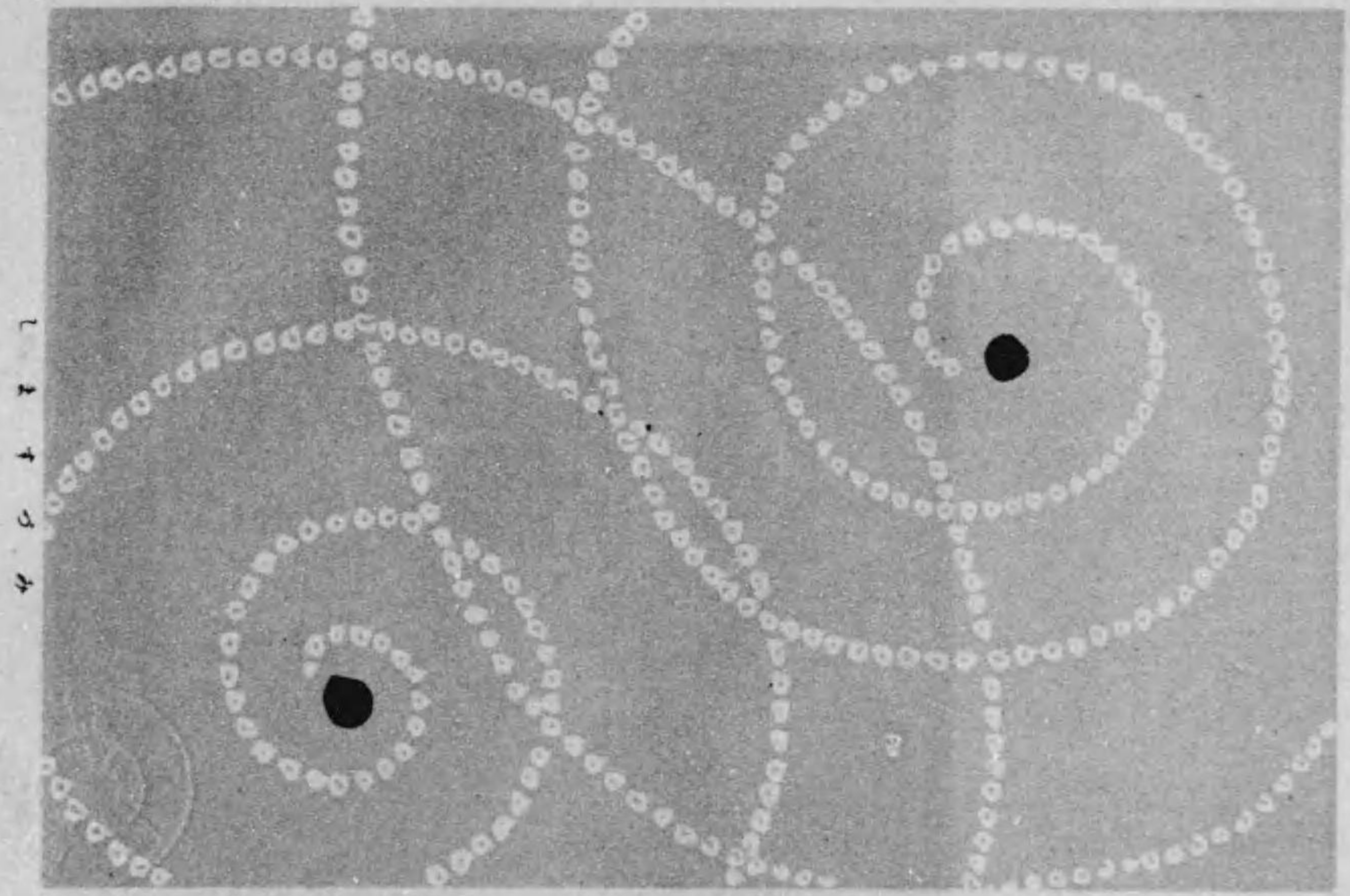


欠

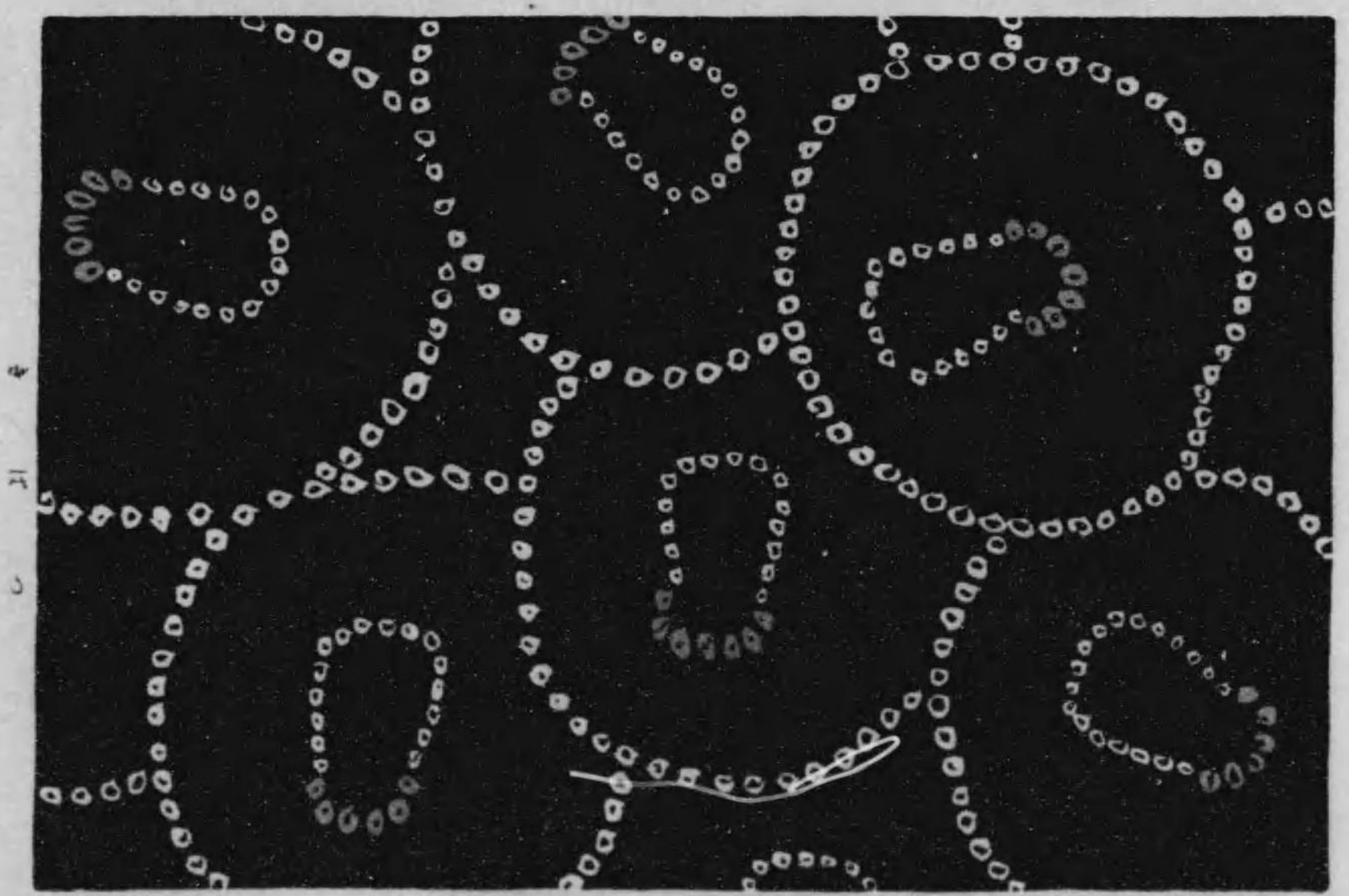


欠

欠

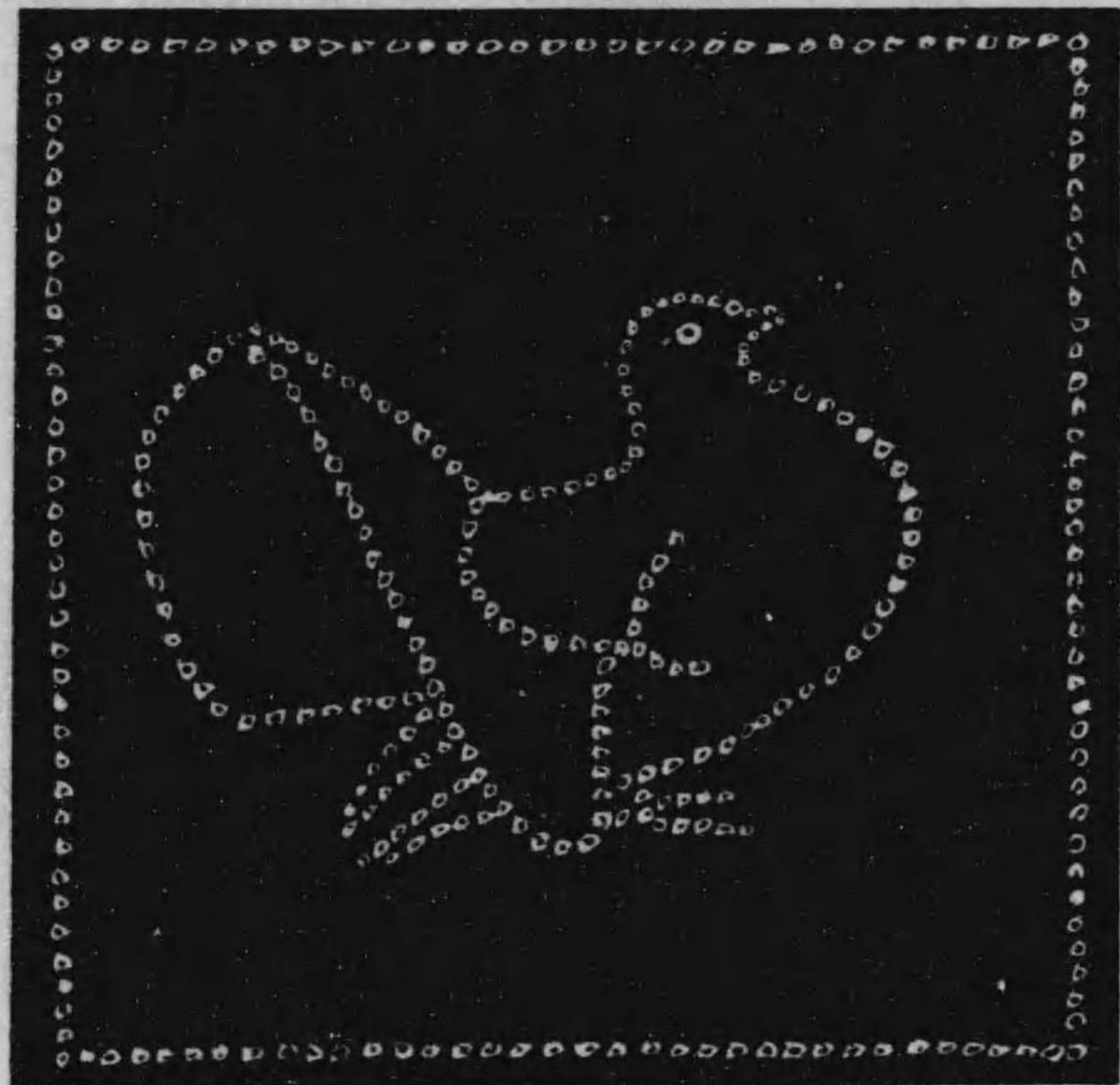


L  
1  
1  
3  
4

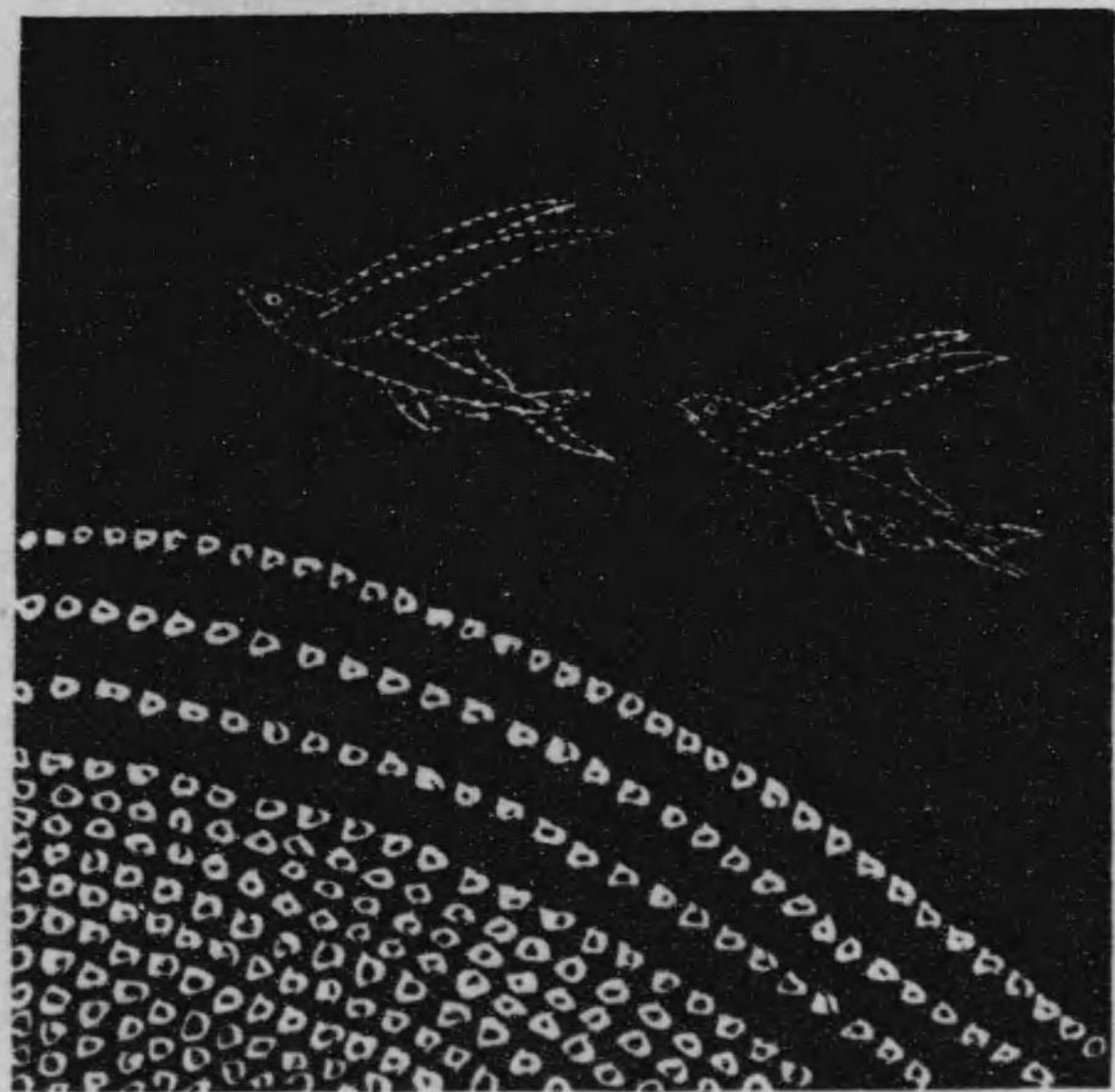


5  
11  
7

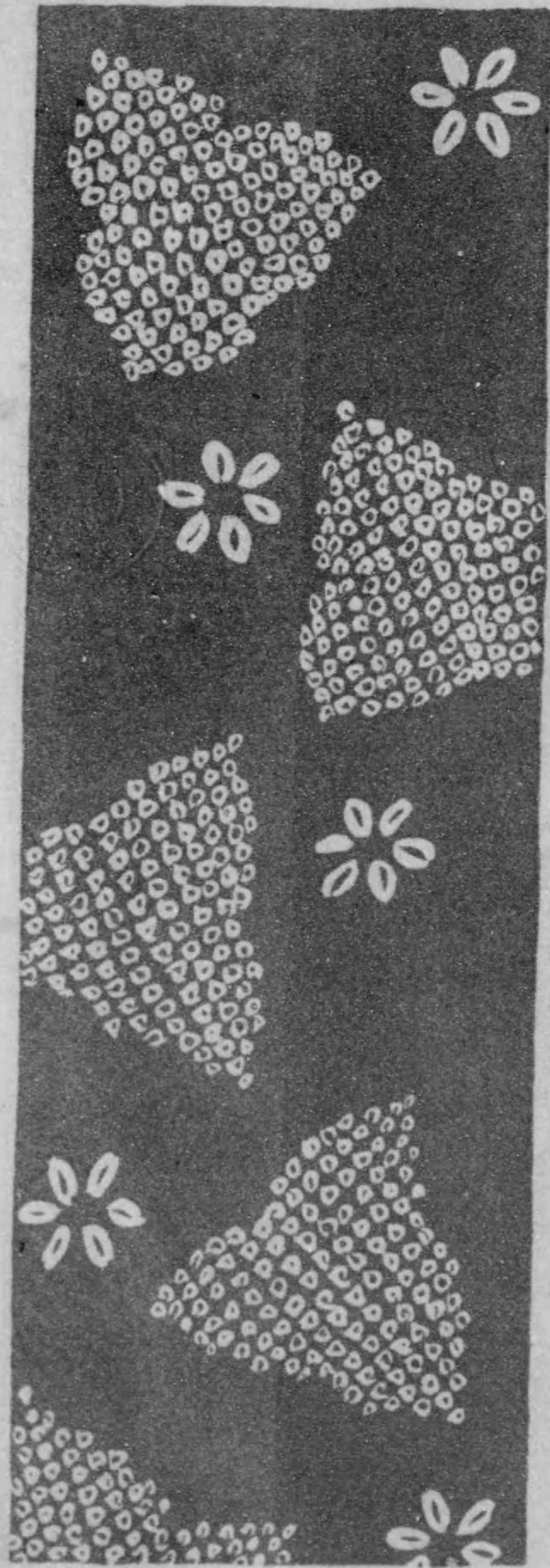




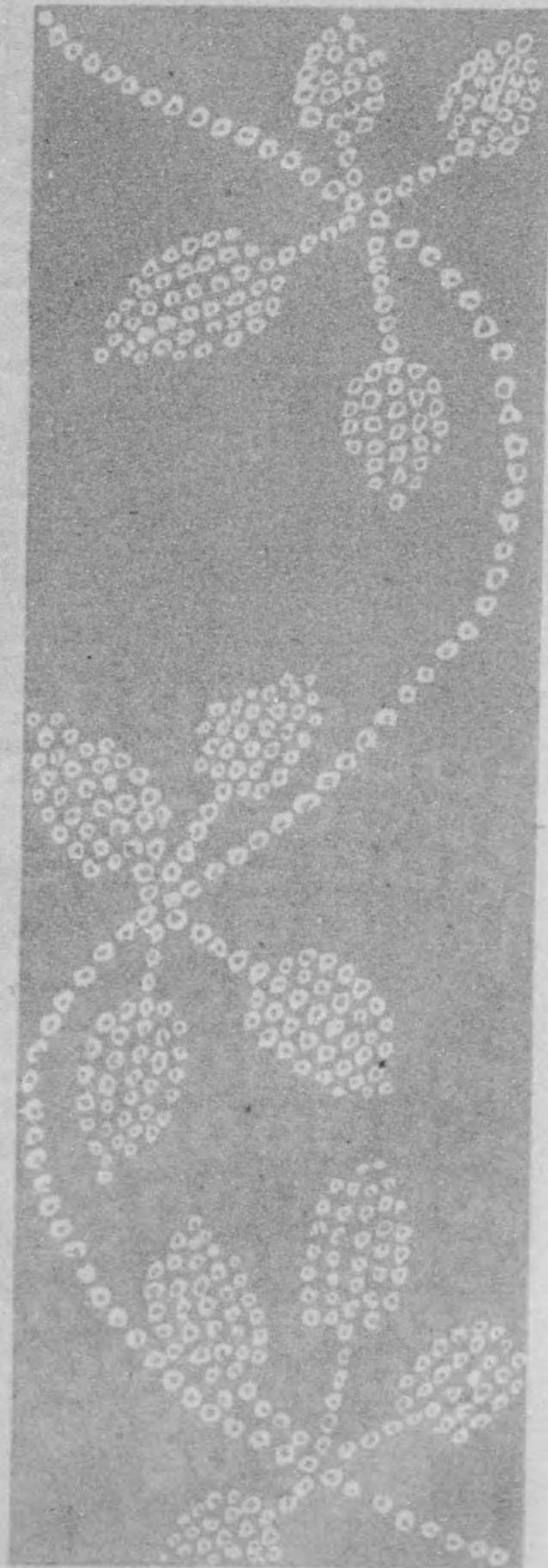
2 11 2 4 1 2



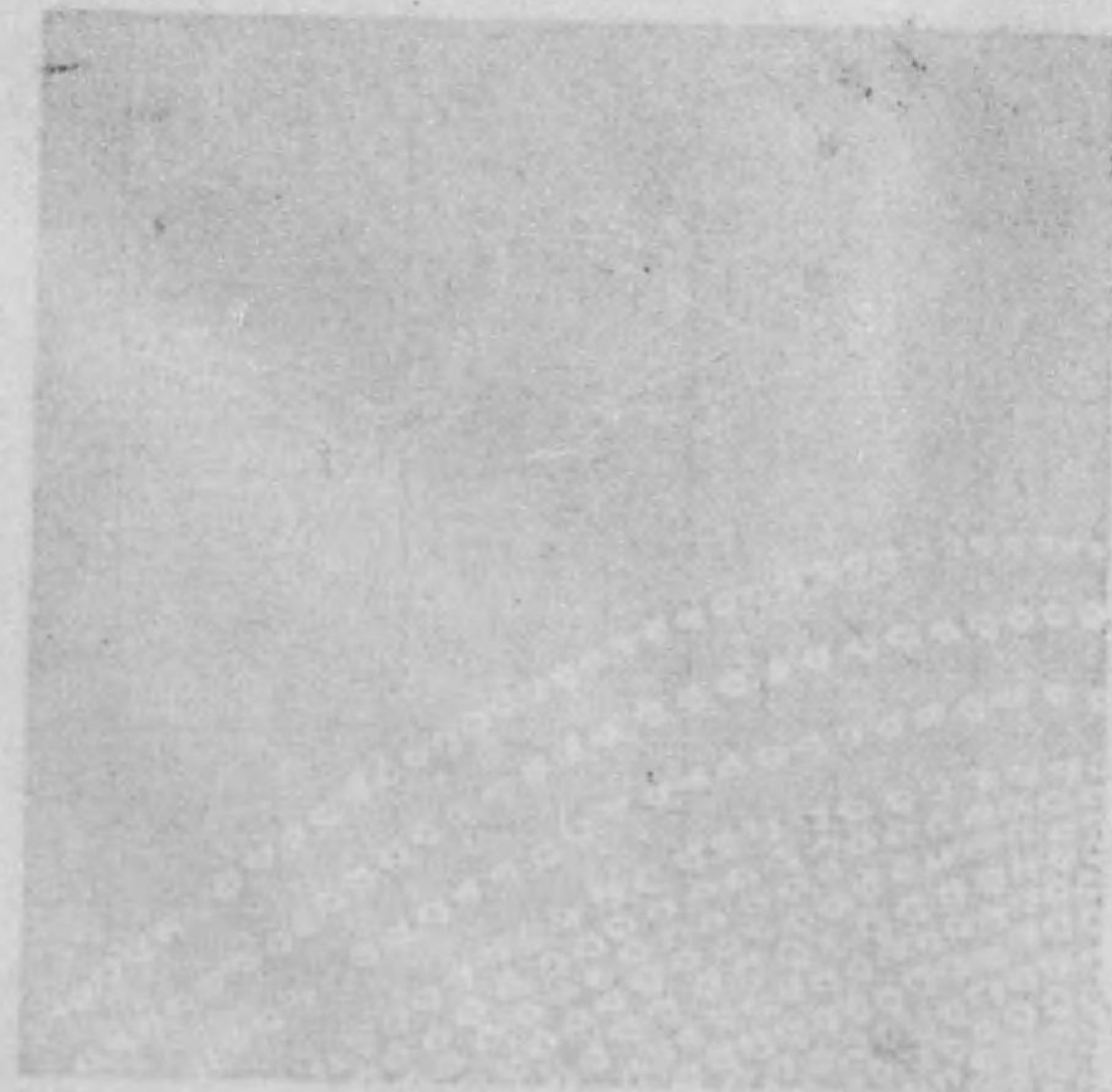
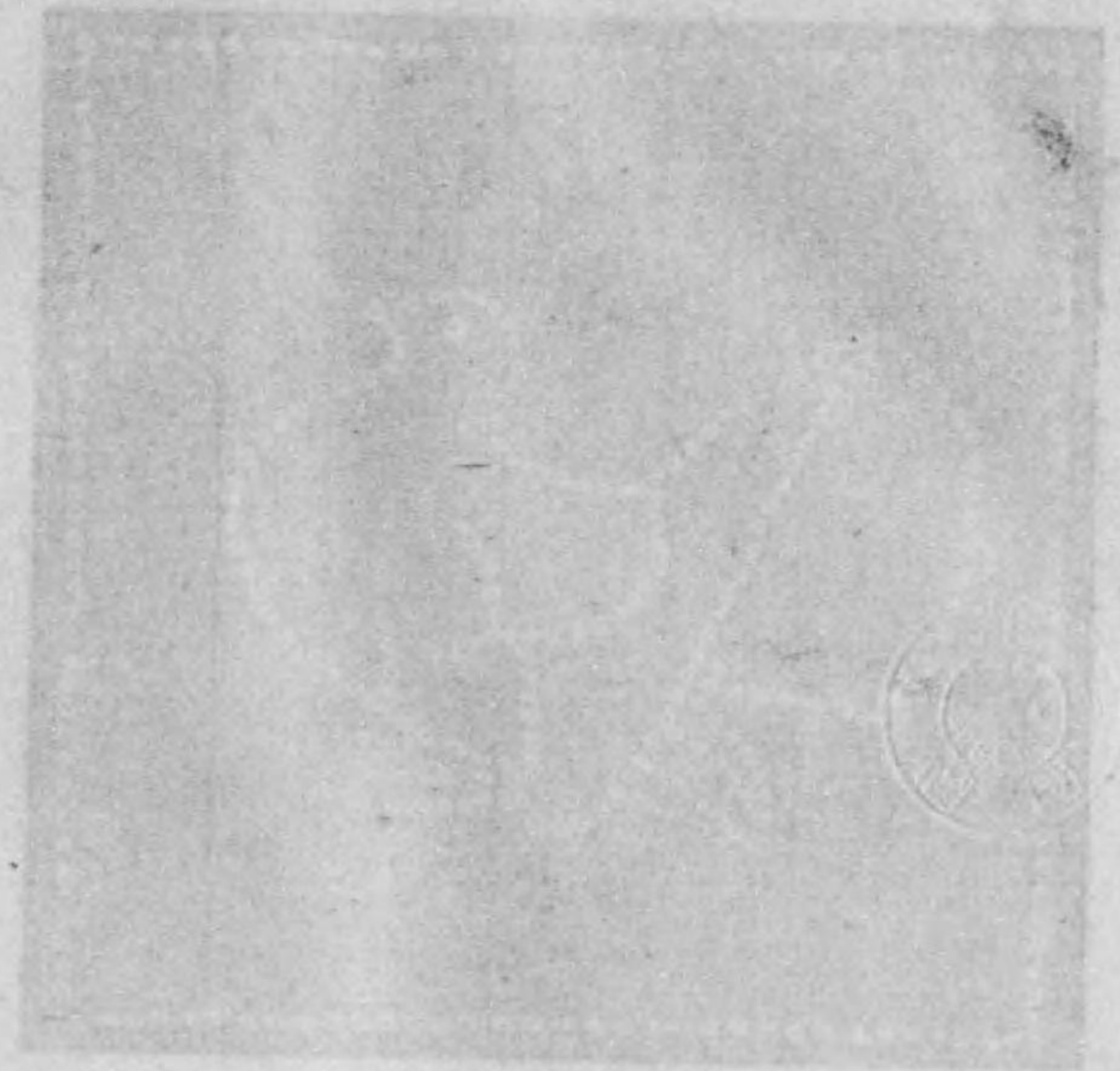
2 11 2 4 1 2

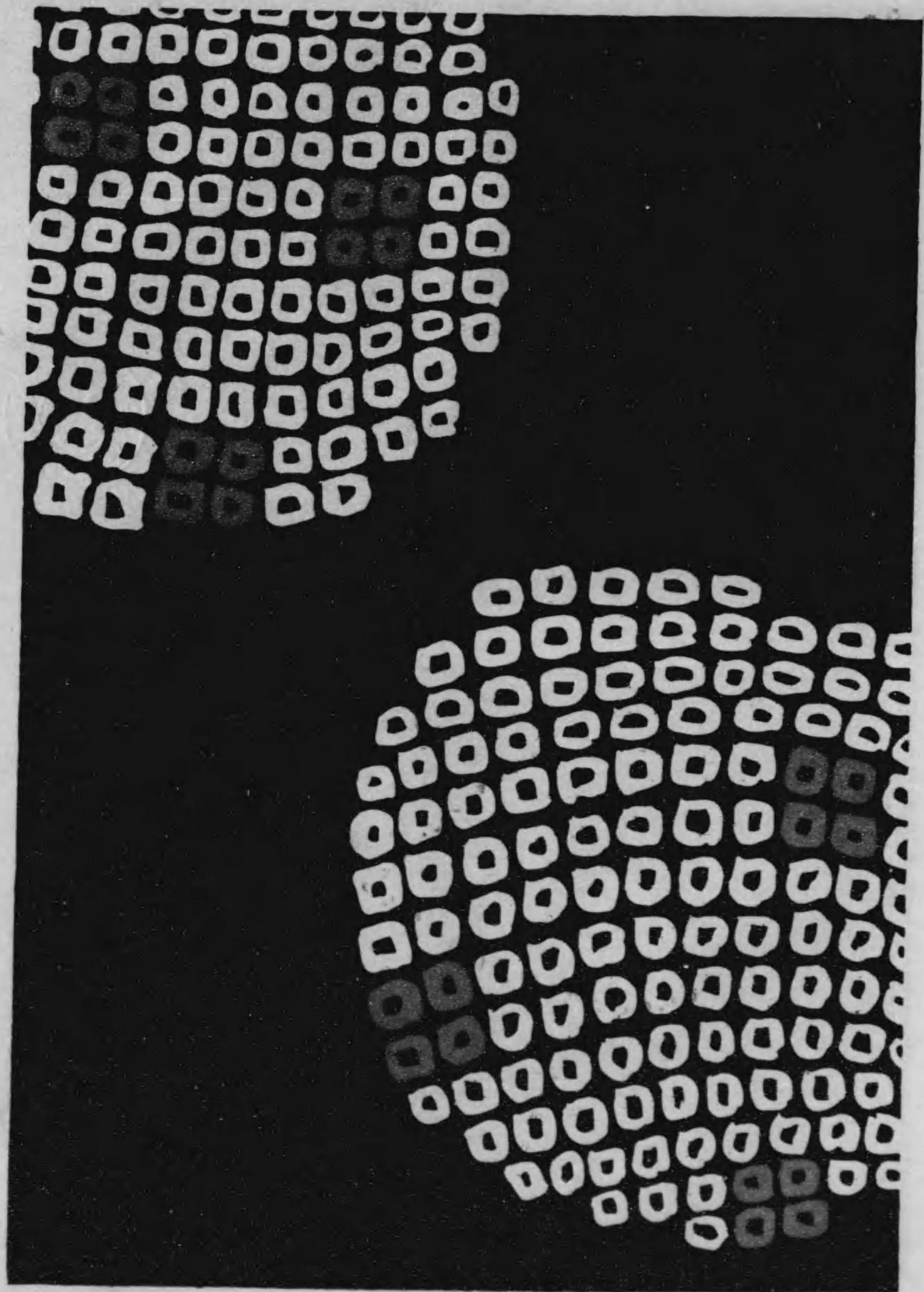


うさりわきゆ



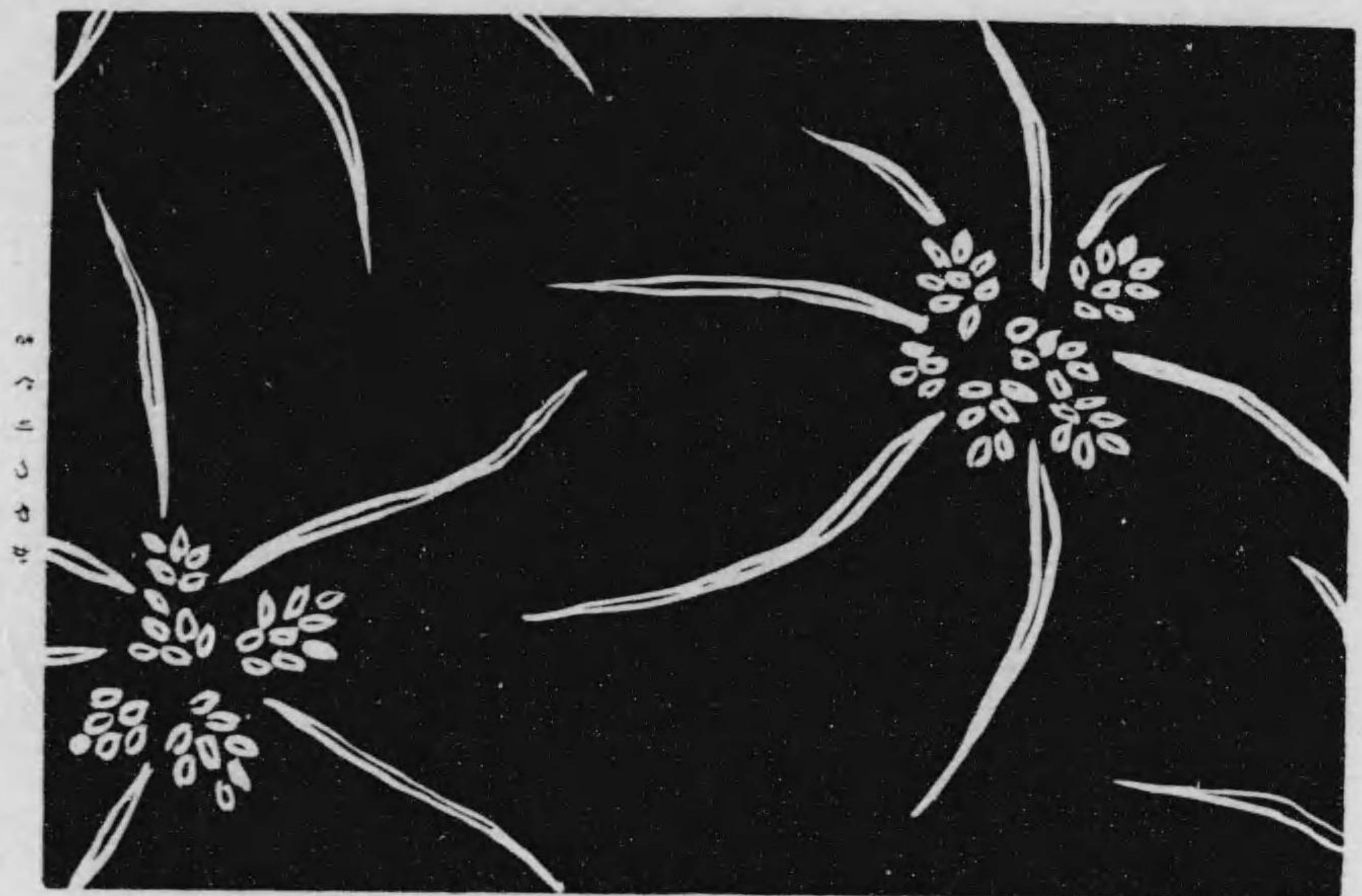
らづがれがあ



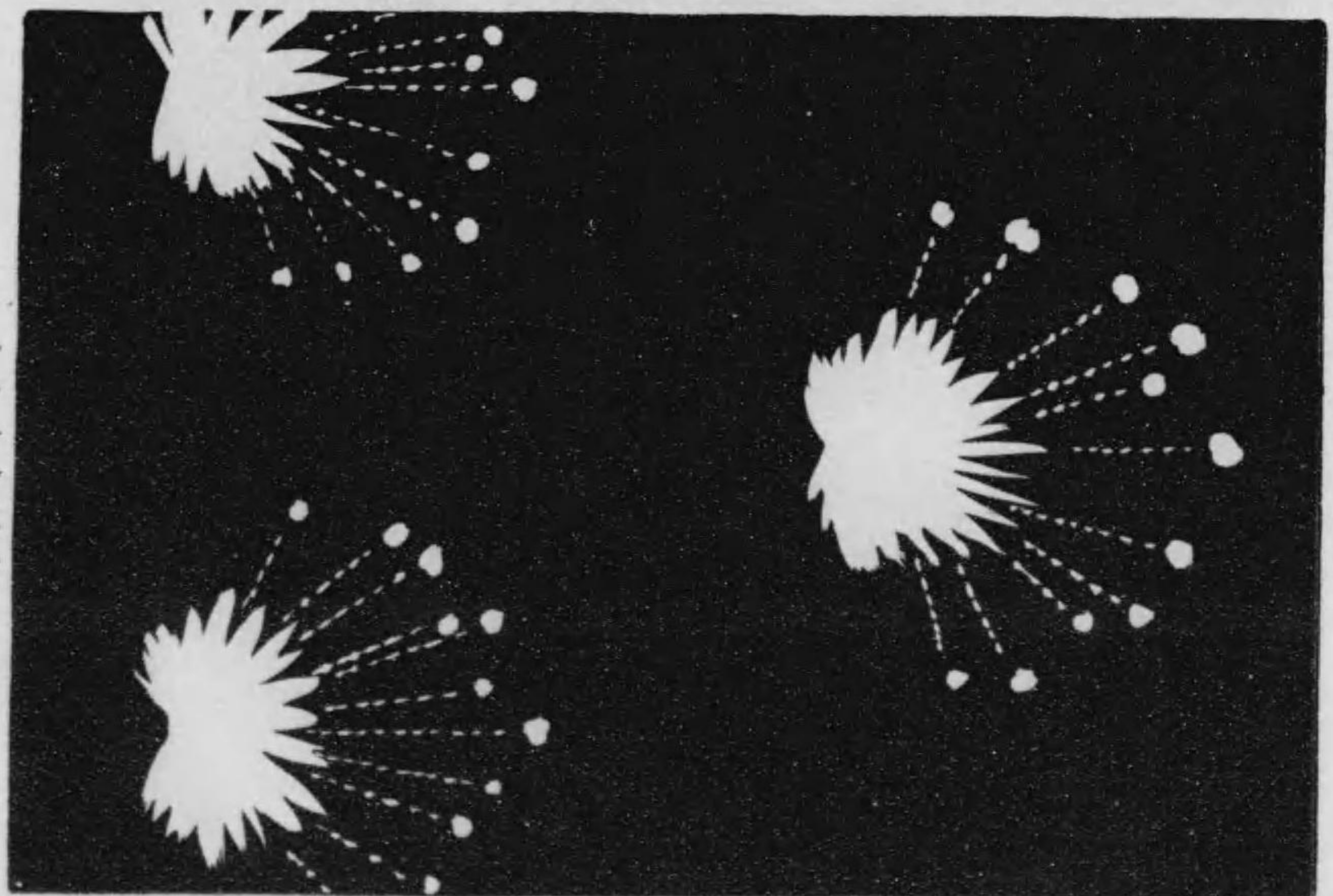


1 2 3 4 5 6

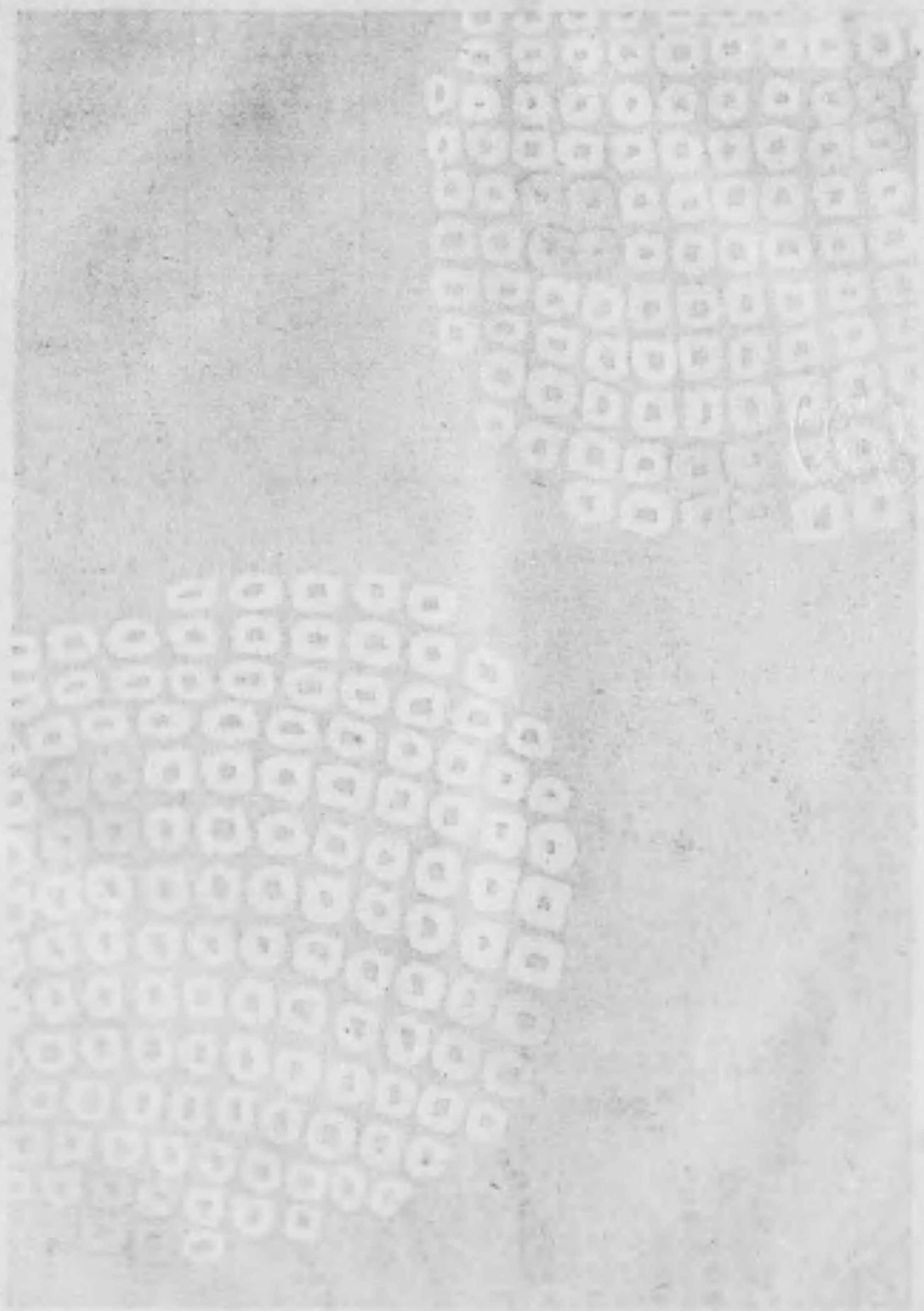


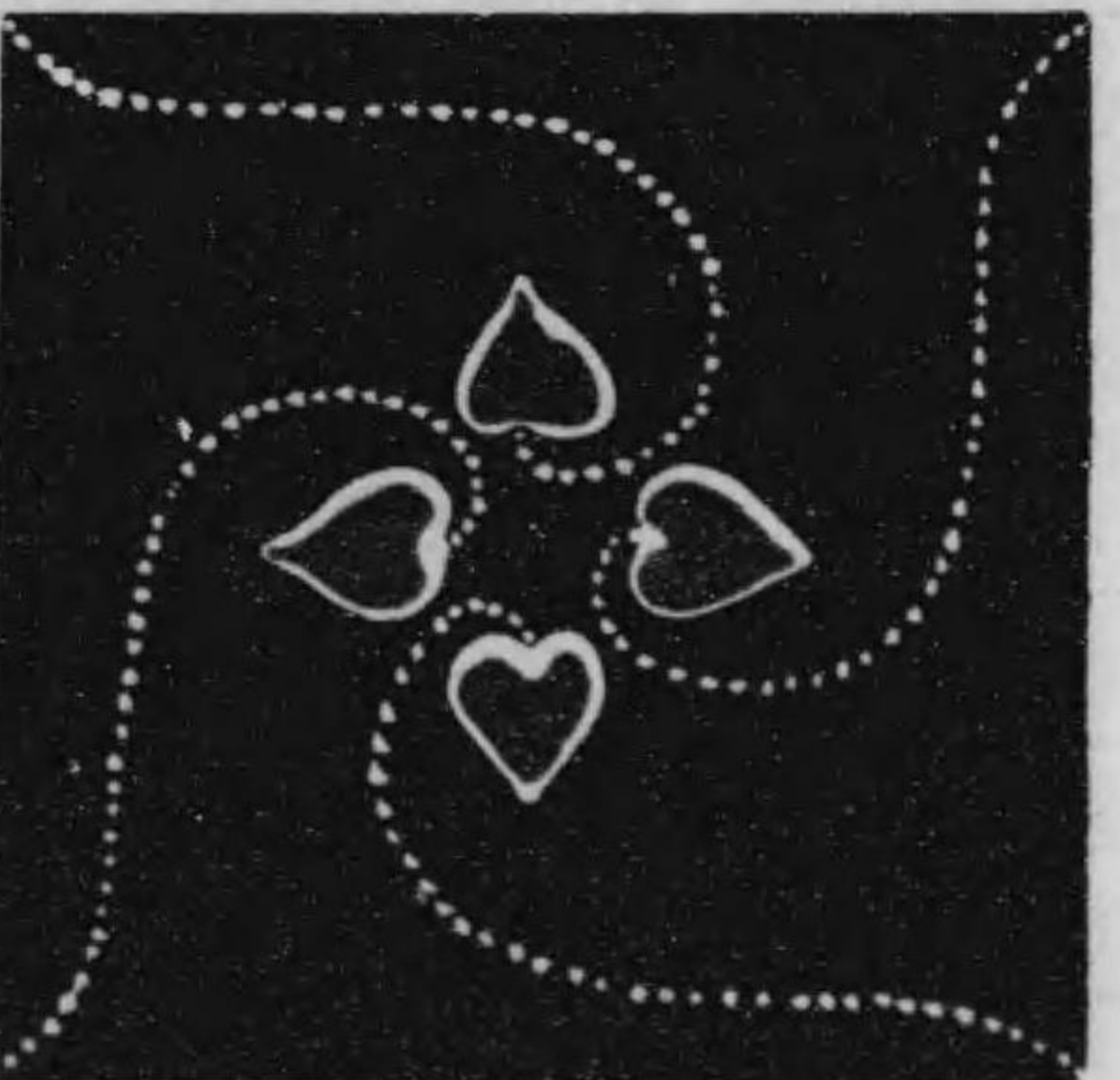
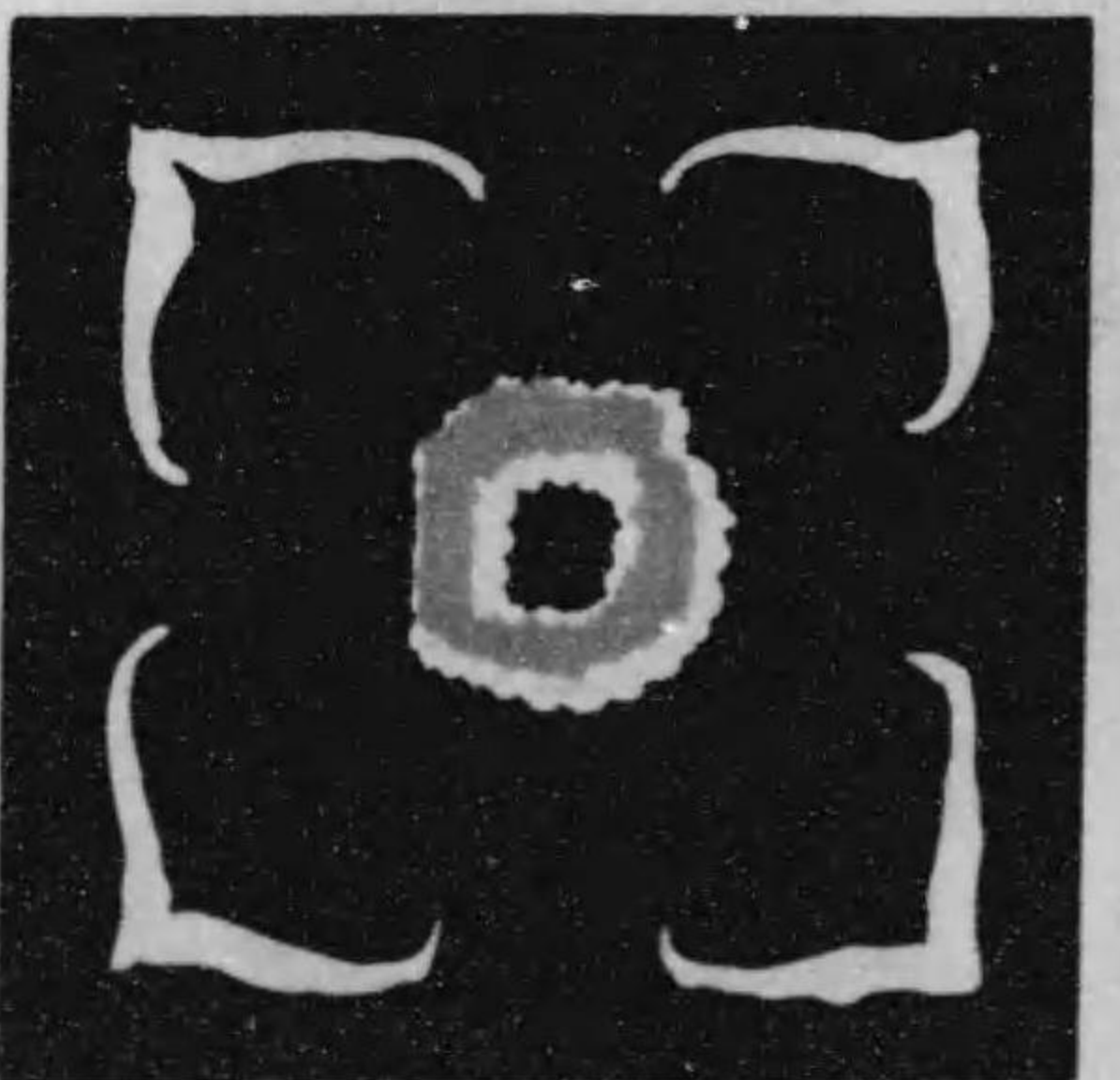
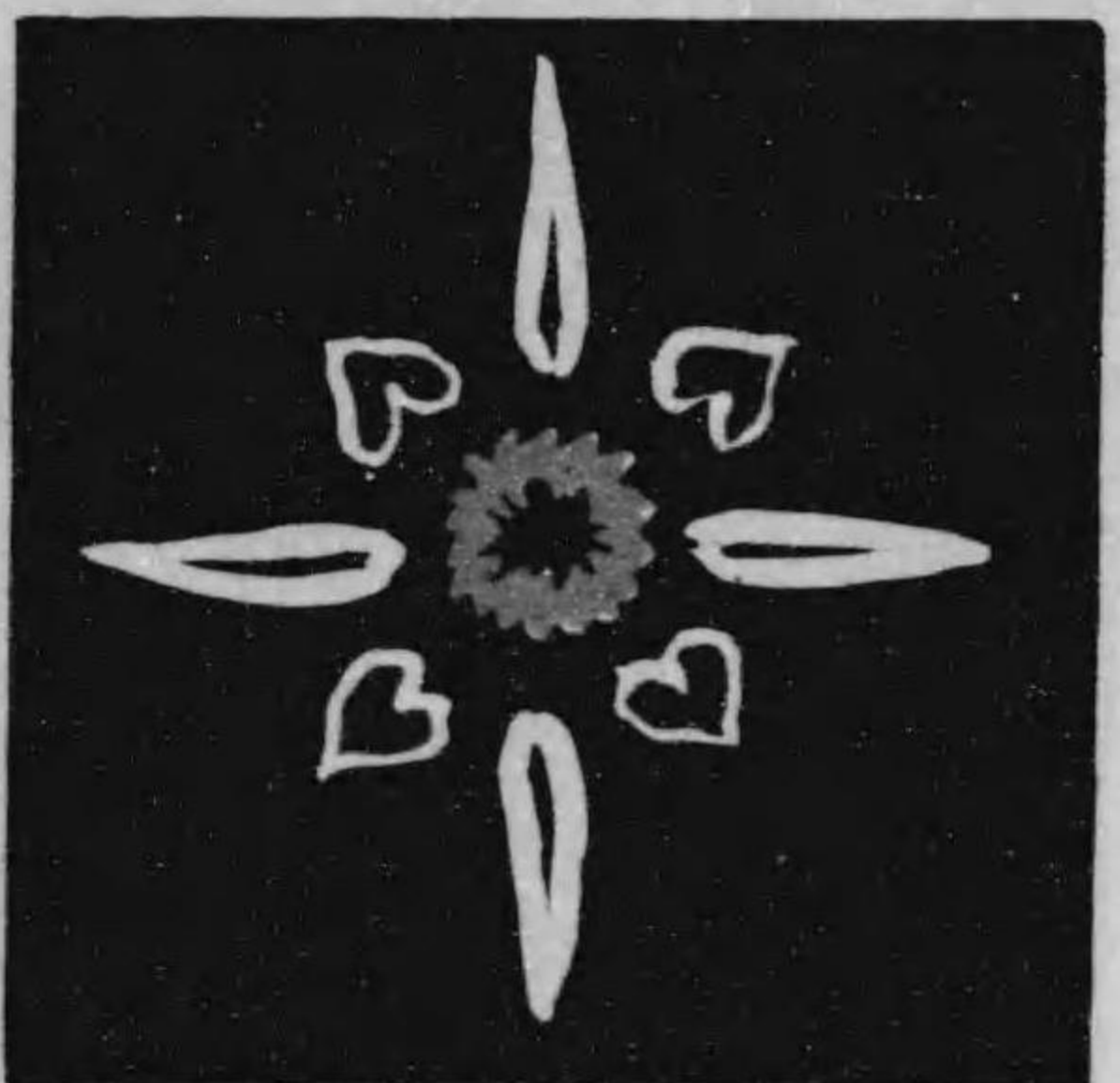
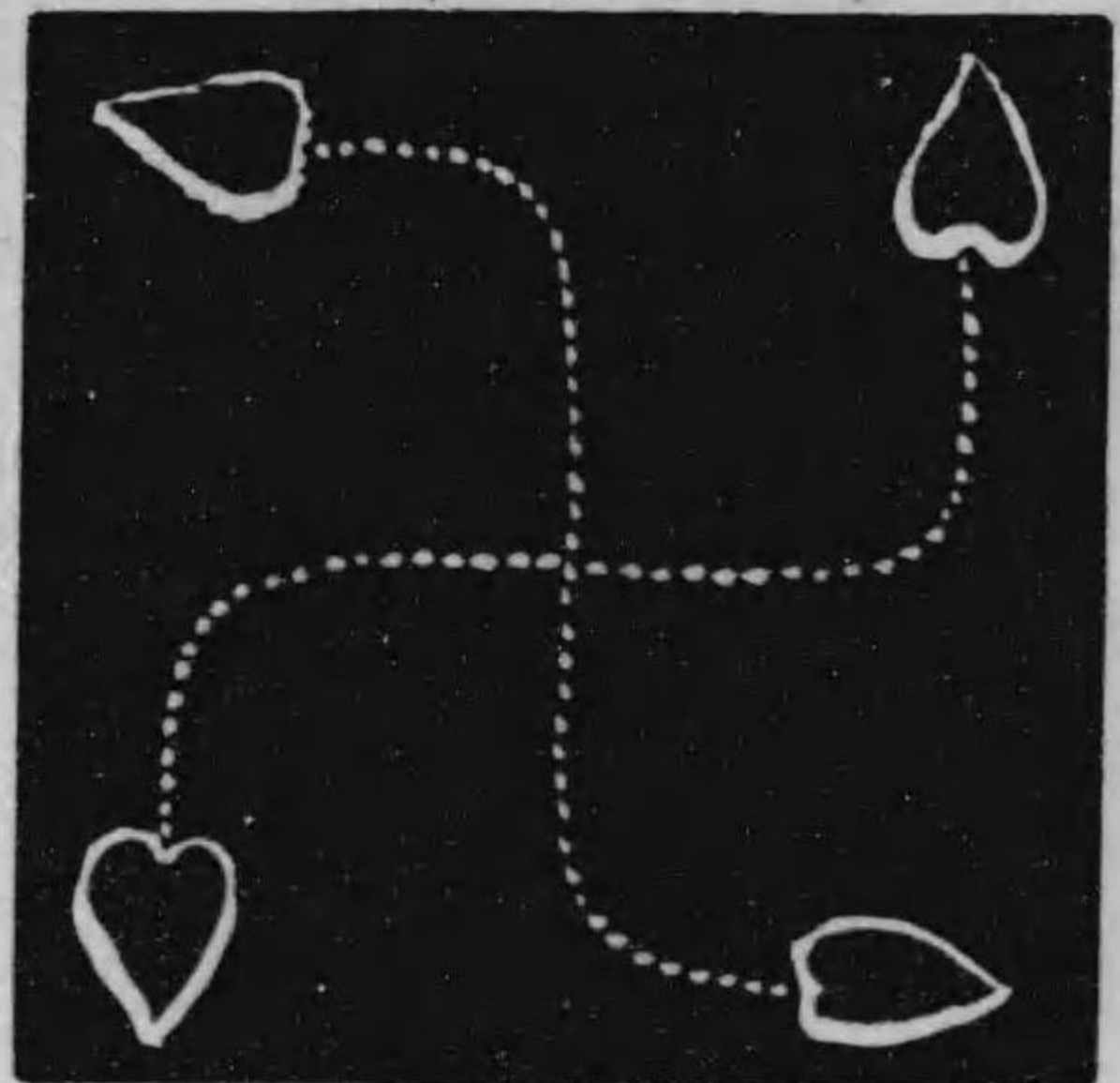
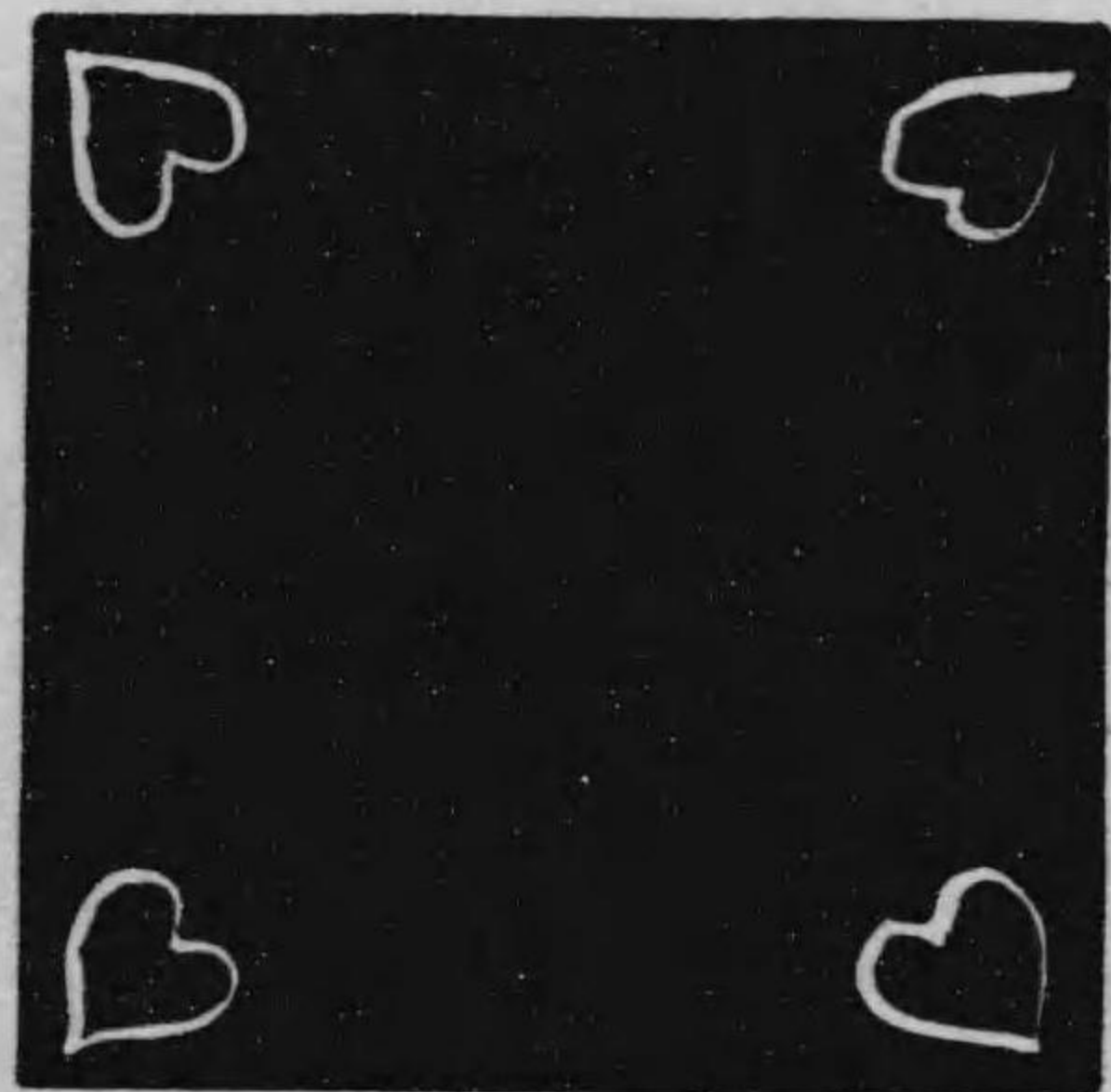


花の群



花の群

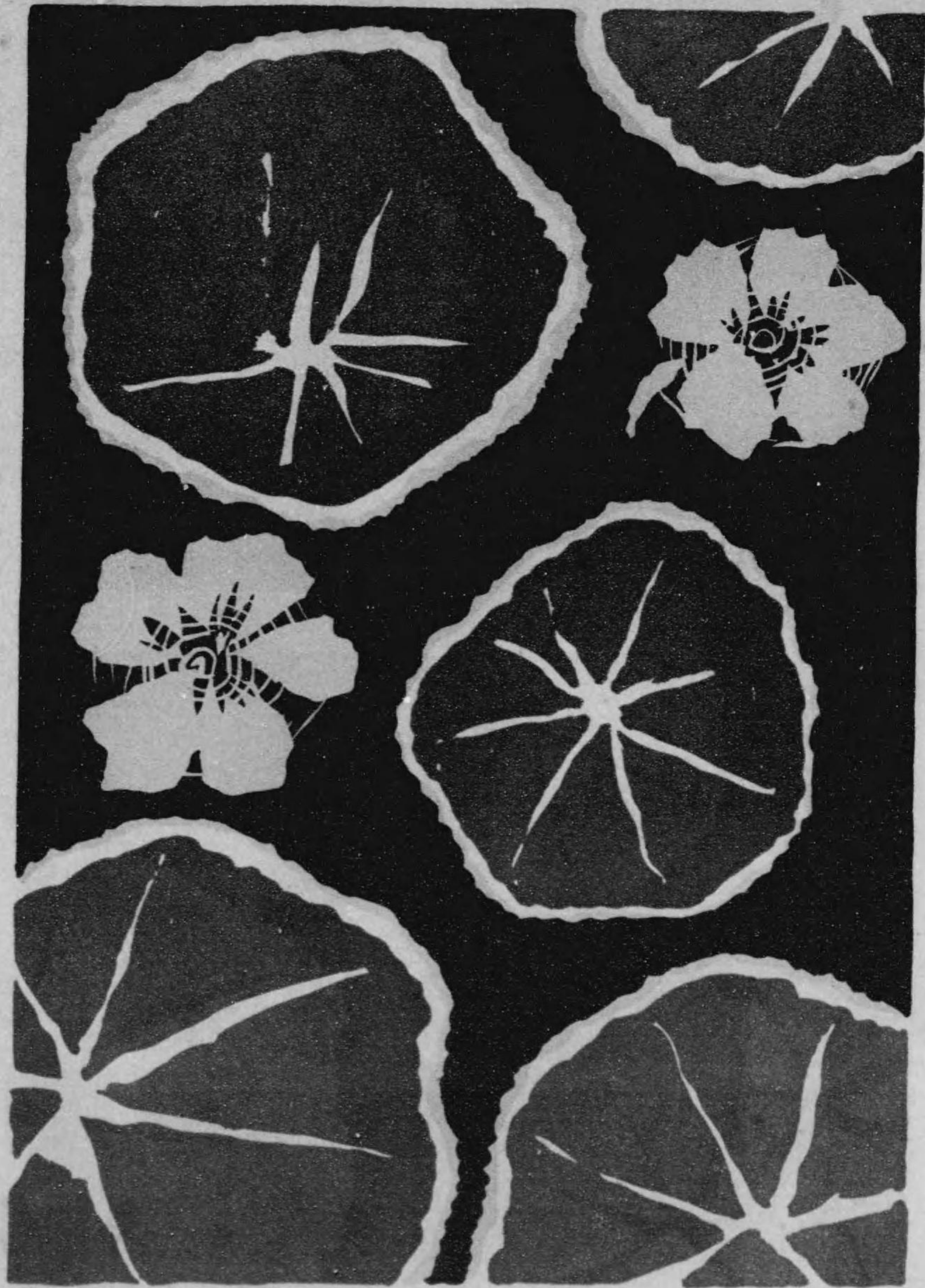




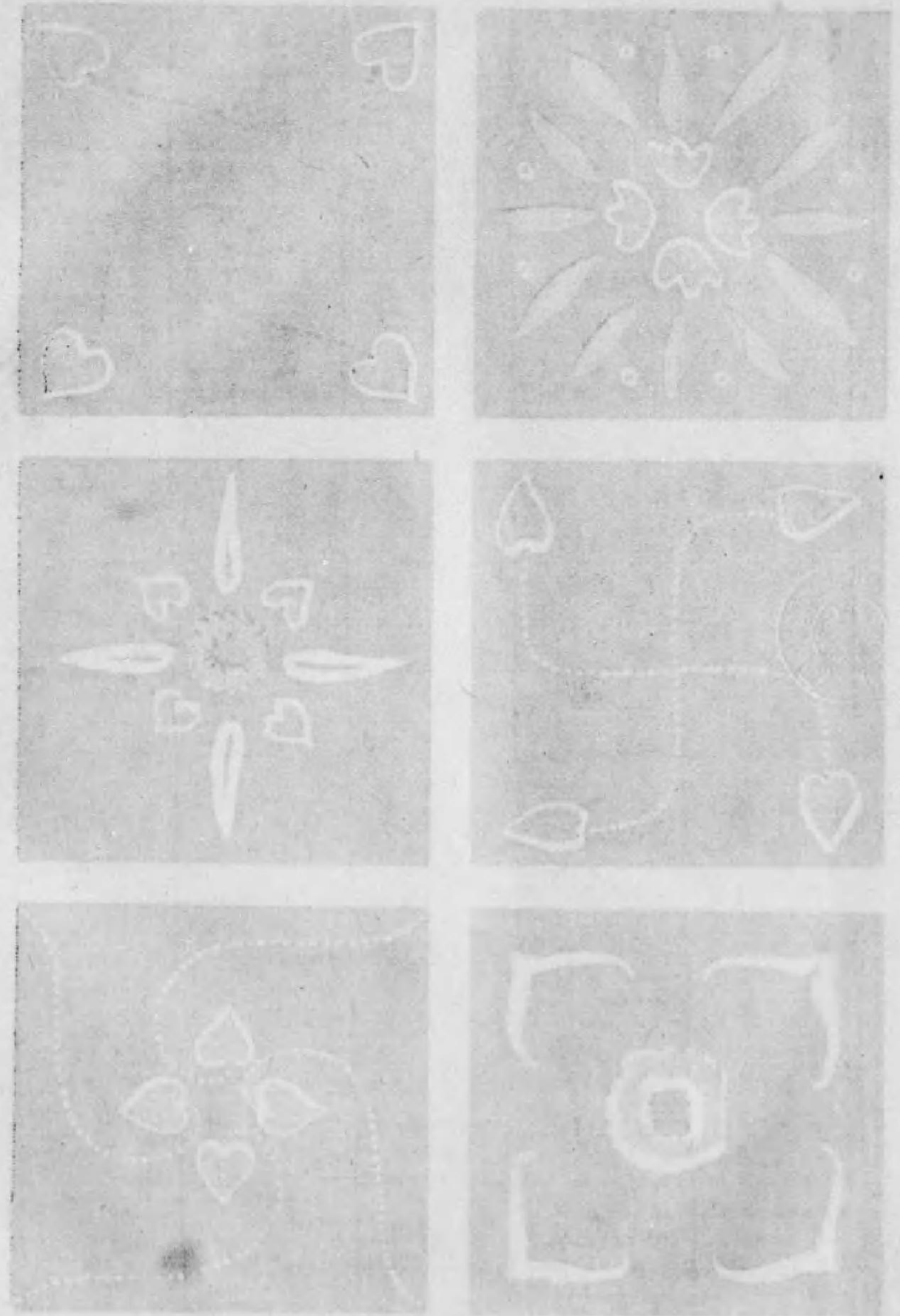
12 12



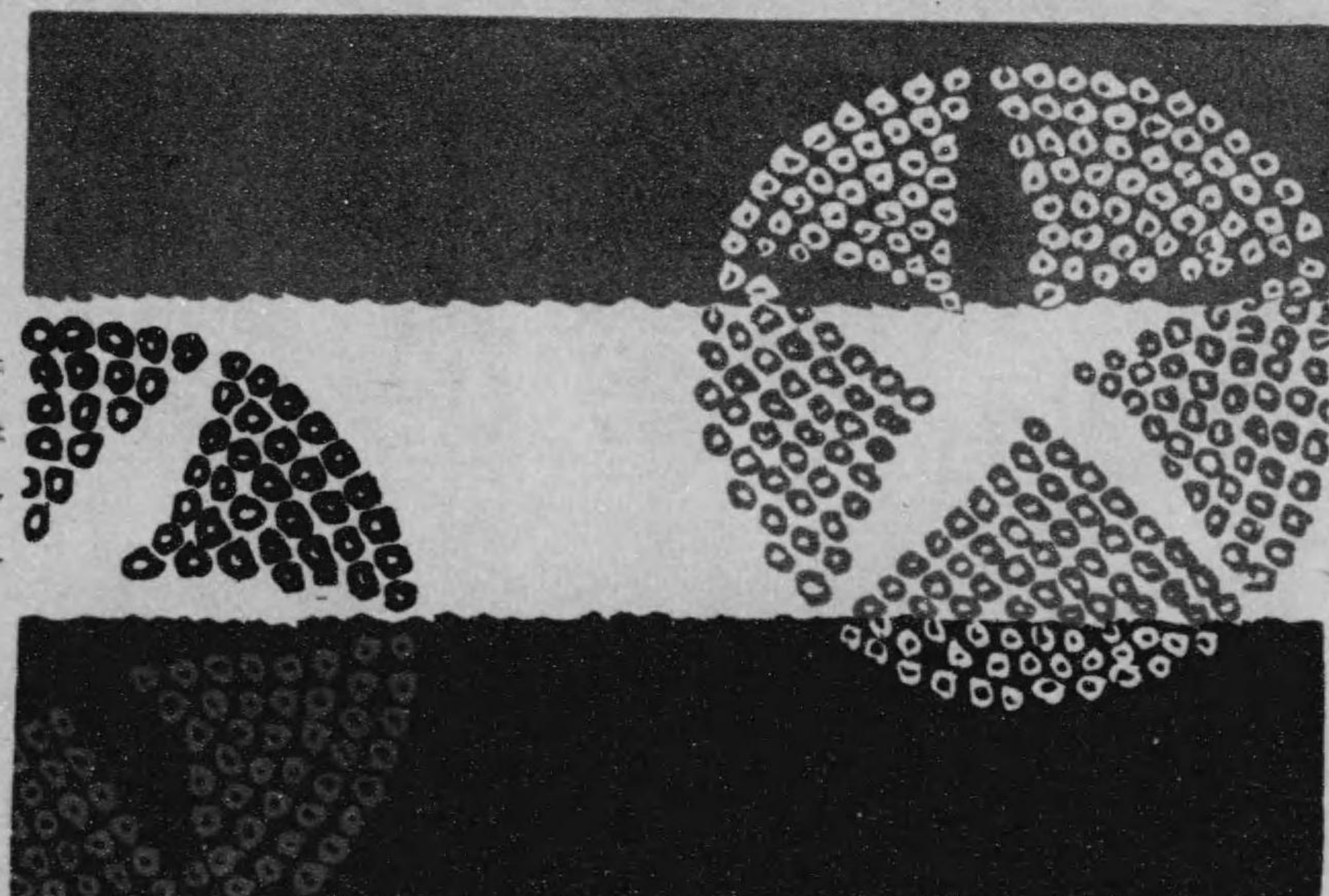




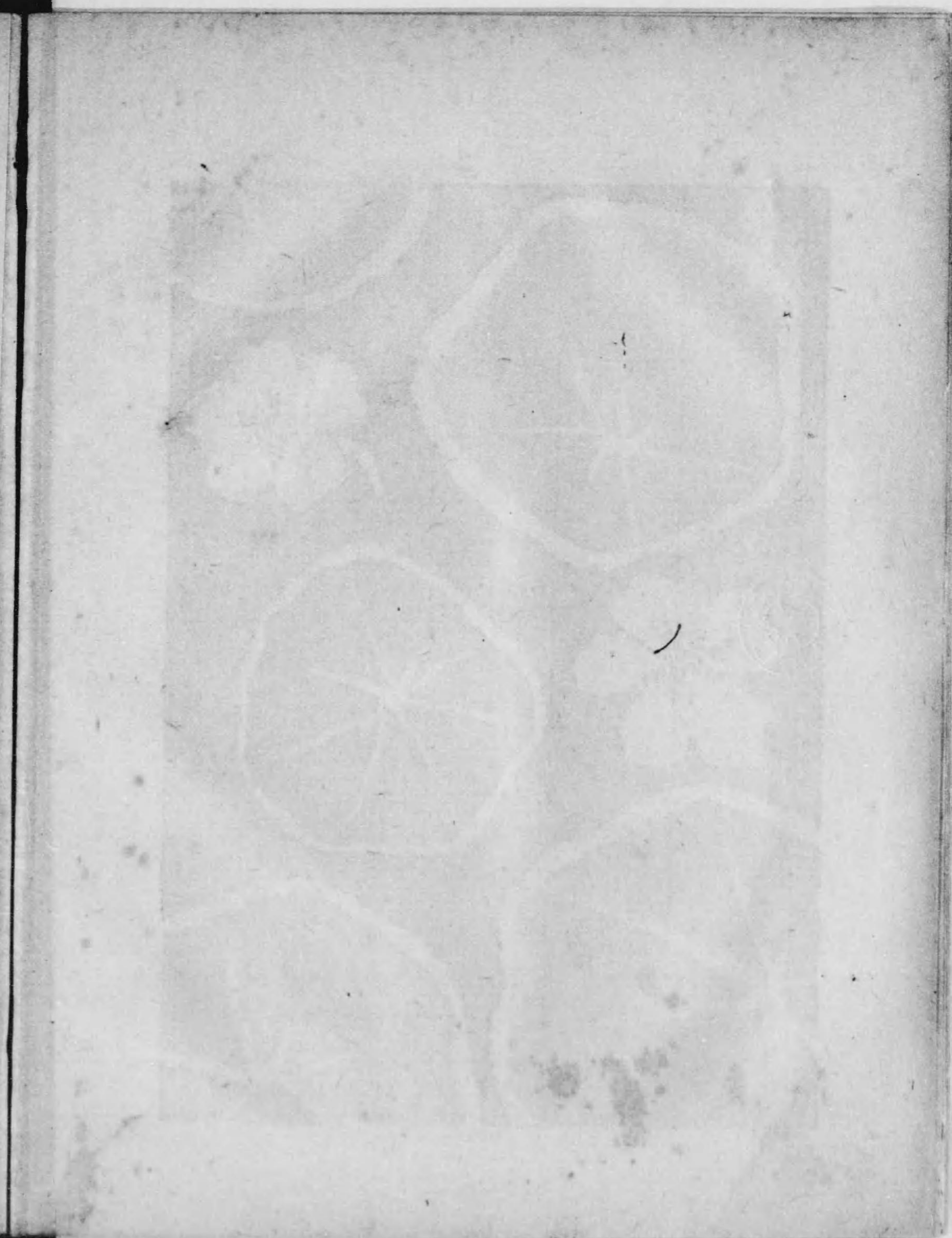
のせはんはん



水の音



12 3 4





意匠圖世界の  
新權威者現る



大好評再版

杉浦非水先生新作

# 非木花鳥圖案集

## 全木版極彩色五拾四葉

非水先生が、我國畫界の第一位、新權威の權威者として、盛名頓に擧げられるは、今更に何を要せざる處。今回先生が卓越なる意匠、豊潤なる色彩によつて、自然界に於ける、百花の姿を寫し、百鳥の妍姿を極し、先生が神妙の趣味の湧くに從つて、筆を呵する事餘餘。此處に産れ出でたる、胸躍する新圖案は、正に我輩流たる圖案界に、畫壇の響を以て現れしなり。本圖案集は其材題を、自然界の花鳥に限りし以所のものは、凡百工藝上應用に最も適當なるものにして、書籍の裝幀に廣告の意匠に、アラユム印刷上の圖案に應用すべく、陶器、漆器、木工、金工、染色、織物、刺繍、袋物の各工藝、建築の裝飾に其種社會の圖案裝飾を要する、美術工藝品に適用して、正に當らず云ふ事なく、諸學校の圖案の教材參考書として、無價の寶庫たり。本圖案集百拾四圖の全部は、皆先生が新なる苦心の結晶にして未だ嘗て、世に發表されしものならざるは、ひとかたに發行者が得意とする處にして、讀者に多大の満足を與へ、江湖が畫壇の畫壇を以て迎へる事を疑はず、尙製版印刷の精妙に到りては、我國古來の木版手摺に現代の新考案を加へて、意、辭、體の精妙なる色調を發揮し、未だ嘗て我が出版界に見ざるの一大美觀を呈せり、これまた出版者の誇とする處、若し畫中の一葉をとりて、仔細に觀望せば、木版手摺三十回刷の精緻なる濃淡、豊麗たる色澤に、驚嘆し、ここに作者が苦心の笑ひ、情熱が苦心の努力の跡を推察するに難からざる可し。こゝに歐大陸の混濁せる時局に當り、寂寞たる我國畫界に、多忙なる畫壇界、美術工藝界、教育界に此一書を提供する、亦故なき非ざる也。

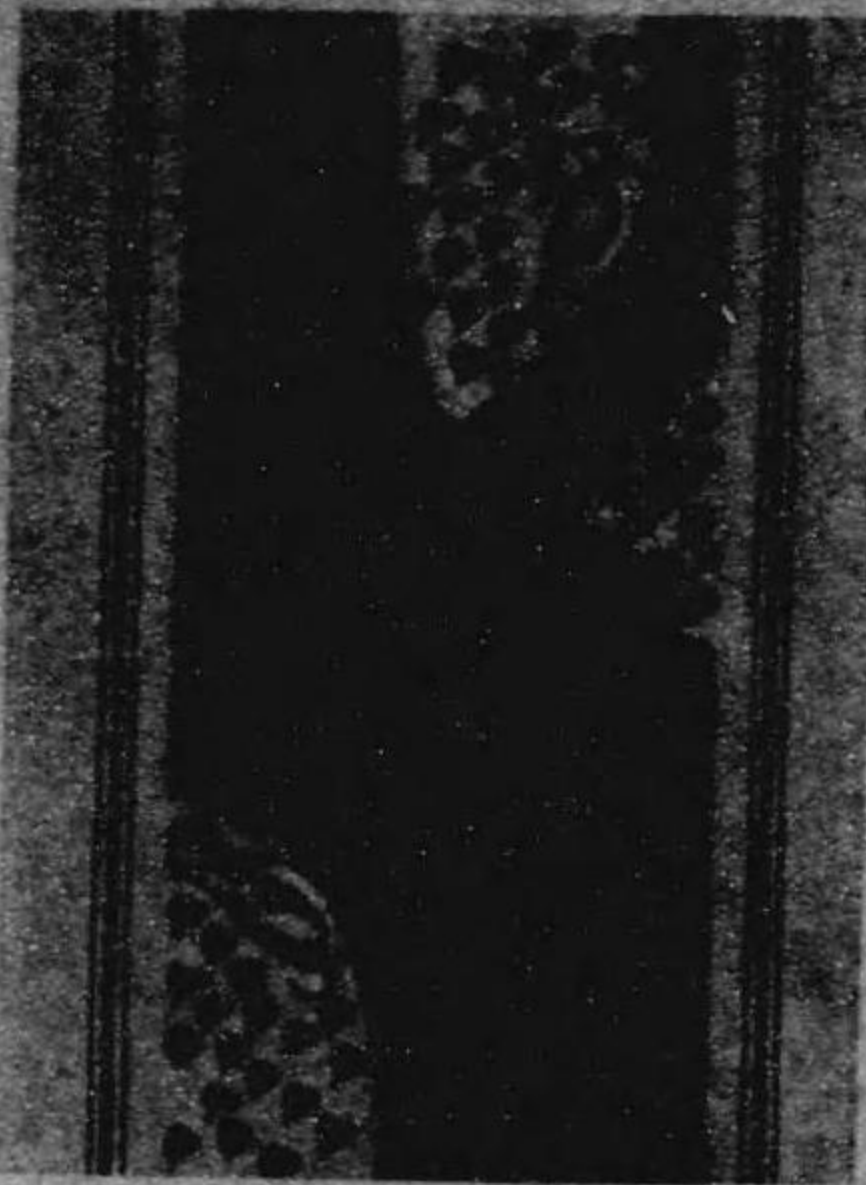
- ▼菊倍判大形裝幀優美箱入
- ▼總合計壹百貳拾六圖
- ▼印刷▼木版手摺二十四葉
- ▼種別▼木版印刷二十葉
- ▼正價 金六圓五拾錢
- ▼送料 内地十六錢、支那四十五錢

發行所 東京市日本橋區金町五 平安堂書店 電話 二四九七

評世るあ用信

▼時勢新報▲ 横濱一階級の刻下の暮が國按界に一道の光明を放つ者は本集の作者杉浦非水氏の獨創なり氏の卓越せる意匠は豊潤なる色彩に藉りて自然界に於ける百花の絢爛を寫し百鳥の妍姿を奪ひ神來の興味を盡くす如何なる様式の裡にも新しき生命と香氣を横溢せしめやんば止まざる者の如し本集印刷の精巧を極め原畫の精緻の醇雅と色調の飽滿とを遙も遙くるなきに至つては私かに出版界の誇りとする所なる可し。

▼東京朝日新聞▲ 自然に對する著者独自の觀察と表現とは國按家として他に匹敵なきを知らしむ其の材料の取扱の巧妙にして自在なる色調の豊麗にして浮華ならざることを鑒賞の方面に適用するに於て其の當事の人に得易からざる參考たるべき業より疑なしなほ印刷も古來の木版手摺の法に現代の新考察を加ふさいひ木版には手摺三十回に及べざるものありと稱するだけありて確に群を



案圖の紙表



容内文本



容内文本



容内文本

既にアナタ方は此の圖按を御手許に御備へになりまし

抜き目すべきものあり。

▼大報朝日新聞▲ 清新なる技巧の下に自然の形態を國按化して何れも優麗鮮麗なる繪様をなしたる花鳥に關する圖按見て百二十六圖を木版彩色刷りなしたるもの各種工藝美術品の裝飾として利用すべし。

▼中央新聞▲ 現代國按家の中で最も造詣の深いと稱せられたる杉浦非水氏が其の得意とする花鳥圖案を精巧無比の木版刷りしたものである、「いんこ」の如きは木版手摺三十度に及んだ立派なもので感じのよい鮮やかな配色はステンドグラスなどの國按として最も適當である色を節して然も多くの効果を挙げたものにしては「さくら草」を見るべく「さくらめん」は體態無比目撃するばかり此れだけの贅美を盡した出版は蓋し印刷界にても未曾有のことであらう。

部一の者入購御

東京芝公園 伊東胡蝶園廣告部  
 東京京橋 クラブ本店  
 大阪北濱 住友總本店營業課  
 東京本郷 道花齋 倉持本店  
 東京日本橋 三越吳服店  
 東京京橋南傳馬町 高島屋吳服店  
 東京日本橋 白木屋吳服店  
 東京今川橋 松屋吳服店  
 東京日本橋 川口興兵衛氏  
 東京室町 三共株式會社  
 東京京橋 三輪屋吳服店

佐賀縣佐賀郡 古賀藤一郎氏  
 上州四萬温泉 田村茂三郎氏  
 金澤山中温泉 山口長房氏  
 若松市七日町 白木屋漆器店  
 東京島嶼 久保田金傳氏  
 石川縣立 高等工學校  
 同 印刷部  
 中華民國武昌 甲種工業學校  
 東京 學習院女學部  
 高岡市 日本プリント工場  
 熊本縣鹿本 鹿本中學校

和歌山 佐本村小學校  
 靜岡縣沼津 駿東高等女學校  
 沖繩那霸區 安里漆器店  
 天津日本租界 東和印刷局  
 東京京橋 茨城探炭株式會社  
 東京竹川町 資生堂化粧品部  
 東京西紺屋町 電氣局  
 東京日本橋 新弘社圖按部  
 東京本郷 東京圖按所  
 東京築地 女子美術學校  
 東京府立工藝學校  
 長崎市本博多 許斐金四郎氏

大正七年八月一日印刷  
 大正七年八月五日發行  
 發行所 平安堂書店  
 東京市日本橋區金町五丁目

信 用 の 世 評

▼時事新報▲ 模倣一點張りの刻下の吾が圖按界に一道の光明を放つ者は本集の作者杉浦非水氏の獨創なり氏の卓越せる意匠は豊潤なる色彩に藉りて自然界に於ける百花の綉繡を寫し百鳥の妍姿を奪ひ神來の興味を動かす如何なる模倣の裡にも新しき生命と香氣とを横溢せしめずんば止まざる者の如し本集印刷の精巧を極め原畫の精緻の醇雅と色調の飽滿とを毫も傷くるなきに至つては私かに出版界の誇りとする所なる可し。

▼東京朝日新聞▲ 自然に對する著者独自の觀察と表現とは圖按家にして他に匹敵なきを知らしむ其の材料の取扱の巧妙にして自在なる色調の豊麗にして浮華ならざることを諸般の方面に應用するに於て其の當事の人に得易からざる參考たるべき素より疑なしなほ印刷も古來の木版手摺の法に現代の新考案を加ふさいひ本版には手摺三十回に及べりものありと稱するだけありて確に群を



表紙の圖案



本文の內容



本文の內容



本文の內容

既にアナタ方は此の圖按を御手許に御備へになりまし

御 購 入 の 者 の 一 部

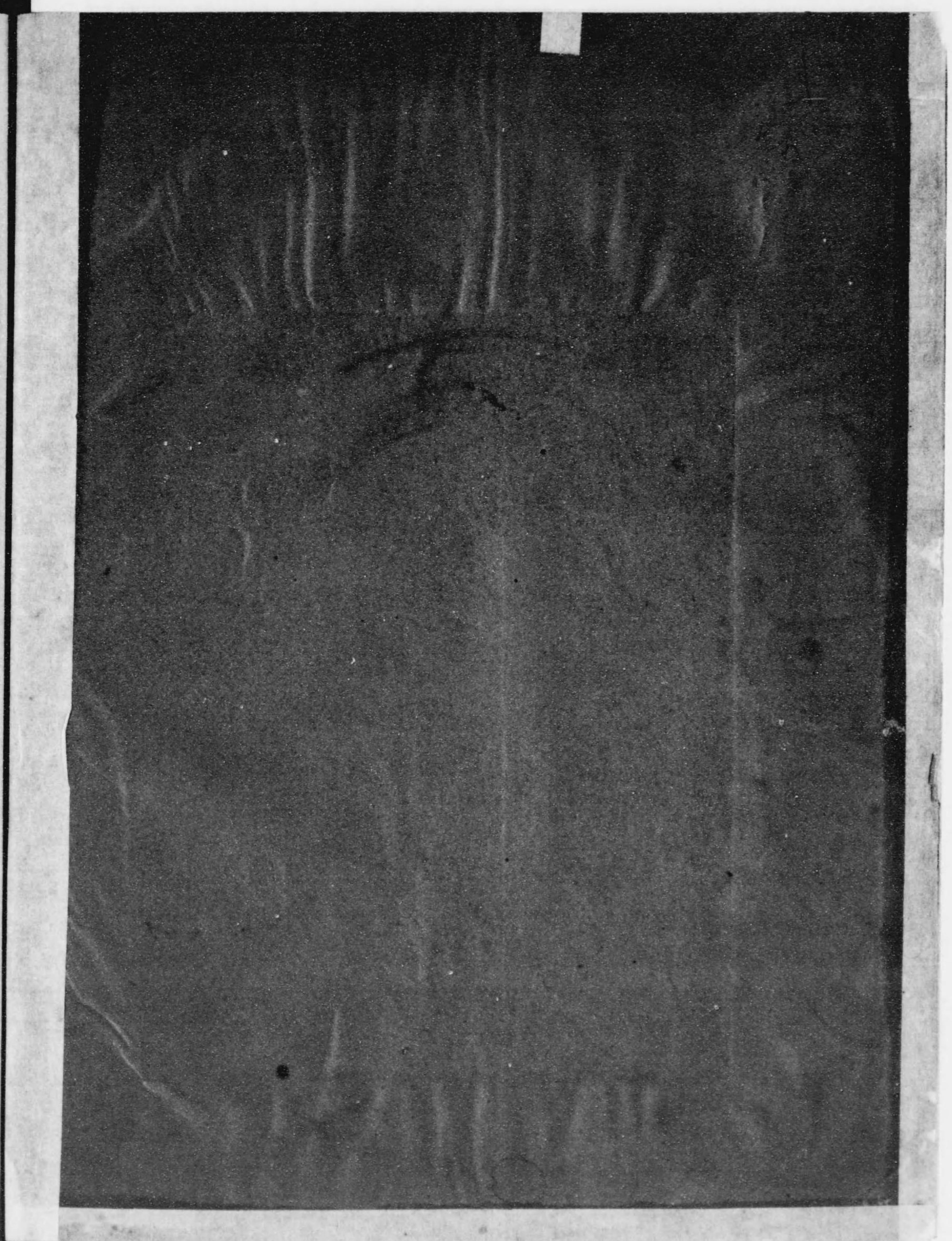
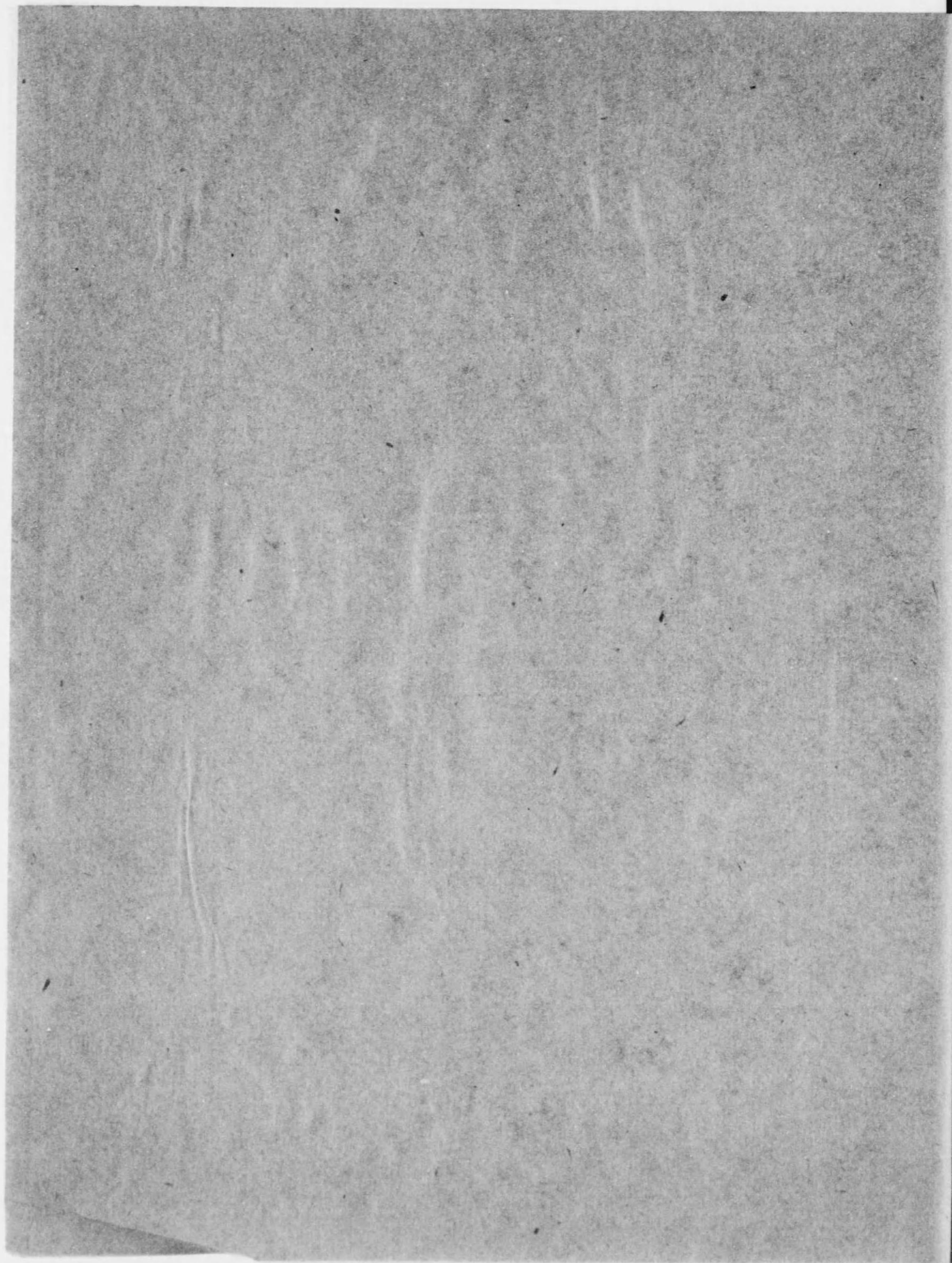
東京芝公園 伊東胡蝶園廣告部  
 東京京橋 クラブ本店  
 大阪北濱 住友總本店營業課  
 東京本郷 透花商 倉持本店  
 東京日本橋 三越吳服店  
 東京京橋南傳馬町 高島屋吳服店  
 東京日本橋 白木屋吳服店  
 東京今川橋 松屋吳服店  
 東京日本橋 川口與兵衛氏  
 東京室町 三共株式會社  
 東京京橋 三輪屋吳服店

佐賀縣佐賀郡 寧の梅園造元 古賀讓一郎氏  
 上州四萬温泉 田村茂三郎氏  
 金澤山中温泉 山口長房氏  
 若松市七日町 白木屋漆器店  
 東京巢鴨 久保田金僊氏  
 石川縣立 高等工學校  
 同 影刻部  
 中華民國武昌 甲種工業學校  
 東京 學習院女學部  
 高岡市 日本プリント工場  
 熊本縣鹿本 鹿本中學校

和歌山 佐本村小學校  
 靜岡縣沼津 駿東高等女學校  
 沖繩那覇區 安里漆器店  
 天津日本租界 東和印刷局  
 東京京橋 茨城探炭株式會社  
 東京竹川町 資生堂化粧品部  
 東京西紺屋町 電氣局廣告取扱所  
 東京日本橋 新弘社圖按部  
 東京本郷菊阪 東京圖按所  
 東京築地 女子美術學校  
 長崎市本博多重 許斐金四郎氏

大正七年八月一日印刷  
 大正七年八月五日發行  
 正價金四圓五拾錢  
 著者 杉浦非水  
 發行者 內海懿弘  
 印刷者 三間隆次  
 印刷所 三間印刷所  
 發行所 平安堂書店

東京市日本橋區金町五番地  
 東京市日本橋區區廳三丁目十七番地  
 東京市京橋區區廳三丁目十七番地  
 東京市京橋區區廳三丁目十七番地  
 東京市日本橋區區廳三丁目十七番地  
 東京市日本橋區區廳三丁目十七番地



333

67

終